

栗林小学校校舎等建設事業等に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

# 栗林田中遺跡

## －第2分冊－

栗林小学校校舎等建設事業等に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

栗林田中遺跡－第二分冊－

二〇一九年三月

高松市教育委員会

2019年3月

高松市教育委員会

## 第IV章 科学分析

### 第1節 栗林田中遺跡の自然科学分析

辻 康男・馬場健司・山川真樹  
(パリノ・サーヴェイ(株))

#### はじめに

本報告では、近世初頭以前の埋没水田耕作土と考えられる畦畔跡を伴う堆積層の遺跡形成過程とその古環境の検討を目的に実施した、不搅乱堆積物試料の土壤薄片観察（堆積物微細構造薄片作製鑑定）と植物珪酸体分析の自然科学分析結果について述べる。

#### 1. 試料

今回の自然科学分析では、現地調査を実施しており、分析試料の採取とともに、調査区内に累重する堆積層の粒度及び堆積・土壤構造やその累重状況などの記載を行っている。その調査結果については、図173に示すとともに、結果と考察において記載している。分析試料については、第2調査区の1～5地点の5ヶ所で採取した（図5・173）。

調査区の基本層序の累重は、1地点、2地点で観察される。このうち1地点では、畦畔検出層準の6層と、これを被覆する洪水砂層の5層最下部及び畦畔検出層準の基盤層の7層までの、調査区の基本層序に相当する不搅乱堆積物試料を連続的に採取した（図173写真1・2）。本地点では、堆積物微細構造薄片作製鑑定と植物珪酸体分析を実施する。堆積物微細構造薄片作製鑑定では、7層上部～最上部から5層最下部までの一連の堆積・土壤構造の層位の変化の観察と記載のために、2枚の連続した土壤薄片を作成する。植物珪酸体分析は、層位的な化石群集変化を捉えるため、6層の上部と下部（試料番号1、2）、6層直下の7層最上部（試料番号3）、7層上部（試料番号4）で分析を実施する。層位的な植物珪酸体分析は、2地点の6層（試料番号1）と7層（試料番号2）でも行う（図173写真3）。

なお、水田耕作土の可能性のある6層では、空間的な化石群集の動態を把握することも必要と考えられた。この分析目的に対しては、互いに接続した3地点、4地点、5地点において、側方へ連続して6層を採取している（図173写真4）。これらの分析地点では、3地点（試料番号1）、4地点（試料

番号1）で6層内の中央部、5地点（試料番号1、2）で6層内の上部と下部の分析を実施する。

#### 2. 分析方法

##### (1) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタンクスチレン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）及び葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤（2010）の分類を参考に同定し、計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、乾土1gあたりの植物珪酸体含量（同定した数を乾土1gあたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100個/g未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は10の位で丸める（100単位にする）。

##### (2) 堆積物微細構造薄片作製鑑定

土壤薄片作成試料は、80°Cで1日間乾燥した後、樹脂（ペトロボキシ及びシアノボンド）で固化を行い、片面の研磨を実施した。固化及び研磨済み試料は、スーパーセメダインにより研磨面をスライドガラスに接着する。その後、反対側の面について厚さ70μm程度まで研磨を行い、カナダバルサムによりカバーガラスを接着した。なお、土壤薄片による層相や構造記載は、久馬・八木久沢監修（1998）の「土壤薄片記載ハンドブック」を参照した。

#### 3. 結果と考察

植物珪酸体分析結果を表1、図174、土壤薄片画像を図175～177に示す。

分析地点の基本層序は、試料採取地点の1地点で示されるように、表土から下位に向かって1層から7層に区分される（図173）。以下に、基本層序の地質学的な記載を示す。

発掘調査で設定された深度最下部には、オリーブ

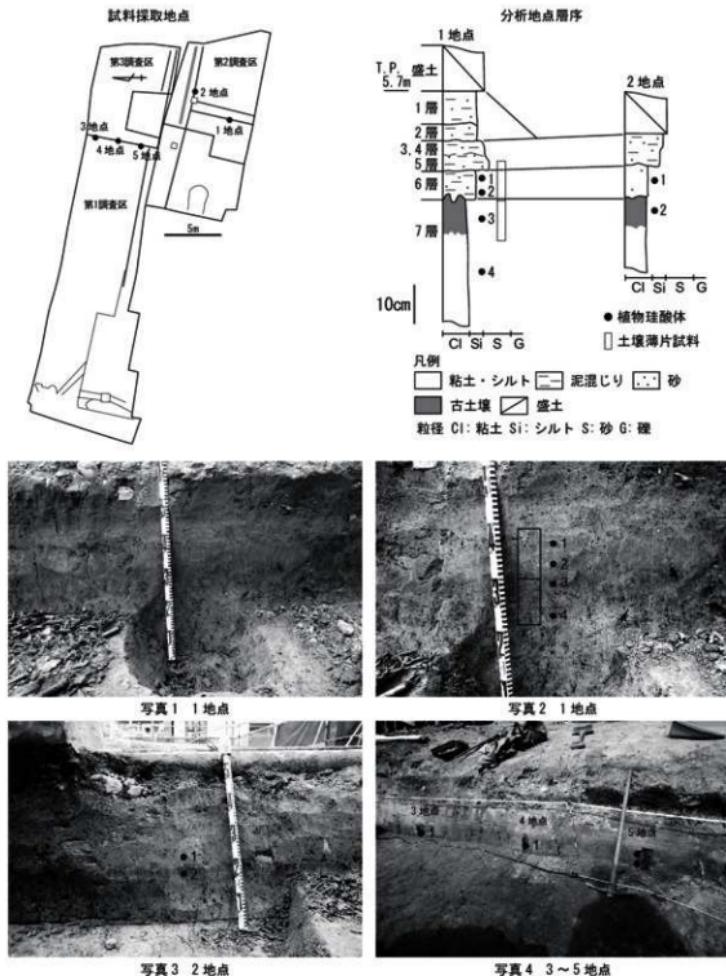


図 173 分析試料採取状況

褐色で砂質粘土質シルトの7層が累重する。本層は、弥生時代から奈良時代の遺構・遺物の検出面となる。この7層については、層内から出土遺物や放射性炭素年代値が得られておらず、堆積年代が不明である。7層の直上には、畦跡を伴う灰色ないし黄灰色で砂質シルトないし砂質粘土シルトの6層が載る。発掘調査結果及び遺跡周辺の歴史的環境から、6層の形成時期は、近世初頭以前と判断されている。本層は、直下の7層と直上の4、5層に比べ、土色が著しく灰色化している(図173写真1・2)。6層を層状に被覆する5層は、暗灰黄色のシルト混じりの中粒砂～粗粒砂からなる。現地の堆積層観察では、層内において不明瞭な平行葉理が部分的に確認されるが、全体的には塊状の堆積構造をなすと認識される。このような堆積構造から、5層は上位からの土壤化の影響を受けた洪水堆積物と考えられる。発掘調査結果及び遺跡周辺の歴史的環境から、5層の形成時期は、中世～近世初頭と判断されている。4層、3層は、暗灰黄色ないし灰黄褐色を

呈する塊状無層理をなす砂質シルトである。3層について、4層に比べ側方への連続性が悪く、部分的にしか存在していない。層相から、これらの堆積層では、土壤生成が生じていたことが推定される。4層、3層の時期については、中世～近世初頭と判断されている。砂質シルトを主体とする赤褐色の2層、灰色の1層は、近世以降の水田構成層である(図173写真1・2)。土壤学的特徴からは、1層が水田作土、2層は作土直下の緻密層である鶴床層に対比されると考えられる。

上記のような基本層序のうち、7層上部から5層最下部では、連続的な土壤薄片の観察から、詳細な堆積・土壤構造の記載と検討を行っている。次に、土壤薄片観察結果とその解釈を述べていく。

7層上部～最上部については、7-1層から7-3層に細分される(図175)。7-3層では、直上の7-2層よりも基質部分に腐植や微粒の炭質物を多く含む(図176写真1～4)。層内の腐植や微粒の炭質物は、7-3層の下位にむかって漸移的に減少していく。

表1 植物珪酸体含量

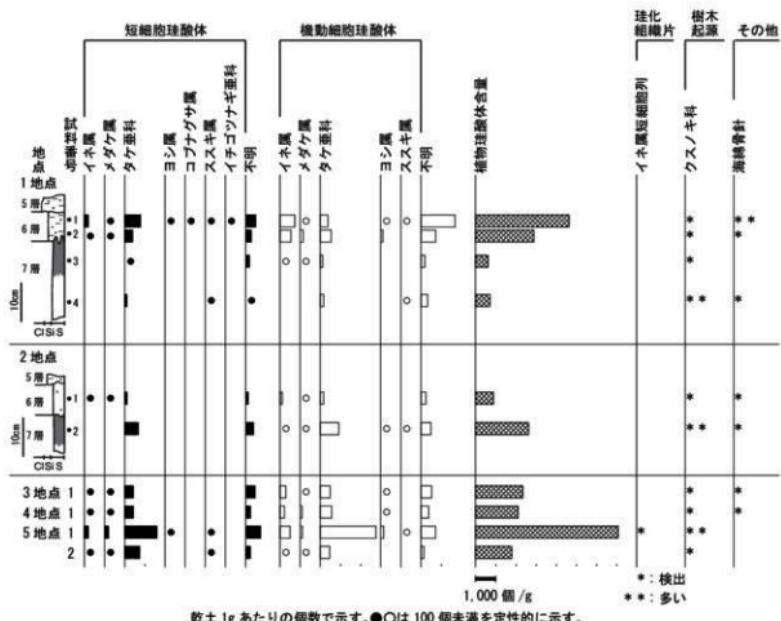
分類群	1地点				2地点		3地点		4地点		5地点	
	1	2	3	4	1	2	1	1	1	1	1	2
<b>イネ科葉部短細胞珪酸体</b>												
イネ属	200	<100	—	—	<100	—	<100	<100	200	<100	200	<100
メダケ属	<100	<100	—	—	<100	—	<100	<100	200	<100	200	<100
タケア科	800	400	<100	100	100	700	400	400	1,600	700	—	—
ヨシ属	<100	—	—	—	—	—	—	—	<100	—	—	—
コブナグサ属	<100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ススキ属	<100	—	—	<100	—	—	—	—	<100	<100	—	—
イチゴツナギア科	<100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
不明	500	300	200	<100	100	400	500	200	700	200	—	—
<b>イネ科葉身機動細胞珪酸体</b>												
イネ属	700	500	<100	—	100	<100	300	200	500	<100	—	—
メダケ属	<100	200	<100	—	<100	<100	<100	100	100	<100	—	—
タケア科	400	500	100	200	200	900	500	600	2,800	500	—	—
ヨシ属	<100	100	—	—	<100	<100	<100	<100	200	—	—	—
ススキ属	<100	—	—	<100	—	<100	—	—	<100	—	—	—
不明	1,700	700	200	300	200	500	500	400	700	100	—	—
<b>合計</b>												
イネ科葉部短細胞珪酸体	1,700	800	300	200	300	1,100	1,000	800	2,800	1,100	—	—
イネ科葉身機動細胞珪酸体	3,000	2,100	400	500	600	1,600	1,400	1,300	4,300	700	—	—
植物珪酸体含量	4,700	2,900	700	700	900	2,700	2,400	2,100	7,100	1,800	—	—
<b>珪化組織片</b>												
イネ属短細胞列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	*	—
樹木起源珪酸体	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	**	*
クスノキ科	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	**	*
<b>その他</b>												
海綿骨針	**	*	—	*	*	*	*	*	*	*	—	—

含量は、10の位で丸めている(100単位にする)

合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている

<100: 100個/g未満

—: 未検出 \*: 検出 \*\*: 多い



乾土 1gあたりの個数で示す。●○は100個未満を定性的に示す。

図 174 植物珪酸体含量

このような状況は、7-3層の下部（図 176 写真 1）と上部（図 176 写真 2）との顕微鏡写真的比較することから認識される。7-3層内では、大半が植物の根に由来するとみられるチャンネル孔隙が形成される（図 176 写真 1）。これらの特徴にもとづくと、7-3層では、土壤生成が進行していたと判断される。7-2層については、砂屑物主体の構成層となっている（図 176 写真 5）。孔隙は、水平方向の面状孔隙が形成されている。このような特徴から、7-2層は、7-3層を埋没させた洪水堆積物と考えられる。7-1層は、土壤薄片作製標準の7-3層下部の土壤微細構造に類似する（図 176 写真 6）。このことから、7-1層は、土壤生成層準の下部に相当すると推定される。

これらの観察結果から、土壤薄片観察を行った7層上部～最上部の層準は、洪水砂の流入を挟みながら土壤生成が進行した堆積層と考えられる。

近世初頭以前の畦跡の検出層準である6層は、直下の7-1層と不連続に累重する（図 176 写真 7・8）。

8) 層内には、孔隙がほとんど形成されておらず、分離した粒團や微小な偽礫（ブロック土）も確認されない。このような6層では、壁状の土壤微細構造をなしており、垂直方向への土壤構造の変化がほとんど認められない（図 175）。また、層内では、堆積構造も観察されず、無構造である塊状無層理をなしている。このような堆積構造は、現地での肉眼による層相観察によって確認される。6層については、7層よりも砂粒を相対的に多く含んでおり（図 176 写真 7）、それらは基質内に単粒で散在的に分布する傾向がある（図 177 写真 11・12）。

以上のことから、6層では、顕著な堆積・土壤構造が認められない塊状無層理もしくは壁状構造を示し、さらに7-3層のような土壤化に伴う上位にむかっての基質への腐植などの漸移的な蓄積状況が観察されないことが確認される。このような特徴から、6層については、運搬・堆積時に形成される初生の堆積構造と、その後に地表化した段階に生成した土壤化作用に伴う土壤構造の双方が、失われた状態に

あるとみなされる。堆積及び土壤構造が失われるような条件としては、その蓋然性の高い要因の1つとして、構成層において何らかの強い地表擾乱營力が作用したことが疑われる。現地での堆積層観察では、塊状無層理をなす6層が、調査区内において垂直方向及び水平方向へ広く連続することが確認される。これらの状況をふまえると、6層については、ある程度の空間的な広がりをもって、堆積層の全体に及ぶような地表擾乱を受けた可能性が示唆される。

なお、地表擾乱が生じた堆積物については、大気下にあり気相の割合が多い場合と、湿地や滯水地など含水率の高く液相の割合が多い場合とで、生成される土壤微細構造が異なることが予想される。液相状態が強い場合には、構成層が水和傾向にあり、これにより粘土の膨張や砂粒子をつなぎとめている結合物質が可動化しやすくなっている。このような状態では、堆積物が容易に流動するので、地表擾乱によって生じた堆積物間や粒子間の隙間である孔隙がすみやかに充填されていく。このため、層内では、孔隙の生成率が低く、壁状構造やそれに近い構造が形成されると考えられる。これに対し、気相状態が強い場合には、水和による結合物質の可動化が起こりにくく、堆積物の粒子間結合が液相状態よりも相対的に強い状態となる。このため、このような状態では、地表擾乱によって、堆積物間に不定形な隙間（バグ孔隙）や粒子間の隙間（パッキング孔隙）である孔隙が生じやすい。さらに、粒子間結合が高いために、擾乱時には堆積物が粒子単位に崩壊せず、偽礫や微細なブロック土などの集合状態を保持したまま残存しやすい。このような土壤条件の違いによる地表擾乱の生成過程にもとづくと、6層で擾乱作用が生じたと考えた場合には、液相状態ないし

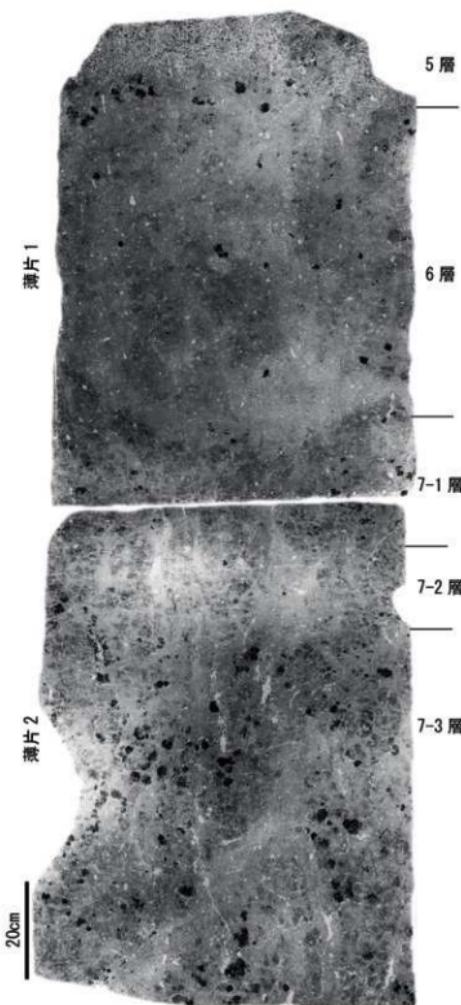


図 175 土壤薄片画像

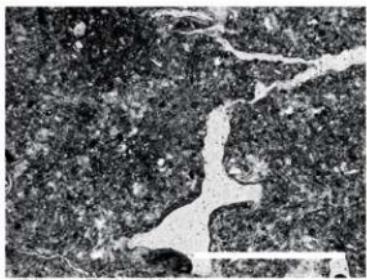


写真1 7-3層下部（下方）

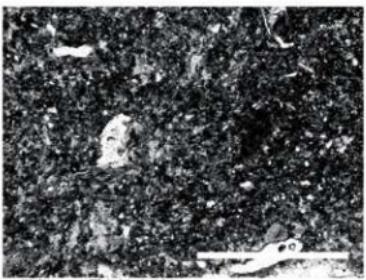


写真2 7-3層上部（下方）

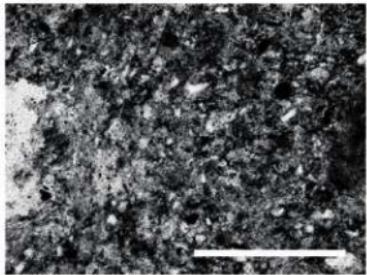


写真3 7-3層上部（下方）

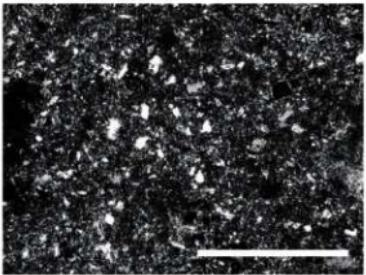


写真4 写真3の直交ボーラ（直交）

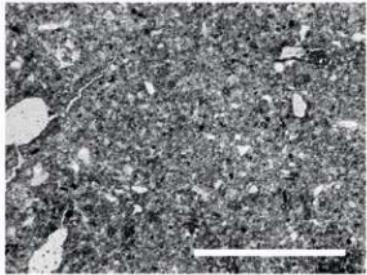


写真5 7-2層（下方）

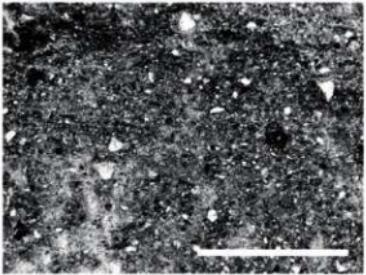


写真6 7-1層（下方）

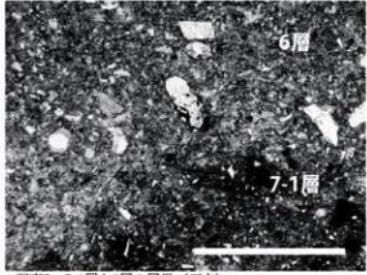


写真7 7-1層と6層の層界（下方）

・括弧内の用語は、下方が下方ボーラ、直交が直交ボーラを指す

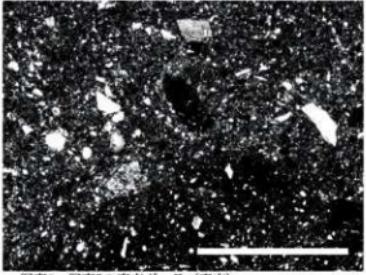


写真8 写真7の直交ボーラ（直交）

スケールは写真3, 4が0.5mm、残りは1.0mm

図176 土壤薄片画像部分（その1）

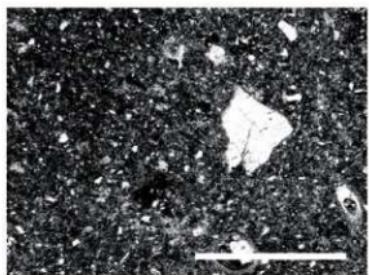


写真9 6層中部（下方）

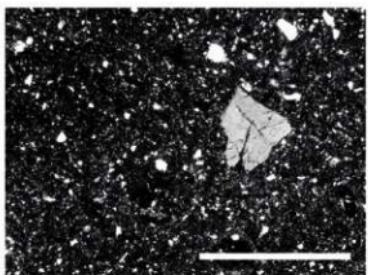


写真10 写真9の直交ボーラ（直交）

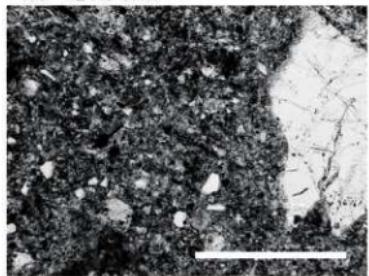


写真11 6層中部（下方）

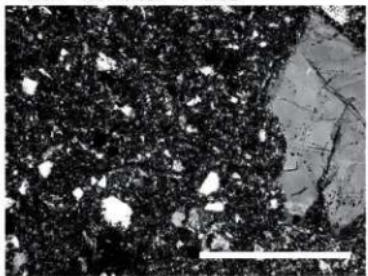


写真12 写真11の直交ボーラ（直交）

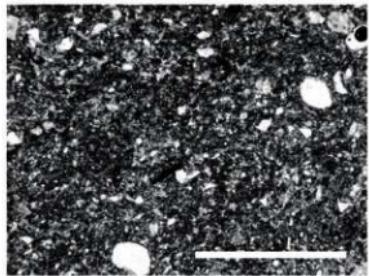
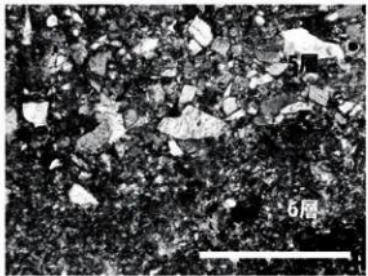


写真13 6層上部（下方）



6層

写真14 6層と5層の層界（下方）

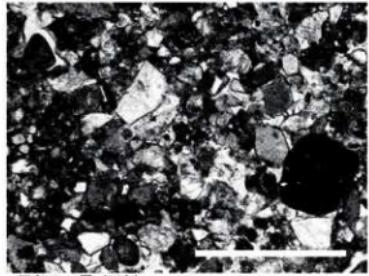


写真15 5層（下方）

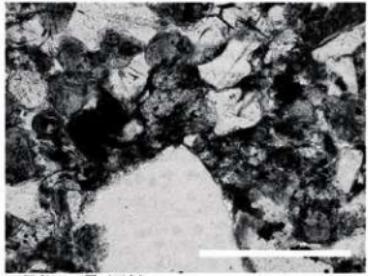
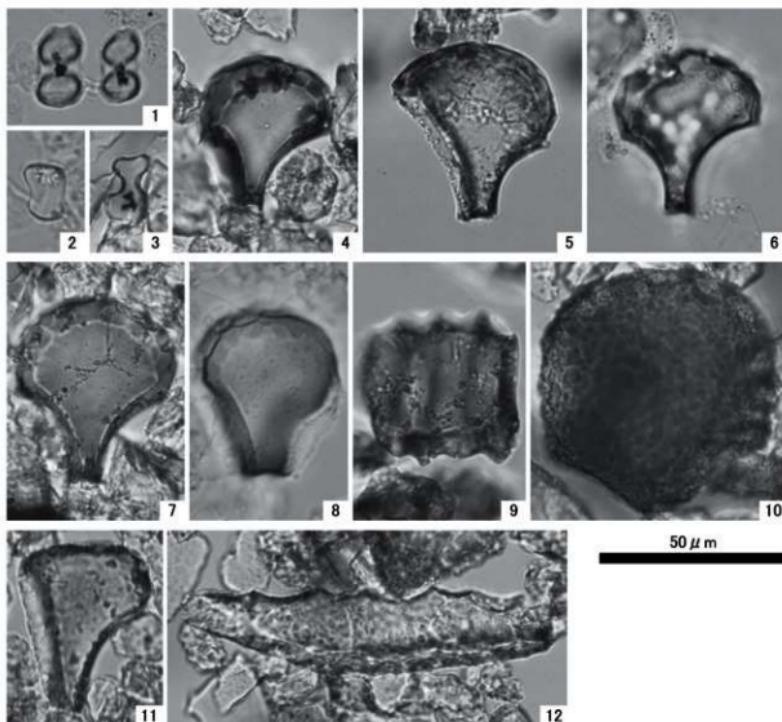


写真16 5層（下方）

・括弧内の用語は、下方が下方ボーラ、直交が直交ボーラを指す

スケールは写真11, 12, 16が0.5mm、残りは1.0mm

図177 土壌薄片画像部分（その2）



1. イネ属短細胞(5地点:1)
2. メダケ属短細胞珪酸体(5地点:1)
3. ススキ属短細胞珪酸体(1地点:1)
4. イネ属機動細胞珪酸体(1地点:1)
5. イネ属機動細胞珪酸体(1地点:2)
6. イネ属機動細胞珪酸体(2地点:1)
7. イネ属機動細胞珪酸体(4地点:1)
8. イネ属機動細胞珪酸体(5地点:1)
9. メダケ属機動細胞珪酸体(1地点:2)
10. ヨシ属機動細胞珪酸体(1地点:2)
11. ススキ属機動細胞珪酸体(1地点:1)
12. 樹木起源(クスノキ科)(1地点:1)

図 178 植物珪酸体

それに近い状態であった可能性のほうが高いと考えられる。

上記のような土壤微細構造が認識される6層については、発掘調査により畦畔跡の遺構が検出されている。さらに、植物珪酸体分析では、6層基盤の7層で栽培種のイネ属が産出しないのに対し、水田層とみなされる6層で100 個/g未満～700 個/g程度と少ないながら、全ての分析地点で短細胞列を含むイネ属が産出している。植物珪酸体分析結果及びこれまで述べてきた土壤薄片観察結果にもとづく

と、6層の土壤微細構造の生成要因として、蓋然性の高い解釈のひとつとしては、水田耕作に伴う代かきなどによる液相ないしそれに近い状態となった堆積物での人為的な強い地表擾乱があげられる。

既往の土壤微細形態学的研究では、耕作土において繰り返される耕耘によって粒團が消滅していく、無構造へと変化していくことが確認されている(Adderley et al.2010)。また、耕作土のうち、液相状態ないしそれに近い状態で耕耘が行われる水田耕作土では、湛水下でのしづかきによる作土の泥化と、

還元化をともなう水和膨張及び結合物質の可動化による粒子間結合力の弱化による粒群ないし偽礫の崩壊により、主に壁状構造が生じることが報告されている（齊藤, 1971; Adderley et al., 2010）。水田耕作土において壁状構造が形成される事例は、静岡県静岡市の登呂遺跡での弥生時代後期の埋没水田（松田, 2006）や、韓国の埋没水田（Lee et al., 2014）の考古遺跡での土壤薄片観察からも確認されている。このうち登呂遺跡での土壤薄片観察結果では、炭片、植物片、微細なブロック土など含み、粒度組成も不均質で、これらがよく混在した壁状の土壤微細構造をなすことが指摘されている（松田, 2006; 松田ほか, 2007）。6層が水田耕作土であることは、これら既往の耕作土の土壤微細形態学的研究からも強く支持される。

以上のことを総合的にふまえると、6層については、近世初頭以前に形成された水田構成層であると判断される。この水田構成層の6層の基盤層をなす7層については、植物珪酸体分析により、乾燥した土地条件を好むタケア科（メダケ属を含む）が多産することが確認される。この分析結果から、水田構築以前に今回の調査区やその近傍では、地下水位が低く好気的土壤環境が維持されるような地表環境が広がる氾濫原であったと解釈される。土壤微細形態学的特徴から、7層のうち6層直下の7-1層では、土壤生成層の下部付近の層準のみが存在していると解釈される。この7-1層を直接覆う6層には、基質に腐植や微粒の炭質物が多く含まれる（図177写真9・11・13）。7-1層と6層での土壤微細構造をふまると、6層に含まれる腐植や微粒の炭質物の由来については、7-1層上部に存在していた地表最上部付近の土壤生成層であったことが想定される。従って、6層の水田構成層は、比較的高燥で土壤生成が進行しつつあった氾濫原表層堆積物を母材として形成された可能性が指摘される。発掘調査では、7層上面において弥生時代から奈良時代の遺構・遺物が検出されるとともに、7層を薄く被覆する6層において古代の遺物が比較的多く確認されている。これらの発掘調査結果にもとづくと、分析地点の地表環境は、弥生時代から中世まで堆積物の流入がほとんどなく極めて安定しており、土壤生成が進行していたと考えられる。このことから、今回の分析地点とその近傍の領域は、周囲の氾濫原面より相対的に高く、弥生時代以前に既に微高地と

なっていたことが予想される。

いっぽう、水田構成層の6層では植物珪酸体分析結果としては、基盤層の7層と異なり湿った場所を好むヨシ属が随伴する傾向が強まることが着目される。この他、1地点で産出した湿った場所を好むコブナグサ属は、埋没水田土壤において、イネ属とともに随伴する傾向のある種類であることが報告されている（江口, 2005）。ただし、6層内には、未分解の植物遺体の挟在がまったく認められない。未分解の植物遺体については、水田基盤の7層でも存在しないことが土壤薄片観察から確認される。

これらの土壤薄片観察と植物珪酸体分析の結果、さらに現地での堆積物観察及び遺跡の立地環境にもとづくと、近世初頭以前の6層の水田は、氾濫原の地下水位が低く、灌漑によって人工的に水を供給しないと、湛水や湿润状態とならないような乾田であった可能性がうかがえる。従って、6層でのヨシ属やコブナグサ属の随伴傾向は、灌漑水により人工的に湿润地が形成された地表環境の変化を示していると考えられる。

このような地表環境が推察される6層では、土色が灰色化していることにも注目される。また、本層では近世以降の2層、1層の水田構成層のような鍬床層と作土のセットが認識できないことも特徴である。水田作土での土色の灰色化については、鉄やマンガンの還元溶脱が顕著であったことを示唆しており、灌漑される地下水位の低い水田土壤で発達するとされる（永塚, 2014）。そして、このような著しい還元溶脱は、稻の生育に悪影響が及ぶとされる（永塚, 2014）。6層の灰色化については、上記したような地下水位の低い灌漑水田であったことを支持する土壤の特徴である可能性がある。ただし、6層での灰色化は、中世段階で生じていたのか、埋没後に生じたのか、現段階で特定できていない。6層において鍬床層と作土のセットが観察されない点については、土壤薄片観察においても本層の最下部において鍬床層に相当するような緻密化した部分を認めることができなかった。このことから、近世初頭以前の6層では、近世以降の2層、1層と異なり鍬床層を形成するような水田造成なし耕作方法ではなかったことがうかがえる。ただし、鍬床層の欠如については、基盤をなす7層が泥質で孔隙なども少ないとから、水田下層への水の漏出が防げたことが要因の1つとなっていることも想定され

る。現段階では、観察地点が本地点に限られるため、当時の耕作方法にまで言及することが難しい。

上記のような堆積・土壤環境が推定される6層の水田構成層では、最下部から最上部まで土壤微細構造がほぼ変化せずに、洪水砂層であるパッキング孔隙が発達する単粒状構造の砂層である5層)によって被覆される(図177写真14~16)。よって、洪水層による水田面の被覆は、耕作が放棄され雑草が繁茂するような状態になった段階ではなく、水田が維持管理されていた期間に発生したと考えられる。5層より上部では、薄いながら堆積物が被覆され、これを母材として主に近世以降の耕作土や土壤化層準が形成されている。このことから、中世ないしそれ以降には、分析地点において氾濫堆積物の流入が、7層段階に比べ顕著となった可能性が示唆される。また、このような堆積環境変化からは、遺跡周辺に存在する流路の河床上昇といったような河川地形の変化が想定される。本遺跡は、香東川が形成した扇状地前面の沖積氾濫原面上に立地している。今回の発掘調査結果をふまえると、調査区周辺の氾濫原面は、中世以前から弥生時代以前のある時期の長期にわたって、堆積環境が安定した状態にあったと判断される。しかし、現状では本遺跡とその周辺における沖積層の年代や層序に関するデータが乏しく、積環境変遷や地形発達史について不明な点が多い。さらに、中世の水田の形成過程についても、鉢床層が伴わないことや、本層を特徴づける顕著な灰色化など、その要因を特定できていない課題も多い。これらについては、今後の検討課題と認識される。

#### 【引用文献】

- Adderley W.P. & Wilson C.A. & Simpson I.A. & Davidoson D.A., 2010, Anthropogenic feature Interpretation of Micromorphological Features of Soils and Regoliths, Elsevier, 569-588.
- 江口誠一, 2005 「水田雑草の植物珪酸体形態とその遺跡からの痕跡」, 考古学と自然科学, 51, 1-9.
- 近藤鍊三, 2010, プラント・オ・パール図譜, 北海道大学出版会, 387p.
- 久馬一剛・八木久義訳監修, 1989, 土壌薄片記載ハンドブック, 博友社, 176p.
- Lee H-H,French,C.A.I,Macphail,R.L,2014,Microscopic Examination of Ancient and Modern Irrigated Paddy Soils in South Korea, with Special Reference to the Formation of Silty Clay Concentration Features, Geoarchaeology,29-4,326-348.

松田順一郎, 2006, 流路・氾濫原堆積物から推測される約3100~1200年前の登呂遺跡における環境変化, 特別史跡登呂遺跡内発掘調査報告書(自然科学分析・総括編), 静岡市教育委員会, 1-27.

松田順一郎・辻 康男・岡村 涉, 2007, 墓没水田及び現世水田にみられる土壤微細形態の比較—静岡市登呂遺跡の事例を中心—, 日本国文化財科学会第24回大会研究発表要旨, 日本国文化財科学会, 166-167.

永塚鏡男, 2014, 土壤生成分類学 改訂増補版, 義賢堂, A02p.

齊藤万之助, 1971, 水田土壤の凝集性, 土木試験所報告, 56, 1-49.

## 第2節 栗林田中遺跡の自然科学分析（その2）

辻 康男・馬場健司・山川真樹  
(パリノ・サーヴェイ株式会社)

はじめに

本報告では、畦畔が検出された堆積層を中心とする堆積過程や土地利用の検討を目的として、これを被覆する砂層最下部からその基盤層までの層準で実施した、現地野外調査及び土壤薄片観察と植物珪酸体分析結果を述べる。

### 1. 試料

分析試料は、第17調査区内の2ヶ所で採取した(図5)。1地点では、土壤薄片試料2点(①・②)、植物珪酸体分析試料7点(1-1～1-7)を採取した。2地点では、植物珪酸体分析試料3点(2-1～2-3)を採取した。図180に試料採取地点の柱状図と分析試料の位置、図179写真1～4に採取状況を示す。

### 2. 分析方法

#### (1) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ボリタングステン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュラックスで封入してプレパラートを作製する。

400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)及び葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)、及びこれらを含む珪化組織片を近藤(2010)の分類を参考に同定し、計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量(同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算)を求める。結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100個/g未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は10の位で丸め(100単位にする)。また、植物珪酸体含量を試料ごとに図示する。

#### (2) 堆積物微構造薄片作成鑑定

土壤薄片作成試料は、80°Cで1日間乾燥した後、樹脂(ペトロポキシ及びシアノポンド)で固化を行

い、片面の研磨を実施した。固化及び研磨済み試料は、スーパーセメダインにより研磨面をスライドガラスに接着する。その後、反対側の面について厚さ70μm程度まで研磨を行い、カナダパルサムによりカバーガラスを接着した。なお、土壤薄片による層相や構造記載は、久馬・八木訳監修(1998)の「土壤薄片記載ハンドブック」を参照した。

### 3. 結果

#### (1) 植物珪酸体分析

分析結果を表2、図181に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、概して保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。

1地点の植物珪酸体含量は試料番号1-7(以下、試料番号を略す)と1-6で少なく、いずれも約1,700個/gである。その上位の試料では含量が増えて、1-5が約4,600個/g、1-4が約8,700個/gとなる。この上位では、急激に増加して、1-3で約18,200個/g、1-2で約20,900個/gに増加するが、1-1では約17,100個/gに減少する。

稲培植物であるイネ属は1-6から上位で連続的に産出する。1-6では機動細胞珪酸体のみで100個/g未満、1-5では短細胞珪酸体が100個/g未満、機動細胞珪酸体が200個/g程度、1-4では短細胞珪酸体が600個/g程度、機動細胞珪酸体が900個/g程度、1-3では増加して短細胞珪酸体が約1,900個/g、機動細胞珪酸体が約2,300個/g、1-2では更に増加して短細胞珪酸体が約2,500個/g、機動細胞珪酸体が約2,900個/g、1-1では減少して短細胞珪酸体が約1,600個/g、機動細胞珪酸体が約2,200個/gである。また、1-3から上位では穎珪酸体や短細胞列も検出され、1-2と1-1では穎珪酸体が多い。

イネ属以外にはメダケ属を含むタケ亜科が多く、ヨシ属、ススキ属、イチゴソナギ亜科などがわずかあるいは稀に認められる。

2地点の植物珪酸体含量は、2-3、2-2、2-1で18,000個/g前後である。いずれの試料からもイネ属が産出し、2-3で短細胞珪酸体が700個/g程度、機動細胞珪酸体が約1,200個/g、2-2で短細胞珪酸体が約1,600個/g、機動細胞珪酸体が約2,200個/g、2-1で短細胞珪酸体が約1,800個/g、機動細胞珪酸体が約2,200個/gである。2-2、2-1では穎珪酸体や短細胞列も多い。

イネ属以外にはメダケ属を含むタケ亜科が多く、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科などがわずかあるいは稀に認められる。

なお各試料からは、イネ科起源の他に草本類のカヤツリグサ科、樹木起源のクスノキ科も検出される。カヤツリグサ科は、1-2、1-3で非常に多い。クスノキ科は1-3、1-4、1-7で多い。また植物珪酸体の他に海綿骨針も検出される。

## (2) 堆積物微細構造薄片作製鑑定

土壤薄片は、後述の層序の部分で説明を行っているⅢ層最下部、Ⅳ層、Ⅴ層、Ⅵ層最上部において層位的に連続する2枚の薄片を作成した。図182に土壤薄片画像、図183、184に顕微鏡観察画像を示す。

Ⅳ層、Ⅴ層、Ⅵ層最上部では、角塊状ないし亜塊状をなす微細構造が発達する(図182)。Ⅲ層最下部では、細粒砂～中粒砂からなる単粒状構造をなす(図183写真1)。層内には、明瞭な葉理が観察されない。Ⅲ層とⅣ層の層界は、シャープではなく乱れた様相を呈する(図183写真2)。また、Ⅳ層内には、上位のⅢ層の砂が充填された管状をなす棲管

が観察される(図183写真3)。

Ⅳ層は、砂質粘土質シルトで構成される。Ⅳ層内の角塊状ないし亜塊状の粒団は、内部が壁状の微細構造をなす(図183写真6)。ここでは、葉理などの堆積構造や土壤構造の発達が認められない。含まれる砂粒は、単体で散在的に基質の泥内に分布する。

Ⅴ層は、Ⅳ層に比べ相対的に腐植を多く含む(図183写真7)。このような特徴は、堆積層の肉眼観察においては顕著に確認されなかった。Ⅳ層とⅤ層の層界については、非常に乱れた様相を呈す(図183写真4・5)。Ⅴ層内の角塊状ないし亜塊状の粒団は、内部が壁状の微細構造をなす(図183写真8)。この壁状をなす粒団内部での層相(微細堆積相)は、上位のⅣ層と大きく異なる。Ⅴ層の粒団内には、粒状をなす腐植質に富む泥と碎屑物主体の泥の微小な集合体によって構成される(図184写真9・10)。粒状をなす集合体の発達程度は、腐植質に富む泥で相対的に良い。碎屑物主体の泥については、粒状ではなく根痕状の分布を示す部分も多い(図184写真11)。

Ⅵ層最上部は、Ⅴ層よりも相対的に腐植含量の高



写真1. 1地点試料採取地点



写真2. 2地点試料採取地点



写真3. 1地点断面と試料採取位置



写真4. 2地点断面と試料採取位置

図179 分析試料採取状況

い泥によって構成される（図184写真13）。ここでは、V層のような碎屑物主体の泥との混在がみられない（図184写真14）。

#### 4. 考察

##### (1) 層序と堆積層の観察結果

今回観察した最上部の盛土から最下部の泥層については、現段階で基本層序が定まっていないために、I層からIX層の仮の堆積番号を付けて、以下に検討を行っていく。

I層は現在の盛土・整地層である。II層は近世以降の塊状無層理をなす砂質シルトの耕作土である。III層は、中世以降の細粒砂～中粒砂からなる層状に累重する洪水砂層である。本層は、周囲の調査区でも広く分布する。本層に被覆される堆積層上面では、畦畔をともなう耕作地跡が検出されている。III層下位に累重するIV層とV層は、塊状無層理をなす砂質粘土質シルトである。このうちIII層によって直接被覆されるIV層では、堆積層上面で畦畔が検出されている。VI層は、腐植質に富む粘土質シルトである。本層では、堆積層の変形が認められる。VII層からIX層は、塊状無層理をなす粘土質シルトで構成される。VII層下部からIX層最上部にかけては、根痕状をなす酸化鉄の斑紋の沈着が著しい。VII層は、上下の堆積層よりも腐植含量が相対的に高く古土壤と考えられる。

##### (2) 土壌薄片の観察結果

III層最下部、IV層、V層、VI層最上部では、土壤薄片において層界に明瞭な乱れが確認される。また、VI層については、最上部だけでなく堆積層全体に乱れが生じていることが、現場での肉眼観察において確認される。VI層以下については、堆積層の乱れが生じているかどうか肉眼観察で確認することができない。これらのことから、少なくともIII層最下部、IV層、V層、VI層では、層位的に連続して地層が変形している可能性が高いと判断される。この変形要因については、地震動などの影響が想定されるが、現段階でこの要因を地質学的に特定するまでの情報や分析結果は得られていない。この点は、今後の課題である。

IV層、V層、VI層最上部に発達する角塊状ないし亜角塊状構造の主要な成因の1つとしては、乾湿変動があげられている（FitzPatrick,1984）。これら層の上位には、洪水層のIII層を挟んで近世以

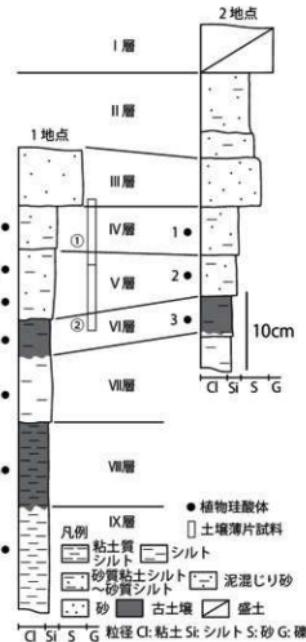


図180 分析地点の柱状図

降の水田耕作土が累重する。ここでは、酸化鉄が集積した鉱床層と灰色化した土とみられる層準のセットが認められる。このセットの下層では、酸化鉄や酸化マンガンの斑紋が発達する。このような斑紋の存在からは、近世以降の水田が乾田であったことが強く示唆される。本調査区及び隣接する調査区では、近世以降の水田耕作土の灰色化が観察される。水田耕作土の灰色化は、鉄やマンガンの還元溶脱が顕著であったことを示しており、灌漑される地下水位の低い水田土壤で発達するとされる（永塚,2014）。

上記した特徴をふまえると、IV層、V層、VI層最上部は、近世以降の水田耕作土の下層土に相当すると判断される。上位の近世以降の水田は、地下水位の低い灌漑水田であったことが想定される。このことから、この下層土に相当するIV層、V層、VI層最上部では、人為的な灌漑水のコントロールなどによって乾湿変動が激しい状態にあったことが推定される。このことから、IV層、V層、VI層最上部の角

表 2 植物珪酸体含量

分類群	1地点						2地点			
	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-1	2-2	2-3
<b>イネ科葉部切端細胞珪酸体</b>										
イネ属	1,600	2,500	1,900	600	<100	-	-	1,800	1,600	700
メダガ属	500	600	400	300	100	<100	<100	300	400	400
タケモ科	2,100	2,900	2,500	1,600	800	500	500	2,800	3,200	3,800
ヨシ属	<100	<100	<100	-	<100	-	-	<100	300	<100
ススキ属	100	100	<100	-	<100	-	-	<100	<100	-
イネノマガナ科	<100	100	<100	-	-	-	-	100	-	-
不明	3,200	2,800	2,400	700	400	100	<100	1,900	1,600	2,300
<b>イネ科葉身端細胞珪酸体</b>										
イネ属	2,200	2,900	2,300	900	200	<100	-	2,200	2,200	1,200
メダガ属	400	500	500	400	200	<100	100	500	500	600
タケモ科	2,700	3,500	3,800	2,400	1,000	700	600	3,400	3,900	4,000
ヨシ属	100	<100	-	-	100	-	-	100	200	100
ススキ属	<100	100	<100	-	-	-	-	-	100	-
不明	4,000	4,700	4,100	1,800	1,500	400	400	4,400	4,500	3,900
<b>合計</b>										
イネ科葉部短細胞珪酸体	7,600	9,000	7,400	3,200	1,600	600	600	6,900	6,900	7,300
イネ科葉身端細胞珪酸体	9,500	11,900	16,800	5,500	3,000	1,100	1,100	10,700	11,400	9,900
植物珪酸体含量	17,100	20,900	18,200	8,700	4,600	1,700	1,700	17,600	18,300	17,200
<b>延化繊維</b>										
イネ属繊維珪酸体	* *	* *	*	-	-	-	-	-	**	-
メダガ属繊維珪酸体	* *	* *	*	-	-	-	-	* *	* *	-
<b>草本類</b>										
カヤツリグサ科	***	****	***	-	*	-	-	**	**	**
根本起源珪酸体	*	*	**	**	*	*	*	*	**	*
クスノキ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>根本起源珪酸体</b>										
西藻は、100倍で求めている(100部位に対する)										
合計は各分類群のためない数字を合計した後に求めている										
(100部位/g未満)										
- : 未検出 * : 検出 ** : 多い *** : 非常に多い										

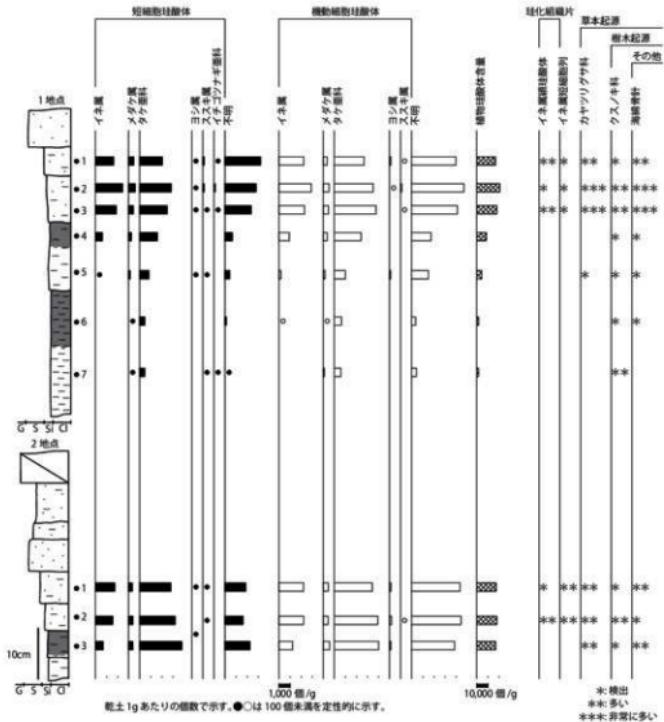


図 181 植物珪酸体含量

塊状ないし亜角塊状構造は、上位の近世以降の水田耕作に伴い生成された土壤構造と解釈される。

IV層では、発掘調査において洪水砂のIII層に被覆された畦畔が検出されている。本層の角塊状ないし亜角塊状をなす粒団内で認められる壁状構造は、水田耕作土で特徴的に生成される微細構造である(齊藤,1971)。液相状態ないしそれに近い状態で耕耘が行われる水田耕作土では、湛水下でのしきかきによる作土の泥化と、還元化をともなう水和膨張及び結合物質の可動化による粒子間結合力の弱化による粒団ないし偽礫(集合体や微細ブロック土)の崩壊により、主に壁状構造が生じるとされる(齊藤,1971)。なお、壁状の微細構造は、考古遺跡の埋没水田でも静岡県静岡市の登呂遺跡での弥生時代後期(松田,2006)や韓半島(Lee et al.,2014)でも確認されている。IV層で認められる砂粒が単体で分散する状況は、湛水下での堆積物の頻度と強度がともに高い攪拌を示唆するものと捉えられる。後述する植物珪酸体分析結果では、イネ属珪酸体が多産する分析結果が得られている。以上をふまえると、IV層は代かきなどの湛水状態での土壤攪拌が行われた水田耕作土と解釈される。

いっぽう、IV層直下のV層では、巨視的には壁状構造をなすものの、その内部の微細堆積相が大きく異なる。本層は、腐植質に富む泥と碎屑物主体の泥からなる微細で粒状をなす集合体が混在する微細堆積相の発達で特徴づけられる。腐植質に富む泥については、直下のVI層に由来すると判断される。本調査区では、V層やIV層の時期になると泥質の氾濫堆積物が流入するようになることが今回及び既往の発掘調査結果から明らかにされている。このことから、碎屑物主体の泥については、VI層を被覆した氾濫原の堆積物である可能性が高いと考えられる。

これらの堆積状況及び微細構造から、V層では、層内で腐植質に富む泥と碎屑物主体の泥が攪拌されたことが推定される。た

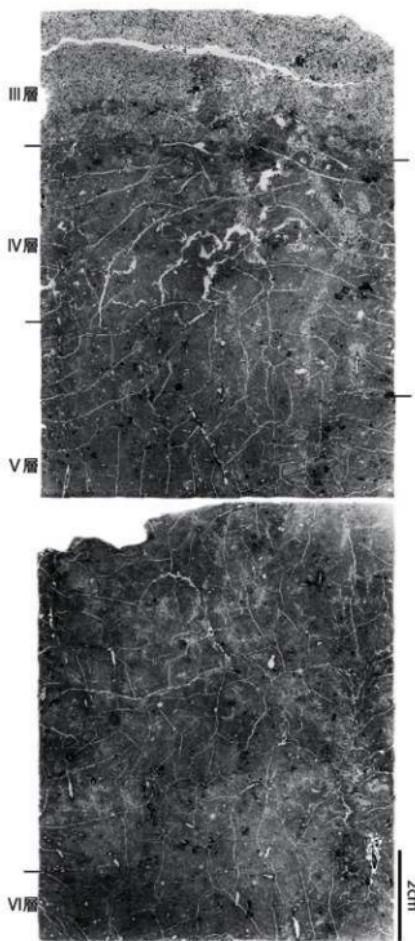


図 182 土壤薄片画像

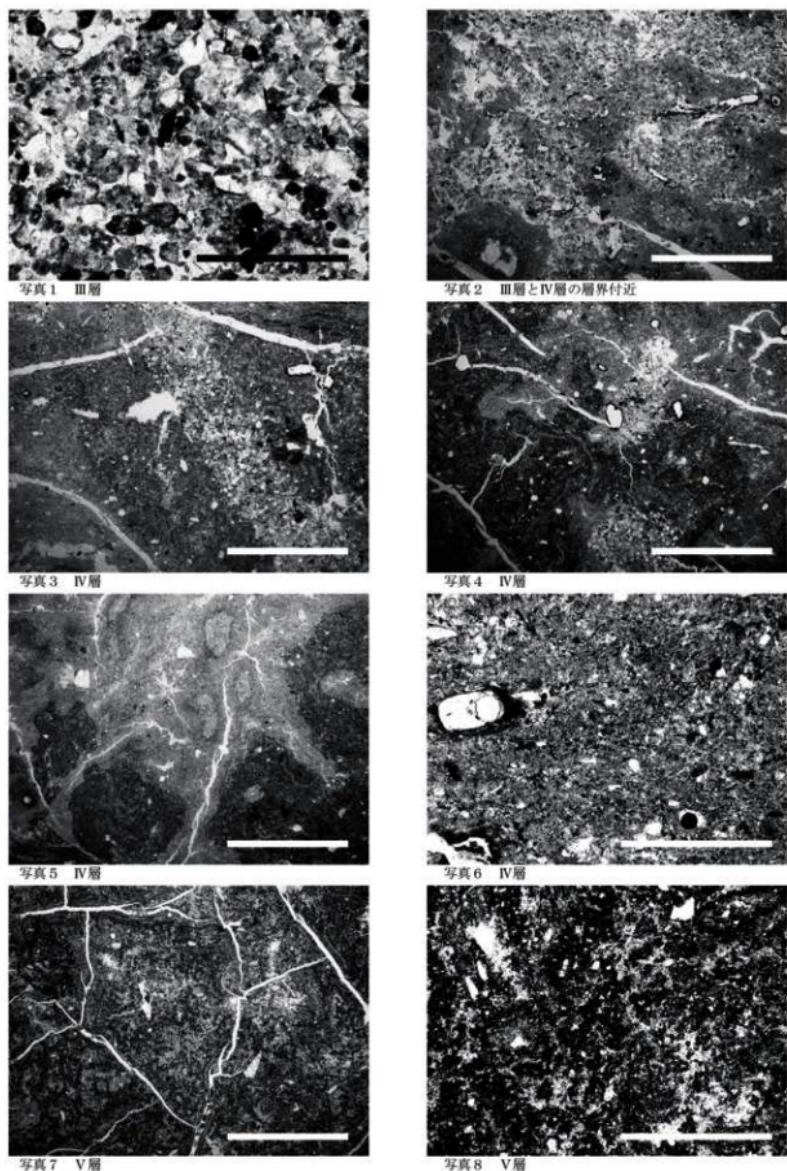
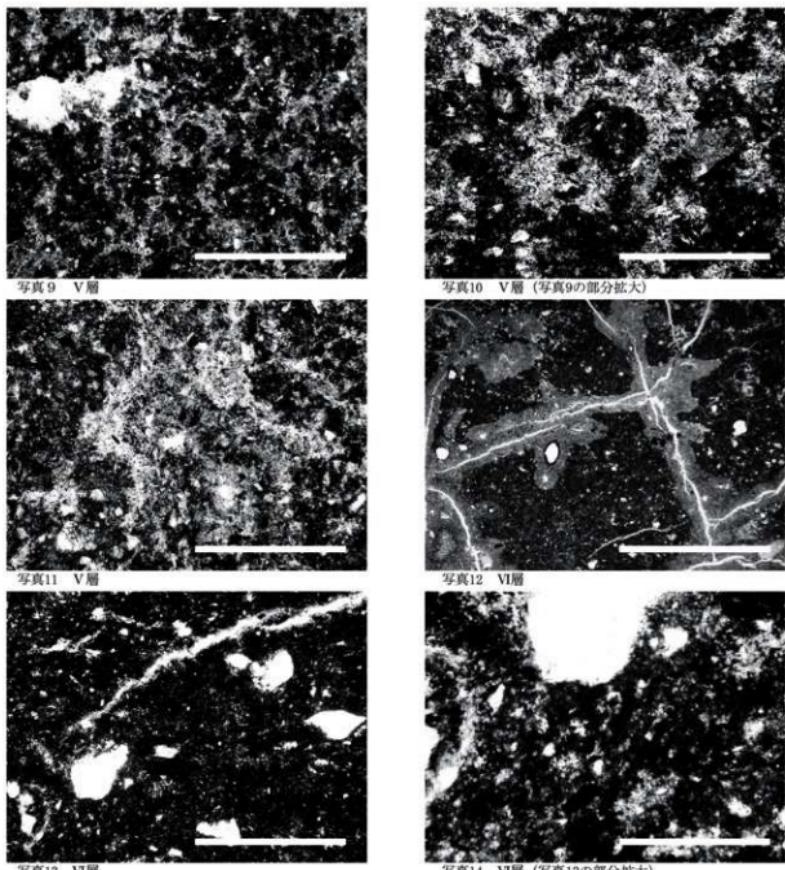


図 183 土壌薄片顕微鏡画像（その 1）



写真是すべて下方ポーラである。写真1, 6, 8, 9, 13は1mm、写真10, 11, 14は0.5mm、それ以外は5mm。

図184 土壌薄片顕微鏡画像（その2）

だし、V層で認められる微細堆積相からは、粒団なし偽礫の崩壊や溶解がIV層に比べ進行していない状態にあることが推定される。このような微細堆積相は、上記したIV層のような典型的な水田の微細構造を示す壁状構造と大きく異なる。発掘調査では、珪群が検出されていないものの、イネ属珪酸体が多産しており、イネが本層でも生育していた可能性が高いことがうかがえる。さらに、碎屑物主体の泥では、根痕状の分布を示すことから、本層において植生発達が生じていたことが想定される。

以上をふまると、上位のIV層だけでなくV層でも稻作が行われていた可能性が高いことが示唆される。本層が水田であった場合には、土壤微細構造から灌水状況や作土の攪拌が相対的に不良であったことなどが想定される。V層での耕作の実態については不明な点が多く、その検討は今後の課題である。

VI層最上部は、腐殖が蓄積しており、土壤発達層準の表層部分に相当すると考えられる。上述の観察結果をふまると、中世ないし中世以降の耕作土と考えられるV層は、氾濫原の堆積環境が安定して生成されたVI層の土壤発達部分を基盤として耕作地の形成が開始されたと考えられる。なお、隣接した調査区（前回分析地点）では、V層やVI層に相当する層準が確認されていない。今回の分析地点は、前回分析地点よりもおそらく地形的に低く、堆積物がより厚く積層する場所であったと考えられる。このため、前回の分析地点では、V層やVI層のような微細構造を持つ層準の発達が悪いとともに、上位の耕作地造成にともない削平されたと推測される。今回の分析地点での土壤薄片観察から、中世ないし中世以降の耕作地の開発及びその維持・管理は、周囲からの泥質の洪水堆積物の供給を緩やかに受けながら行われたことがうかがわれる。粗粒堆積物が厚く累重しないことから、当該期に付近の氾濫原の堆積環境は、かなり安定していたと推定される。

### (3) 植物珪酸体

土壤薄片観察から耕作土の可能性が極めて高いと考えられるV層、IV層では、栽培種のイネ属が多産する。これは、土壤薄片観察と調和的な分析結果であり、V層、IV層において水田などの耕作地においてイネ属が栽培されていたことを強く示唆するものである。イネ属の含量密度は、隣接する同一水田面の土壤試料よりも高く、本調査区で植物珪酸体がより蓄積される地表環境が形成されていたみなされ

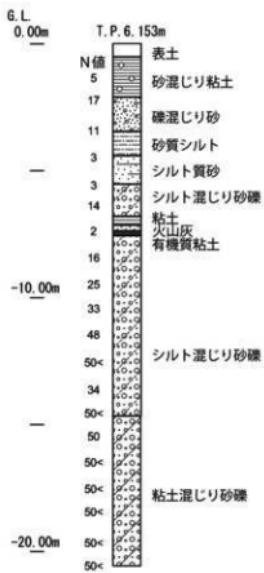
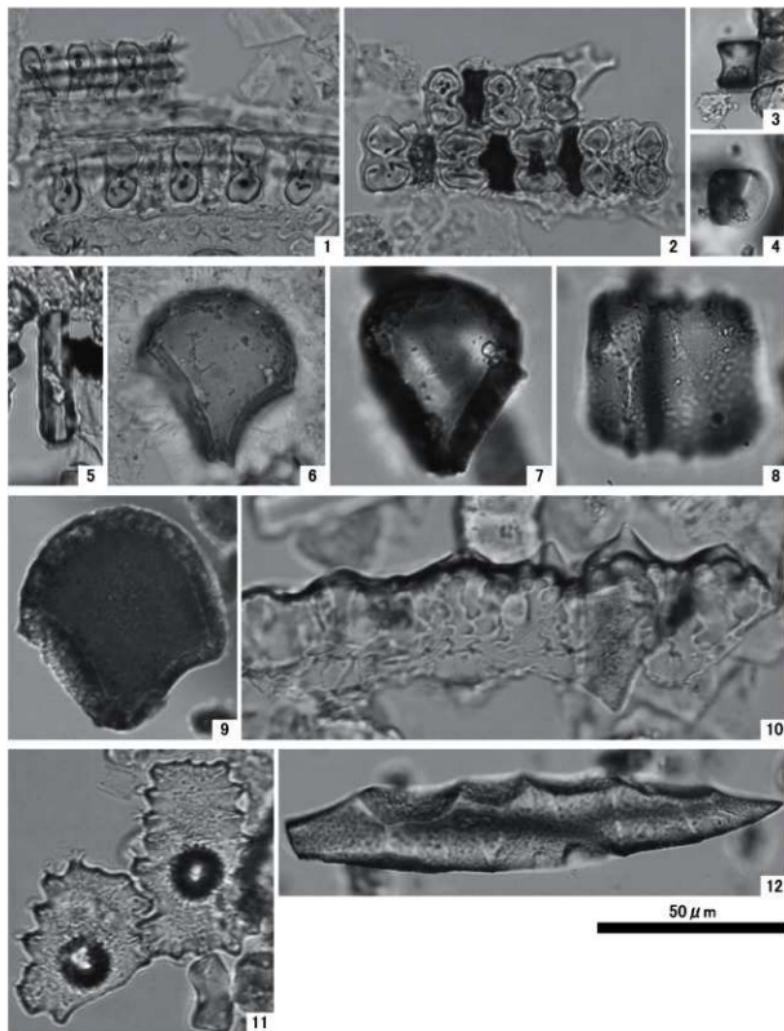


図185 ボーリング柱状図

る。その要因については、堆積及び水文環境が関係しているとみられるが、詳細については不明な点が多い。

ところで、イネ属については、水田の基盤をなすV層、さらに下位のVI層、VII層にも微量であるが含まれる。ただし、現段階においては、これらの層準のイネ属の由来について不明である。この層準のイネ属の由来については、土壤薄片観察や発掘調査成果のより詳細な検討などをふまえ、今後検討を行っていく必要がある。

V層、IV層については、イネ属の多産だけでなく、下位層に比べ植物珪酸体含量が急増することにも着目される。この含量密度の層位的変化からは、耕作地開発にともなう開地拡大によりイネ科草本の分布の優勢になったことや、灌漑による周囲からの植物珪酸体の流入量の増加、もしくは土壤水分量の増加に伴い、化石の風化・消失の進行が抑制される還元傾向が強まったことなどが想定される。また、イネ属珪酸体の出現と多産、耕作地雜草としても普通にみられるカヤツリグサ科の高い出現頻度も、V層、IV層で水田を中心とした耕作地とした耕作地が



1. イネ属短細胞列(1地点;3)  
 3. メダケ属短細胞珪酸体(1地点;1)  
 5. イチゴツナギ亞科短細胞珪酸体(1地点;2)  
 7. イネ属機動細胞珪酸体(2地点;3)  
 9. ヨシ属機動細胞珪酸体(1地点;5)  
 11. カヤツリグサ科葉部珪酸体(1地点;2)
2. イネ属短細胞列(2地点;1)  
 4. ヨシ属短細胞珪酸体(1地点;5)  
 6. イネ属機動細胞珪酸体(1地点;1)  
 8. メダケ属機動細胞珪酸体(1地点;1)  
 10. イネ属頸珪酸体(1地点;2)  
 12. 樹木起源(クスノキ科)(1地点;7)

図 186 植物珪酸体

展開したことと関係する植物珪酸体群集の層位変化を示している可能性がある。

今回の分析層準（IX層～IV層）を通じた特徴としては、ヨシ属、スキ属、イチゴツナギ亜科を随伴して、乾燥した土地条件を好むタケ亜科（メダケ属を含む）が多産することにある。このことから、IX層からIV層では、氾濫原において好気的土壤環境が維持される地形領域に位置していたと考えられる。IX層からIV層の層相については、後背湿地相をなす泥層で構成されるものの、湿润地を好むヨシ属は多産しない。この理由としては、泥層堆積時に既に地形面が既に離水傾向へ転じていたこと、本遺跡が水はけの良い氾濫原上に位置していたこと、泥層堆積時に周囲の流路で下刻傾向が維持されており、このため地下水位が低い状態が続いていることなどがあげられる。ただし、現段階では、要因については特定できない。

なお、本調査地内で行われたボーリング調査では、現地表面下 7.5m 下位（標高 -1.35m）の砂礫層の直上に火山灰の挟在が確認される（図 185：高松市, 2015）。今後は、周囲を含めたボーリングコアデータの整理や、これに挟在する年代試料の放射性炭素年代測定、テフラ同定、さらに調査区基盤層の深掘による地質学的調査などから、遺跡の立地面の地形・地質学的検討を行っていくことが検討課題の1つになると考えられる。本遺跡が載る地形面は、周囲の氾濫原面に比べ微高地をなしている。ボーリングデータにもとづくと、この微高地は、現地表面下から 5.5m 付近の深度までに累重する砂礫層を被覆する砂質シルトから礫混じり砂によって構成されると考えられる。調査地では、特にこの層準の堆積年代を特定していくことが必要であるとともに、周囲の氾濫原面の形成年代と差違があるかどうかや、より詳細な微地形の発達状況についても調査・分析を進めていく必要がある。このような遺跡の立地環境の基礎的分析は、近年多くの考古学的成果が得られてきている本遺跡及び周辺遺跡での人間活動を検討するうえにおいても有効と思われる。

#### 【引用文献】

- Adderler W.P. & Wilson C.A. & Simpson I.A. & Davidson D.A. 2010. Anthropogenic feature Interpretation of Micromorphological Features of Soils and Regoliths. Elsevier, 569-588.
- 江口誠一 2005. 水田雜草の植物珪酸体形態とその遺跡からの產

状. 考古学と自然科学, 51,1-9.

Fitzpatrick E.A., 1984. *Micromorphology of soils*. Chapman and Hall, 443p.

近藤雄三, 2010. プラント・オバール図譜. 北海道大学出版会, 387p.  
久馬一朗・八木久義訳監修, 1989. 土壌薄片記載ハンドブック. 博友社, 176p.

Lee H-H, French, C.A.L, Macphail, R.I., 2014. Microscopic Examination of Ancient and Modern Irrigated Paddy Soils in South Korea, with Special Reference to the Formation of Silty Clay Concentration Features. *Geoarchaeology*, 29, 4, 326-348.

松田順一郎, 2006. 流路・氾濫原堆植物から推測される約 3100 ~ 1200 年前の登呂遺跡における環境変化、特別史跡登呂遺跡再発掘調査報告書（自然科学分析・総括編）, 静岡市教育委員会, 1-27.

松田順一郎・辻 康男・岡村 涉, 2007. 理没水田及び現世水田にみられる土壤微細形態の比較—静岡市登呂遺跡の事例を中心—. 日本国文化財科学会第 24 回大会研究発表要旨, 日本国文化財科学会, 166-167.

永塚綱男, 2014. 土壤生成分類学 改訂増補版. 義賢堂, 402p.

齊藤万之助, 1971. 水田土壤の凝集性. 土木試験所報告, 56, 1-49.

高松市, 2015. 栗林小学校埋蔵文化財発掘調査掘削業務委託 報告書, 35p.

### 第3節 小型仿製鏡 保存処理

(公財)元興寺文化財研究所  
埋蔵文化財保存研究グループ

#### 【処理前調査】

処理前の遺物の状態を記録するため、写真撮影を行った。この写真をもとに台帳を作成し、処理工程や途中得られた知見などを記入した。加えて、遺物の構造や劣化状態の確認を目的としてX線透過撮影を実施した。X線透過撮影は以下の条件で行った。

装置：フィリップス社製X線透過試験装置

MG225型

フィルム：Fuji X-ray film IX100

増感紙：鉛増感紙 LFO.03

焦点距離間距離：100cm

また理化学的分析として、銅本体の成分を調べるための蛍光X線分析を行った。結果については、別途分析報告書を参照のこと。

#### 【処理方針検討】

処理前調査を基に、考古学的・科学的処理方針の検討を行った。

処理方法については、鏡面には土が多いものの、有機質が多く残っている可能性を考慮し、鏡背のクリーニングを先行して行って、鏡面は強化しながら慎重にクリーニングすることを確認した。

#### 【1次クリーニング】

写真、X線フィルムなどで遺物の形態を確認しつつ、実体顕微鏡で観察しながら、メスや竹串、刷毛などを用いてクリーニングを行った。最初にアクリル樹脂（パラロイドB72/Rohm&Hass co.）の6%酢酸エチル溶液を用いて、脆くなっている鏡の端部や鏡面の強化を行った。銅鏡の表面は傷んでいる箇所もある一方で、銅表面が残っている部分も多く、土も柔らかかったので除去して表面を出すことにした。

#### 【養生・洗浄】

遺物を状態に合わせてポリエチレン製ネット（ダイオスクリーン／ダイオ化成株式会社）で養生し、エタノールをかけて、表面に付着する油脂分や土などの不純物を除去した。この時点では鏡面の有機質は一部残していたため、和紙などでも養生を行った。



含浸後、箱から出した様子  
(ポリエチレン製のネットで養生して  
おり、外れやすい有機質部分は和紙  
で覆った。)



接合検討の様子



接合検討の様子（細部）

#### 【BTA処理】

防錆を目的として、BTA (CVI(1,2,3-ベンゾトリアゾール) / 株式会社布井) 3%エタノール溶液に浸漬した状態で減圧含浸を実施した。ポリエチレン製ネットでの養生ができない小さな破片については、常圧で浸漬した。

#### 【樹脂含浸】

遺物強化と防錆のため、フッ素系アクリル樹脂（Vフロン／大日本塗料（株））20%ナフサ溶液による減圧含浸を3回実施した。ポリエチレン製ネットでの養生ができない小さな破片については、常圧での浸漬を、同様に3回行った。

【樹脂塗布】

外気との接触を可能な限り少なくし、防錆効果を上げるために、含浸時の2倍に薄めた樹脂を2回遺物に塗布した。

【2次クリーニング】

含浸強化後に、脆く取りにくかった箇所について、クリーニングしていく過程で、鏡面に付着していた有機質がはっきり現れるようになったことから、顕微鏡観察による分析を行った結果、植物の根であることが判断された。そこで先方にも報告し、了解を得て、デジカメ写真を撮影した上で除去することになった。

【接合・充填】

破片の接合検討を行った結果、その多くが、鏡面端部の欠損部分に接合することが明らかになり、6%のB72酢酸エチル溶液で接合を行った。

破片は接合したが、鏡面端部の欠損部の方が広く、破片の端部が引っ掛けりやすく外れる危険があるため、破片の端部周辺や空隙部分を中心に、40%のB72アセトン溶液を充填し、引っ掛けりをなくすようにした。

【樹脂塗布】

外気との接触を可能な限り少なくし、防錆効果を上げるために、含浸時の2倍に薄めた樹脂を1回遺物に塗布した。

【仕上げ】

樹脂含浸や樹脂塗布によるつやを、つや消し剤を用いて抑えた。

【処理後調査】

修理後の遺物の状態を、考古学的・科学的見地から検査・確認した。その後、写真撮影を行って、修理記録を作成し、経過観察を行った。

今回使用した樹脂や接着剤は以下の方法で除去することが出来る。

アクリル樹脂（Vフロン・大日本塗料）…酢酸エチル等に溶解する。

アクリル樹脂（バラロイドB72・Rohm&Hass co.）…酢酸エチル等に溶解する。

## 第4節 小型仿製鏡 遺物報告書

(公財)元興寺文化財研究所  
埋蔵文化財保存研究グループ

直径 60mm の小型の珠文鏡である。鏡背の文様は、内区には珠文、外区には櫛歯文を配する。鏡面・鏡背面にはともに有機質の付着は認められない。鏡面は非常に平滑であるが、目立った研磨痕はない。鏡は赤茶色を呈するが、赤色顔料等は認められない。

文様は内区の珠文は鉢を中心として概ね 2 重の円弧を描くように配列しているが、その配列から外れる珠文も多いため、珠文の配列には規則性がないと見られる。

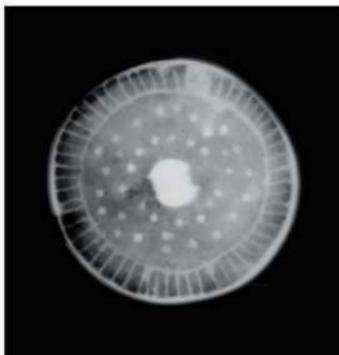
外区の櫛歯文はややいびつで、櫛歯の間隔や向きの不ぞろいな箇所が認められる。また、一部の櫛歯

は外縁部まで届いていない箇所もある。

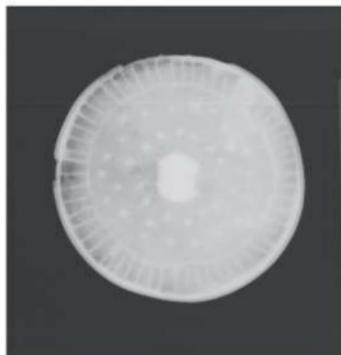
内区と外区を分ける圓線についても、正円形ではなく、やや歪んでおり、同様の傾向である。

鏡の断面形はほぼ平坦で、外縁部で 0.5mm 程度の立ち上がりが確認できる程度である。鉢孔の形は、横につぶれた梢円形を呈する。

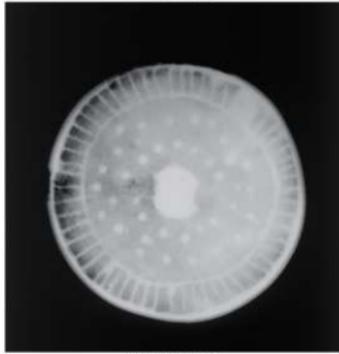
X線画像についてみると、実測図上面側の鉢孔周辺及び外縁部はX線の抜けが強く、黒く写っているうえ、それらの周辺に鉄果とみられる箇所が集中する。こうした点を評価すれば、実測図上面側に湯口が存在した可能性が高いとみられる。



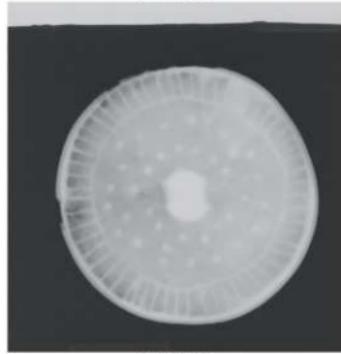
処理前鏡背面



処理前鏡面



処理後鏡背面



処理後鏡面

図版 1 X線画像

#### 第5節 小型仿製鏡螢光X線分析について

(公財)元興寺文化財研究所  
川本 耕三

##### 1. 分析対象

栗林田中遺跡出土小型仿製鏡1点(図187)

##### 2. 分析内容

エネルギー分散型螢光X線分析装置を用いて小型仿製鏡の定性成分分析を行った。

##### 3. 使用機器及び方法

- エネルギー分散型螢光X線分析装置(XRF)【(株)日立ハイテクサイエンス EA6000VX】

試料にX線を照射し、その際に試料から放出される各元素に固有の螢光X線を検出することにより元

素を同定する。

ロジウム(Rh)のX線管球を用いて、コリメータ□ $1.2 \times 1.2\text{mm}$ 、管電圧50kVで180秒間測定した。

- 実体顕微鏡ライカMZ
- マイクロスコープキーエンスVH-7000S

##### 4. 結果と考察

栗林田中遺跡出土小型仿製鏡をXRFにて成分分析した(図187)結果、鉄(Fe)、銅(Cu)、スズ(Sn)、鉛(Pb)を検出した(図189、190)。このうち、鉄は主として埋蔵環境由来と考えられたことから、小型仿製鏡は青銅鏡と考えられた。

つぎに鏡面に付着する有機物を拡大観察したところ、植物の根の可能性があった(図188)。



図187 栗林田中遺跡出土小型仿製鏡の分析箇所(A、B:XRF、C:拡大像)

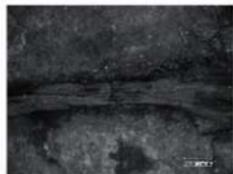


図188 鏡面付着有機物(分析箇所C)の拡大像

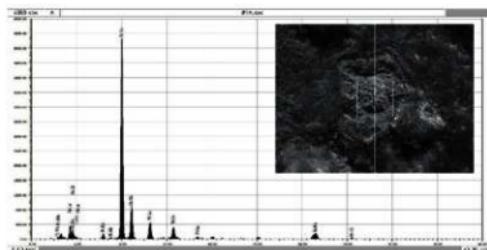


図189 小型仿製鏡（分析箇所A）の蛍光X線分析スペクトル

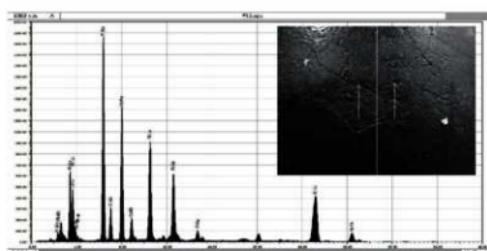


図190 小型仿製鏡（分析箇所B）の蛍光X線分析スペクトル

## 第V章 調査のまとめ

### 第1節 遺構の変遷

栗林田中遺跡は、弥生時代前期と後期末、古墳時代、奈良時代、中世、近世の6時期にわたる。ここでは、各時代の遺構変遷を確認したのち、遺跡の変遷について述べる。

#### 弥生時代前期

弥生時代前期の遺構は、11・12-SD 6、12-SD10・12-SK20である。これらの遺構は第11・12調査区の南端で検出した遺構群であり、南側へと続くため、遺構の全体像は不明であるが、溝は他の時期の遺構の主軸とは異なり、東西軸をもつとともにやや弧を描く。地形の傾斜を意識していない方向であることから、水の排水を考慮した溝とは想定しにくく、何らかの区画を意図した溝の可能性が高い。

このほか、詳細な時期は不明であるが、弥生時代と考えられる遺構は2-SK22・SD20、5-SX30、12-SK 9・12、16-SK 1・SX 3・4、17-SK 9・30・41・74、18-SK102・103・107・114・121、19-SK 9がある。12-SK 9・12、17-SK30・74、18-SK102・103・107・114・121は弥生時代後期末の包含層下層で検出した遺構である。

このように弥生時代前期の遺構は、調査対象地の南側で色濃く確認できるほかは、調査対象地全体に散発的に確認できる。弥生時代前期の集落は標高の高い南側に展開している可能性がある。

#### 弥生時代後期末

弥生時代後期の遺構は、複数条の溝、包含層状の堆積が確認できた。5-SK23、11・12-SD 5、17・18-SX101のほか、第10・14・19・20調査区で検出した溝群である。溝群は、調査区でも標高の高い西側に集中しており、遺構の切り合い関係や出土遺物の年代から、複数の溝が同時期に併存していた可能性が高い。また堆積状況から流水堆積が確認できることから、溝の間をバイパスするような複雑な水利環境を整えていた可能性が想定できる。

#### 古墳時代

古墳時代の遺構は、2・3-SD24・25・26・29、3-SD30、10-SX 3、13-SK10、17-SK 1、18-

SK118がある。このうち小型仿製鏡が出土した10-SX 3は、弥生時代後期末の遺構群を覆う包含層状の遺構である。鏡の出土状況から、鏡は遺構に伴うものではなく、鏡面を下にして置かれた状態で出土している。

古墳時代の遺物は、水田層及び中世の大型水路から古墳時代後期の遺物が一定量出土している（図9-8、図10-50～53・68・69、図12-99、図40-305・306）。鏡が出土した10-SX 3の周辺は、中世の水田層が確認できない範囲にある。このことにより、古墳時代の包含層が残存することとなったが、他の古墳時代の遺構については、後述する奈良時代の遺構と同様、中世段階での水田化に伴い、大多数の遺構が削平された可能性が高い。

#### 奈良時代

奈良時代の遺構は、第1調査区で確認した1-SD11・12、第2調査区の2-SX10である。溝は弥生時代後期の溝の主軸とは若干異なり、やや北寄りに傾く。2-SX10は包含層状の遺構であり、整地層の可能性が考えられる。

このほか、水田層中には、奈良時代の遺物が多量に含まれていた（図9・10）。中世段階での水田化に伴い奈良時代の遺構の大部分が削平された可能性が高いと考えられる。

#### 中世

中世の遺構は、大型水路である12・13-SD 1～3、4・6～8-SD 1、9-SD80、2・3-SD13のほか、10-SD 2・11-SD 1、14-SD 1・2である。これらの遺構は、3-SD13最下層出土の土器群（図15-117～128）から14世紀後半ごろ以前に掘削されていたことが判明している。主軸を南北方向及び東西方向にもつ。第1面で確認できた水田層も、これらの水路群の形成と同時期に形成された可能性が高い。基幹となる大型水路については、現在確認できている規模は、南北53m、東西77mである。東西方向の溝の幅が南北方向の溝幅と同等と仮定した場合、溝の大部分は、現在の市道上福岡栗林線の下に展開するものと想定できる。東西方向大型水路については、西側は2・3-SD13が西端にあたるが、東側は現在の御坊川周辺まで掘削されていた可能性が

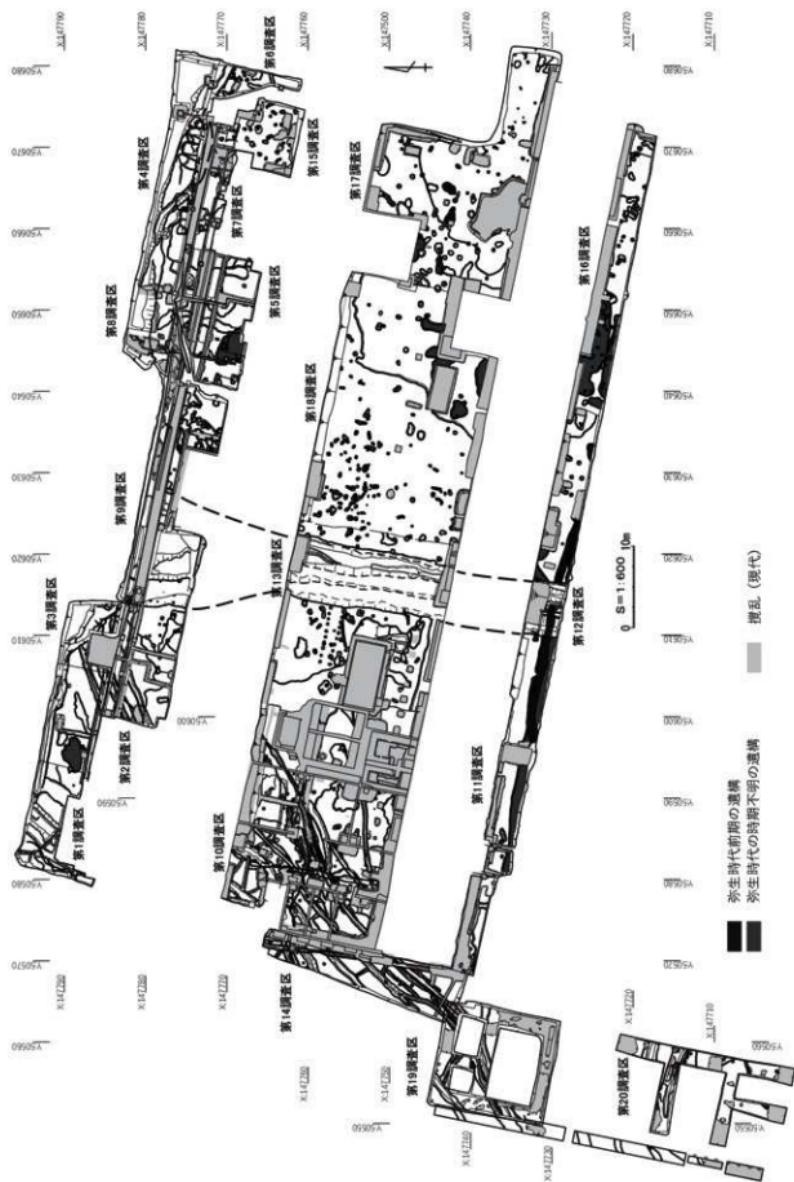


図 191 変遷図（弥生時代前期）

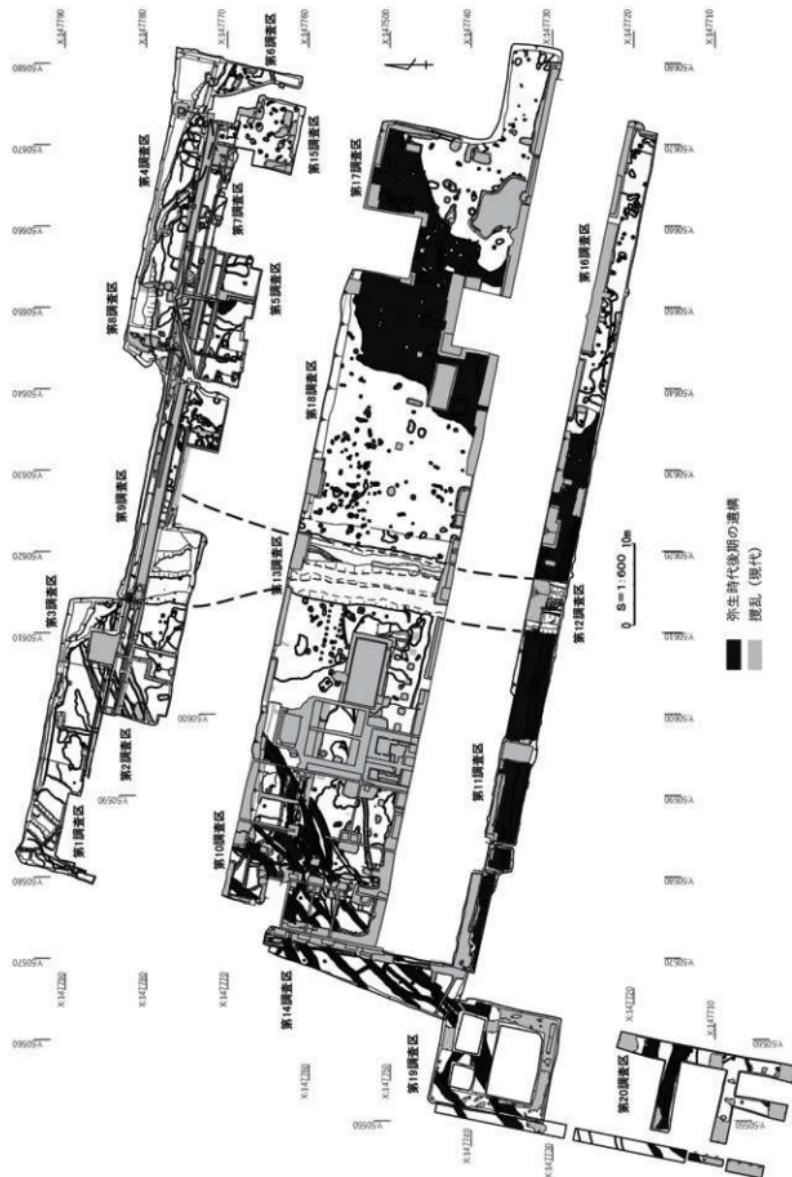


図 192 変遷図（弥生時代後期）

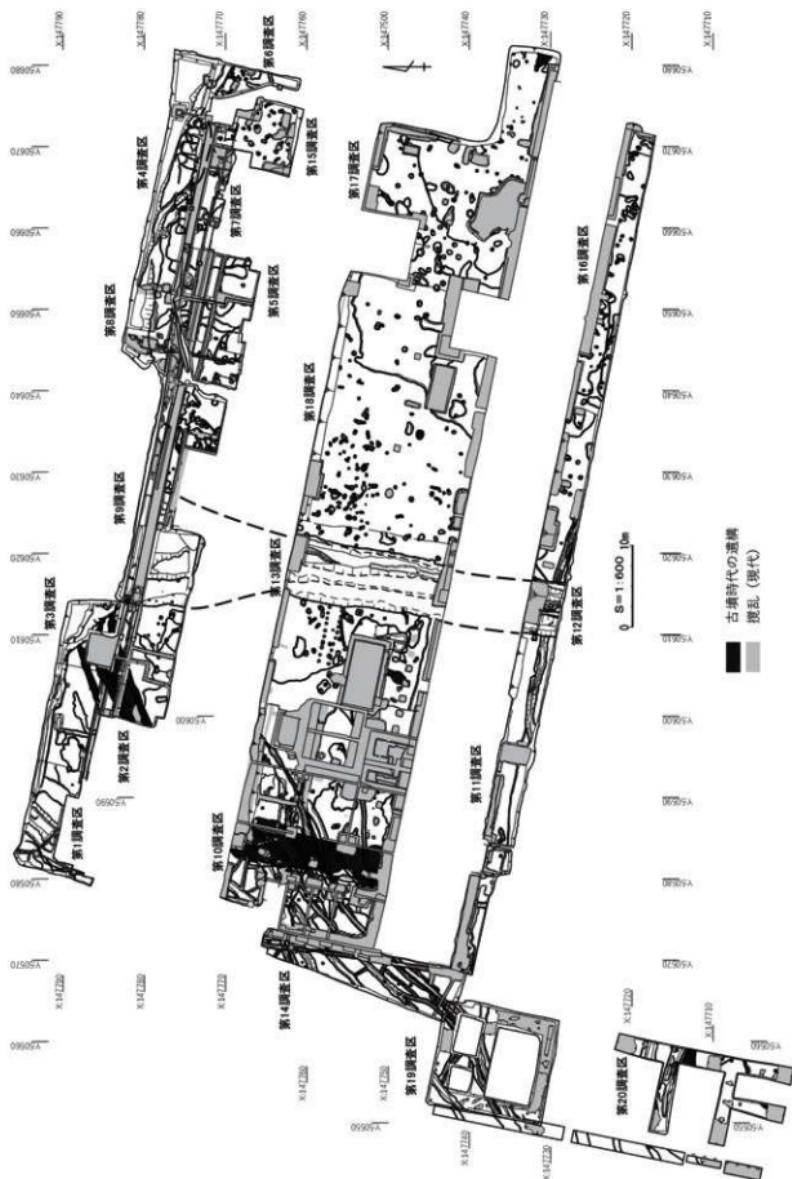


図 193 变遷図（古墳時代）

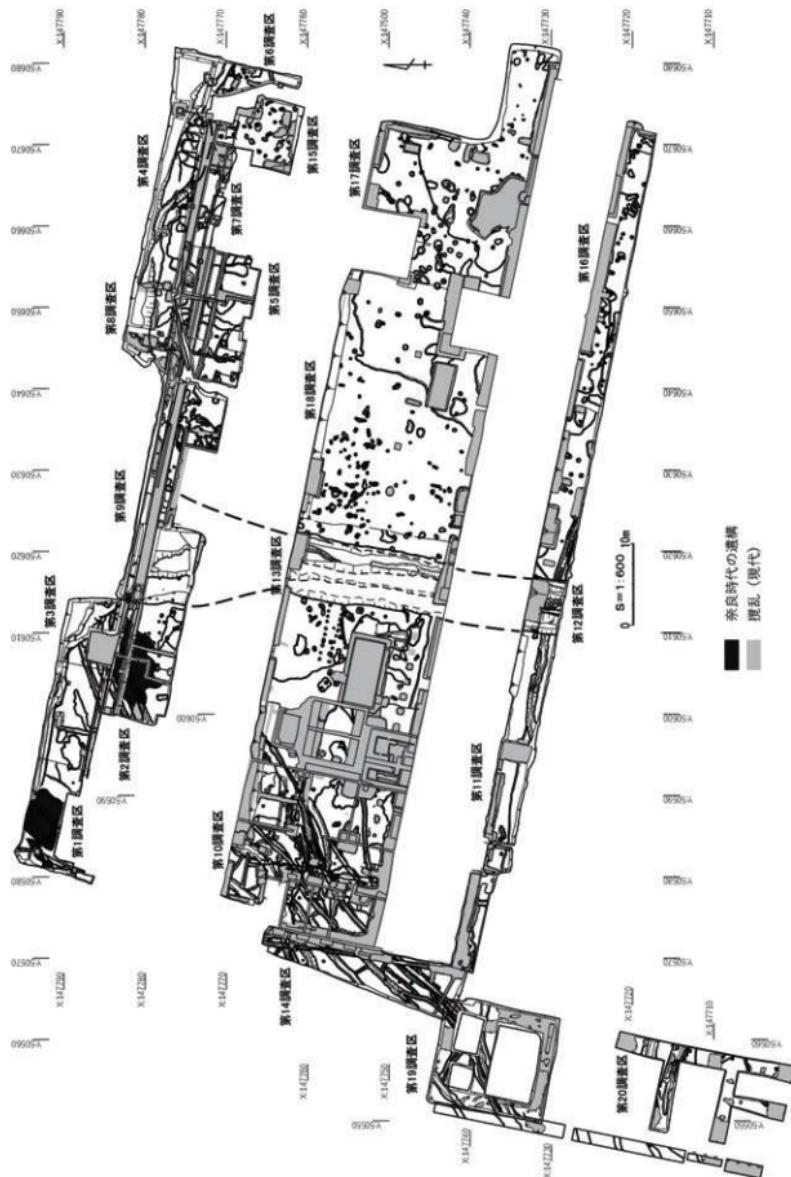


図 194 变遷図（奈良時代）

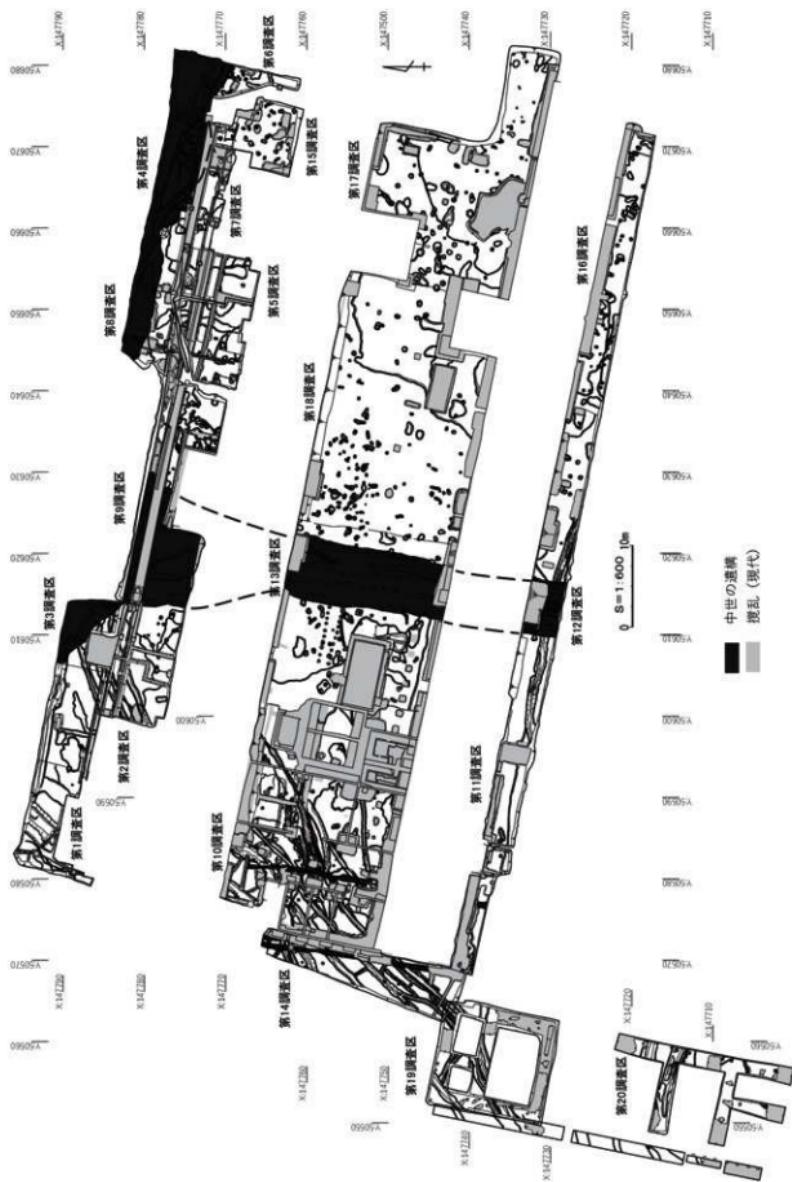


図 195 変遷図（中世）

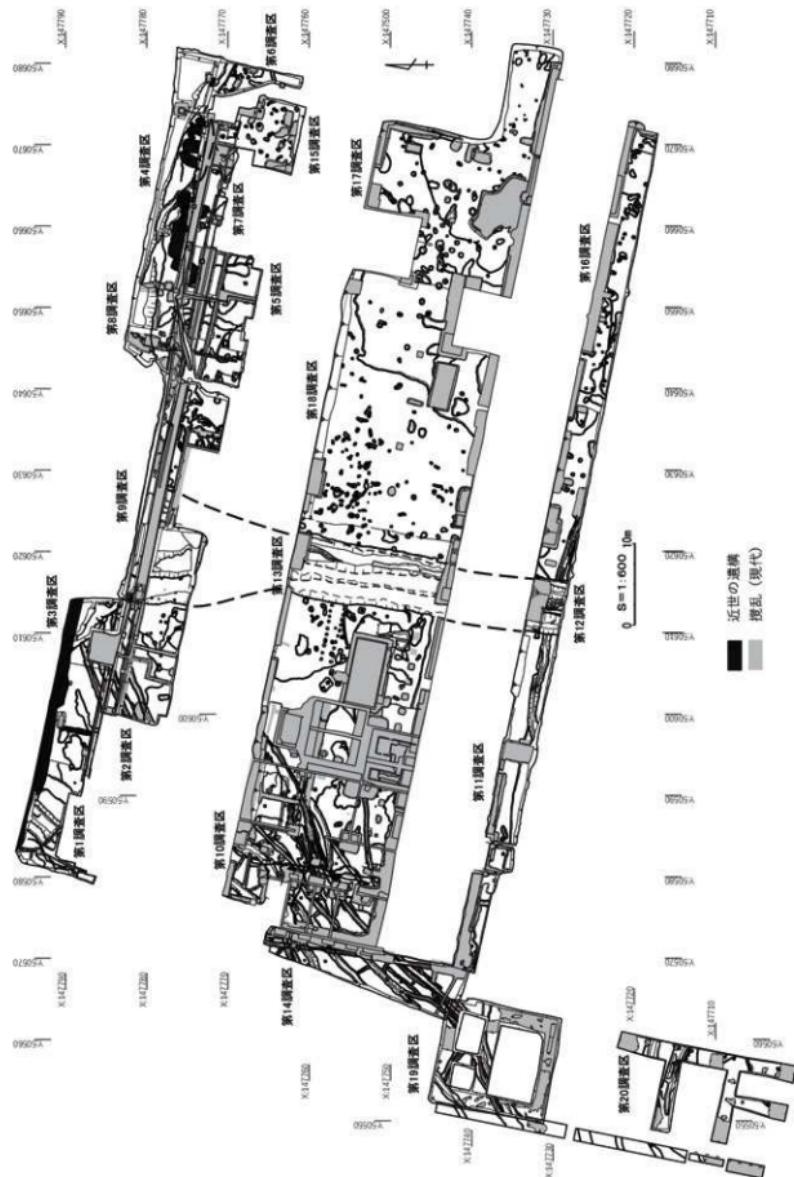


図 196 變遷図（近世）

考えられる。南北方向の溝については、栗林小学校の敷地の南端までは確認できており、このまま南に展開したのち、香東川ないしその支流に取水口が設けられていたと考えられる。

### 近世

近世の遺構は、北東工区と北西工区に確認でき、溝や野戸、整地層と考えられる遺構が確認できた。

### まとめ

栗林田中遺跡で確認できた遺構は、溝や土坑といった遺構を中心で、竪穴建物跡や、掘立柱建物跡などの建物を確認することはできなかった。しかしこれらの遺構群を形成する集落は調査対象地周辺に展開しているものと考えられる。特に小型彷彿鏡を保持することができる一定の勢力をもった集落であったと考えられる。今回確認した遺構の展開から、集落の中心は、標高が高い南西側ないし南側で確認できる可能性が高い。遺跡周辺はマンション等の宅地化が著しいが、周辺の再開発の際に遺跡が確認できる可能性も存在している。特に大型水路については、削平の影響を受けにくい掘削深度があり、開発行為によっても遺構が残存している可能性は高いといえる。今後の周辺の調査成果を期待したい。

## 第2節 栗林田中遺跡の立地と土地利用

遺跡の土地利用は、各時期によって変化をみせ、弥生時代及び古墳～奈良時代の遺構は、標高の高い調査範囲の西側に集中し、また南西が高く北東が低い地形に沿ったかたちで掘削されている。しかし、中世以降では、こうした地形の制約を克服し、南北方向を志向した地割へと変化していることが確認できた。

栗林田中遺跡が所在する場所は、1637年の香東川の付け替え以前は、西側に香東川が流れ、その流れが東西に分かれ、河川が中世に「野原」と呼ばれた地域を取り囲む分岐点の対岸に位置する（図197）。遺跡の現在の標高は海拔約6.0mである。古墳時代の海岸線推定ラインが海拔5.0m地点であるとすると、海拔5.0mラインは遺跡の約0.1km北東側、海拔約3.0mラインだと0.5km北東側に位置する（長谷川2014）。このことから、当時の栗林田中遺跡の周辺は、3方を海や川によって囲まれ



図197 遺跡の立地と古・高松湾と周辺遺跡の位置図  
(香川県歴史博物館2007を一部改編)

た地形であったと考えられる。遺跡周辺は氾濫原堆積物によって地盤が形成されており、こうした水はけのよい微高地という地形を利用して、弥生時代から奈良時代まで集落が展開していたものと考えられる。逆に微高地であるがゆえに水資源の利用という点がネックになったと考えられ、弥生時代後期末に幾重にも掘られた溝群は、溝同士をバイパスする溝が掘削されるなど、水利を考えたつくりとなっており、複雑な利水環境がこの時点で整備されていた可能性が高い。

中世になり、大規模な開発行為が行われ、地割が南北方向の条里地割へと変化する。主軸方位は現在の高松平野で認められる条里地割と合致しており、高松平野南部の条里地割を延伸していることが判明した。中世での栗林田中遺跡の開発の発端は、大型水路の掘削が挙げられる。これまで微高地であったがゆえに、水がかりの悪さが水田化のネックとなっていたと想定できるが、大型水路の掘削によって微高地内に水を回せるようになったことで、水田化が達成されたと考えられる。しかし、基幹水路の掘削

後も大型水路に堆積した大量の洪水砂や水田面を覆う洪水砂をもたらした洪水が頻発していたことが調査で判明した。大型水路下層の粒形の粗い洪水砂の上面に、杯を重ねて置かれた状態で出土したり、複数枚の杯が置かれていた状況を鑑みると（図13・図15-117～122・127）、洪水後に水鏡めの祭祀を行っていた可能性が想定できる。大型水路を埋め、水田面を覆う洪水が起きたあと、中世以降使われていた水田層は放棄され、洪水砂の上に近世以降の水田層が構築されている。この時期をもって、栗林田中遺跡の中世は、終了したと考えられる。

### 第3節 小型仿製鏡について

内区には珠文、外区には櫛齒文を配する。鏡の形状は正円形ではなく、やや歪んでおり、内区と外区を分ける圓線についても同様の傾向を示している。また鉢孔は楕円形を呈する。内区の珠文の配列には規則性が認められない。また外区の櫛齒文は、櫛齒の間隔や向きの不揃いな箇所が認められる。外縁部

には若干の立ち上がりが確認できるが、ほぼ平坦である。

文様・形状ともコンパス等を用いない割付であり、フリーハンドもしくはそれに近く、類似の鏡の文様を正確に写し取るというよりは、見よう見まねで作った様子が見て取れる。

鏡が出土した10-SX 3は、弥生時代後期末の遺構の上面に形成された包含層であり、その詳細な時期については判断しかねるが、他の遺構から出土している遺物をみると、鏡の時期は弥生時代後期末から古墳時代後期の範疇に収まると考えられる。

鏡の属性としては、弥生時代の要素を多分に含んでいるが、内区の珠文の多さと乱雑に埋め込まれた状況、外区が櫛齒文という文様構成から、古墳時代後期に属する可能性が高いと考える。

#### 【参考文献】

- 香川県教育委員会・財团法人香川県埋蔵文化財調査センター 1992『川津元結木道跡』
- 香川県教育委員会・財团法人香川県埋蔵文化財調査センター 2000『空港跡地道跡Ⅳ』
- 香川県教育委員会・財团法人香川県埋蔵文化財調査センター 2003『高松城跡（西の丸町地区）Ⅱ』
- 香川県教育委員会・財团法人香川県埋蔵文化財調査センター 2003『高松城跡（西の丸町地区）Ⅲ』
- 香川県教育委員会・財团法人香川県埋蔵文化財調査センター 2004『浜ノ町道跡』
- 香川県歴史博物館 2007『海に開かれた都市 高松—港湾都市 900年のあゆみ』
- 車崎正彦編 2002『考古資料大観5 弥生・古墳時代 鏡』小学館
- 古代の上器研究会編 1992『古代の上器1・都城の上器集成I』
- 古代の上器研究会編 1993『古代の上器2・都城の上器集成II』
- 古代の上器研究会編 1994『古代の上器3・都城の上器集成III』
- 佐藤竜馬 1993『香川県十瓶山窯跡群における須恵器編年』『関西大学考古学研究室開設四十周年記念 考古学論叢』関西大学
- 首原康夫・梅木謙一編 2000『弥生土器の様式と編年 四國編』木耳社
- 高倉洋明彰 1972『弥生時代小型仿製鏡について』『考古学雑誌』58-3
- 高倉洋明彰 1972『弥生時代小型仿製鏡について（承前）』『考古学雑誌』70-3
- 高橋 雅 1997『鏡』『弥生文化の研究6 道具と技術II』雄山閣
- 中世上器研究会編 1995『概説 中世の上器・陶磁器』真陽社
- 長谷川修一 2012『宅地の災害特性を知ろう』『かがわ建築士』一般社団法人香川建築士会
- 松本和彦 2009『野原の景觀と地域構造』『中世讃岐と瀬戸内世界』岩田書院
- 森下章司 1991『古墳時代仿製鏡の変遷とその特質』『史林』74-6
- 栗林郷土誌編集委員会 1996『栗林郷土誌』栗林地区地域おこし事業推進委員会
- 渡邊 誠 2016『遺跡が語る昔の海岸線～古代以前の古・高松湾～』高松市歴史民俗協会

表3 土器観察表(1)

図版番号	掲図番号	遺物番号	遺構/層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 高さ(cm)	形態の特徴 手法の特徴 [外][内]	色調 [外][内] 胎土 焼成	備考
57	9	1	1- 水田層	須恵器 蓋	(18.0) つまみ径 2.2 2.9	内面口縁部：付着物 [外]回転びり・回転びり・自然 縫 [内]回転びり	[外]10Y7/1灰白 [内]7.5Y7/1灰白 普:5 mm以下の長石 良	
57	9	2	2- 水田層 北側	須恵器 杯蓋	(16.4) [2.25]	[外]回転びり [内]回転びり・びり	[外]IN8/0灰白 [内]IN8/0灰白 精良:2.5 mm以下の長石 良好	
-	9	3	9- 水田層	須恵器 蓋	(15.0) -[2.0]	[外]回転びり・回転びり [内]回転びり	[外]IN7/0灰白 [内]IN7/0灰白 普:1 mm以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒 良好	
57	9	4	2- 水田層 北側	須恵器 杯B	(12.6) (10.0) [4.75]	接合痕あり、貼付高台 [外]回転びり・回転びり切り(び り) [内]回転びり・びり	[外]2.5Y5/1黄灰 [内]2.5Y6/1黄灰 精良:2 mm以下の石英・長石 良好	
-	9	5	1- 水田層	須恵器 杯B 底部	(11.4) -[1.2]	[外]回転びり・回転びり [内]回転びり	[外]5Y6/1灰 [内]5Y7/1灰白 普:0.5 mm以下の長石・黒色粒 不良	
-	9	6	1- 水田層	須恵器 杯B 底部	(11.7) -[1.15]	貼付高台 [外]回転びり・回転びり切り [内]回転びり	[外]5Y8/1灰白 [内]5Y8/1灰白 普:1 mm以下の石英・長石・黒雲母 良	
-	9	7	1 水田層	須恵器 杯B 底部	(9.6) -[1.3]	貼付高台 [外]回転びり・回転びり [内]回転びり	[外]IN6/0灰 [内]10Y6/1灰 普:1 mm程度の石英・長石 良	
-	9	8	5- 水田層	須恵器 杯身	- -[2.25]	外面:煤化、内面:付着物 [外]回転びりのち回転びり [内]回転びりのち回転びり	[外]IN7/0灰白 [内]IN7/0灰白 普:1 mm以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒 良	TK209
-	9	9	2- 水田層 南側	土器器 不明	(5.0) [4.15]	[外]びり [内]回転びり	[外]7.5YR5/4にぶい褐 [内]7.5YR5/4にぶい褐 普:3 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
-	9	10	1- 水田層	土器器 瓶 口縁部	- -[3.8]	[外]たて方向にゆびのちび [内]横び	[外]10YR7/2にぶい黄橙 [内]7.5Y6/4にぶい褐 普:1 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
-	9	11	13- 水田層	須恵器 蓋 口縁部	- -[1.4]	[外]回転びり・回転びり [内]回転びり・びり	[外]IN6/0灰 [内]IN7/0灰白 普:0.5 mm以下の石英・長石・黒色粒 良	
-	9	12	12- 水田層	須恵器 蓋	- -[2.65]	重み有 [外]回転びり・自然縫 [内]回転びり	[外]IN6/0灰 [内]IN7/0灰白 普:0.5 mm以下の砂粒・黒色粒 良	
-	9	13	12- 水田層 西側	須恵器 杯	- -[1.8]	[外]回転びり [内]回転びり	[外]IN7/0灰白 [内]IN7/0灰白 精良:0.5 mm以下の石英・長石・黒色粒 良好	
-	9	14	12- 水田層	須恵器 杯A	(14.3) -[2.9]	[外]回転びり・回転びり [内]回転びり	[外]IN5/0灰 [内]IN5/0灰 普:1 mm以下の砂粒 良	
-	9	15	12- 水田層	須恵器 杯A	(12.6) (9.0) 3.15	[外]回転びり・回転びり切り [内]回転びり	[外]IN5/0灰 [内]IN5/0灰 普:0.5 mm以下の砂粒 良	
-	9	16	13- 水田層 南西側	須恵器 杯	(15.8) -[5.45]	[外]回転びり [内]回転びり	[外]IN7/0灰白 [内]IN6/0灰 普:0.5 mm以下の砂粒・黒色粒 良	
-	9	17	13- 水田層	須恵器 杯B 底部	- -[9.8] -[2.3]	貼付高台? [外]回転びり・調整不明 [内]回転びり・びり	[外]5PB6/1青灰 [内]IN6/0灰 普:3 mmの石英・1 mm以下の石英・長石・黒色粒 良	
-	9	18	13- 水田層	須恵器 杯B 底部	(10.7) -[1.9]	貼付高台 [外]回転びり [内]回転びり	[外]7.5YR8/3浅黄橙 [内]2.5YR7/3淡赤橙 普:1 mm以下の石英・長石・黒色粒 良	

表4 土器観察表(2)

図版番号	拂回番号	遺物番号	遺構/層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高(cm)	形態の特徴 手法の特徴[外][内]	色調[外][内] 胎土 焼成	備考
-	9	19	12- 水田層	須恵器 杯 B 底部	- (13.2) [2.4]	貼付高台 [外]回転び・回転ヘタびり [内]回転び	[外]IN5/0灰 [内]IN6/0灰 普:0.5 mm以下の砂粒 良	
57	9	20	12- 水田層	土師器 椀	(7.0) (4.0) 2.9	[外]マツ [内]回転び?	[外]10YR7/2にぶい黄橙 [内]10YR7/2にぶい黄橙 普:2 mm以下の石英・長石・砂粒 良	
-	9	21	10- 水田層	土師器 瓶 口縁部	- - [5.9]	[外]ヨコナギ・タテナギ [内]ヨコナギ・タテナギ	[外]7.5YR6/6橙 [内]7.5YR4/4褐 普:4 mm以下の石英・長石 良	
-	9	22	12- 水田層	土師器 甕 口縁部	- - [4.2]	[外]ハム目・ヨコナギ・指頭圧痕 [内]ハム目・ヨコナギ	[外]10YR6/2灰黄褐 [内]10YR4/2灰黄褐 普:4.5 mm以下の砂粒・2.5 mm以下の 石英・長石・赤色粒 良	
-	9	23	13- 水田層	土師器 甕 口縁部	- - [5.2]	[外]ヨコナギ [内]ヨコナギ	[外]10YR7/3にぶい黄橙 [内]7.5YR7/3にぶい橙 粗:3 mm以下の石英・長石・赤色粒 多量 良	
57	9	24	11- 水田層 東ブロック 上半部と底部	弥生土器 甕	(14.1) 4.6 [19.7]	口縁に工具痕?接合痕あり [外]ナギ・ナギのち指頭圧痕・タ 及ぼ3方向の凹目・マツ [内]ナギ・指頭圧痕・タビリ	[外]5YR4/6赤褐 [内]7.5YR3/2黒褐 普:4 mm以下の石英・長石・赤色粒 ・角閃石 良	
57	10	25	18- 水田層	須恵器 蓋	11.1 つまり径 1.2 2.7	歪み有 [外]ナギ・タガリのちナギ [内]回転び	[外]IN7/0灰白~N6/0灰 [内]IN7/0灰白~N6/0灰 普:2 mm以下の石英・長石・黒色粒 良好	TK217
-	10	26	18- 水田層	須恵器 蓋	(11.8) - [0.9]	内面:付着物 [外]回転び・回転矢切り [内]回転び・マツ	[外]5PB6/1青灰 [内]IN6/0灰 精良:2 mm以下の長石 良好	
-	10	27	18- 水田層	須恵器 蓋	(12.6) - [0.8]	外辺内外面:黒斑 [外]回転び・ナギのち回転び [内]回転び	[外]5PB5/1青灰 [内]IN6/0灰 精良:2 mm以下の長石 良好	
-	10	28	18- 水田層	須恵器 蓋	(13.2) - [1.8]	[外]回転び・回転ヘタびり [内]回転び	[外]IN4/0灰・5PB5/1青灰 [内]5PB5/1青灰 普:2 mm以下の石英・長石 良	
-	10	29	18- 水田層	須恵器 蓋	(14.6) - [1.5]	内面:工具痕? [外]回転び [内]回転び	[外]IN6/0灰 [内]IN7/0灰白 普:1 mm以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒 良	
-	10	30	18- 水田層	須恵器 蓋	(14.9) - [1.6]	[外]回転び [内]回転び	[外]2.5Y7/2灰黄 [内]5Y6/1灰 普:2 mm以下の石英・長石 不良	
-	10	31	18- 水田層	須恵器 蓋	(15.0) - [1.3]	外面口縁部・内面:変色有り [外]回転び・回転矢切り [内]回転び	[外]5Y7/1灰白 [内]2.5Y7/1灰白 普:3 mm以下の石英・長石 不良	
57	10	32	18- 水田層	須恵器 蓋	(14.9) - [1.9]	[外]回転び・回転ヘタびり [内]回転び	[外]IN6/0灰 [内]IN5/0灰 普:1.5 mm以下の石英・長石 良	
-	10	33	18- 水田層	須恵器 蓋	(15.2) - [1.3]	[外]回転び・回転ヘタびり [内]回転び	[外]IN6/0灰~N5/0灰 [内]IN6/0灰~N5/0灰 普:0.5 mm以下の石英・長石・黒色 粒良	
-	10	34	18- 水田層	須恵器 蓋	(18.4) - [1.3]	外表面:自然釉 [外]回転び・回転ヘタびり [内]回転び	[外]IN7/0灰白 [内]IN7/0灰白 普:1 mm以下の石英・長石・黒色粒 良好	
57	10	35	18- 水田層	須恵器 蓋	(18.4) - [1.7]	外表面:重ね焼き痕 [外]回転び・回転ヘタびり [内]回転び	[外]5PB6/1青灰 [内]5PB5/1明青灰 普:1 mm以下の石英・長石 良	
-	10	36	18- 水田層	須恵器 杯 A	(12.8) (9.4) 3.0	内面:火ழ [外]回転び・ヘタ切りのちナギ [内]回転び	[外]IN6/0灰 [内]IN6/0灰 普:2 mm以下の石英・長石・黒色粒 良	

表5 土器観察表(3)

団版番号	掲回番号	遺物番号	遺構/層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高(cm)	形態の特徴 手法の特徴[外][内]	色調[外][内] 胎土 焼成	備考
57	10	37	18- 水田層	須恵器 杯 A	(14.2) (10.0) 3.9	歪み有 [外] 回転び [内] 回転び・切り [内] 回転び	[外] IN4/0 灰 [内] IN6/0 灰 普:1 mm以下の石英・長石・黒色粒 良	
-	10	38	18- 水田層	須恵器 杯 A	(14.4) (10.4) 3.5	内面:火襷 [外] 回転び・回転び切り [内] 回転び	[外] IN7/0 灰白 [内] IN7/0 灰白 普:1 mm以下の石英・長石・黒色粒 良好	
-	10	39	18- 水田層	須恵器 杯 A	- [3.75]	[外] 回転び [内] 回転び	[外] IN7/0 灰白 [内] IN7/0 灰白 精良:2 mm以下の長石・0.5 mm以下の赤色粒 良好	
-	10	40	18- 水田層	須恵器 皿	(14.7) (11.8) 2.3	内面:火襷 [外] 回転び・回転び切り [内] 回転び	[外] IN7/0 灰白 [内] IN7/0 灰白 普:3 mm以下の石英・長石 良	
57	10	41	18- 水田層	須恵器 皿	(16.1) (12.8) 2.55	内面:鉢分付着 底面:板状圧痕 [外] 回転び・回転び切り [内] 回転び	[外] IN7/0 灰白 [内] IN7/0 灰白 精良:2 mm以下の長石・黒色粒 良好	
57	10	42	18- 水田層	須恵器 皿	(16.8) (13.8) 2.3	[外] 回転び・回転び切り [内] 回転び	[外] IN6/0 灰 [内] IN6/0 灰 精良:2 mm以下の長石 良好	
-	10	43	18- 水田層	須恵器 皿	- 2.1	[外] 回転び・回転び切り [内] 回転び	[外] IN7/0 灰白 [内] IN6/0 灰・N7/0 灰白 普:2 mm以下の石英・長石 良	
-	10	44	18- 水田層	須恵器 杯 口縁部	- [3.5]	外面:黒斑あり 内面:黒斑・付着物 [外] 回転び [内] 回転び	[外] IN8/0 灰白 [内] IN7/1 灰白 普:3 mm以下の石英・長石 良	
-	10	45	18- 水田層	須恵器 杯 口縁部	- [3.6]	歪み有 [外] 回転び [内] 回転び	[外] ISPB5/1 青灰 [内] IN7/0 灰白 普:2 mm以下の石英・長石・3 mm程度の小擦 良	
-	10	46	18- 水田層	須恵器 壺 口縁部	(19.2) - [4.0]	内面:付着物 [外] 回転び・自然釉 [内] 回転び・自然釉	[外] IN6/0 灰 [内] IN4/0 灰 普:2 mm以下の石英・長石 良	
57	10	47	18- 水田層	須恵器 壺 口縁部	- -[9.2]	[外] 回転び [内] 回転び	[外] IN7/0 灰白 [内] IN7/0 灰白～N6/0 灰 普:0.5 mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒 良	
-	10	48	18- 水田層	須恵器 高杯 脚部	(10.0) -[2.25]	[外] 回転び [内] 回転び	[外] IN7/0 灰白 [内] IN6/0 灰・2.5GV6/1 灰～7 灰 普:3 mm以下の石英・長石 良	
57	10	49	18- 水田層	須恵器 壺 底部	- [9.7] [3.0]	貼付高台 [外] 回転び [内] 回転び	[外] IN8/0 灰白 [内] IN7/0 灰白 精良:2 mm以下の長石 良好	
-	10	50	18- 水田層	須恵器 蓋 口縁部	- -[1.0]	[外] 回転び [内] 回転び	[外] IN7/0 灰白 [内] IN7/0 灰白 普:0.5 mm以下の石英・長石 良	TK217
-	10	51	18- 水田層	須恵器 杯身	(10.8) -[2.05]	[外] 回転び [内] 回転び	[外] IN6/0 灰 [内] IN7/0 灰白 普:1.5 mm以下の石英・長石 良	TK217
-	10	52	18- 水田層	須恵器 杯身 口縁部	- -[2.1]	[外] 回転び [内] 回転び	[外] 10R5/3 紫褐色 [内] 10R5/3 赤褐色 普:1 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	TK209
-	10	53	18- 水田層	須恵器 杯身 口縁部	- -[1.4]	[外] 回転び [内] 回転び	[外] IN4/0 灰 [内] IN5/0 灰 普:1.5 mm以下の石英・長石 良	TK209
-	10	54	18- 水田層	黒色土器 A 椀 口縁部	- -[3.3]	[外] 回転び [内] ベニカキ	[外] 2.5YB/2 灰白 [内] 2.5Y3/1 黒褐色 普:3 mm以下の石英・長石 良	西村産

表 6 土器観察表 (4)

図版番号	排図番号	遺物番号	遺構/層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 高さ(cm)	形態の特徴 手法の特徴 [外][内]	色調 [外][内] 胎土 焼成	備考
-	10	55	18- 水田層	黒色土器 A 杯	(13.8) (8.4) 3.0	[外] 手びき [内] 手びき・手	[外] 2.5Y7/2 灰黄 [内] IN3/0 灰白 普:3 mm以下の石英・長石 良	西村産
57	10	56	18- 水田層	土師器 高台付杯 底部	- (7.3) [2.6]	貼付高台? [外] 手びき [内] 手びき	[外] 7.5YR7/3 にぶい楕 灰褐色 [内] 10YR6/2 灰黄褐色 普:2.5 mm以下の石英・長石・雲母 -3.5 mm程度の小礫	
57	10	57	18- 水田層	土師器 面取高杯 脚部	- [2.7]	[外] 手びき [内] 手びきのち指頭圧痕・マガ	[外] 5YR7/6 橙 [内] 5YR8/3 淡橙 精良:0.5 mm以下の石英・長石・雲母・赤色粒 良好	
57	10	58	18- 水田層	土師器 甕 口縁部	- [5.4]	[外] 指頭圧痕のちヨコギ・ハ目 [内] ハ目	[外] 7.5YR7/6 橙 [内] 2.5Y8/4 淡黄 粗:3 mm以下の長石・石英・赤色粒・金雲母 良	
-	10	59	18- 水田層	土師器 甕 口縁部	(22.8) - [4.0]	[外] ヨコギ・手ハナ [内] ヨコギ	[外] 7.5YR7/3 にぶい楕 [内] 7.5YR7/4 にぶい楕 普:2.5 mm以下の石英・長石・砂粒 -4 mm以下の赤色粒 良	
57	10	60	18- 水田層	土師器 甕 口縁部	(24.2) - [8.3]	外面口縁部・内面: 黒斑あり [外] ハ目・32才 [内] ハ目・32才	[外] 7.5YR7/3 にぶい楕 [内] 2.5Y8/3 淡黄 粗:3 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
-	10	61	18- 水田層	土師器 甕 口縁部	- - [4.45]	[外] ヨコギ・タハナ [内] ヨコギ・ヨコギ	[外] 10YR7/2 にぶい黃橙 [内] 10YR5/1 塚灰 普:2 mm以下の長石・1 mm以下の赤色粒・黒雲母・金雲母 良	
-	10	62	18- 水田層	土師器 甕 口縁部	- - [5.85]	[外] ヨコギ・ハタ・ハ目 [内] ヨコギ・板ガフ・マサ	[外] 10YR4/2 灰黄褐色 [内] 10YR5/2 灰黄褐色 普:2 mm以下の石英・長石 良	
57	10	63	18- 水田層	土師器 瓶取手	長さ[8.0] 幅[5.8] 厚さ[6.3]	接合痕有り [外] 板ガフ・ヨコギ・ハ目 [内] 板ガフ・指頭圧痕	[外] 7.5YR6/4 にぶい楕 [内] 10YR7/3 にぶい黃橙 普:5 mm以下の石英・長石・1.5 mm以下の赤色粒 良	
57	10	68	17- 水田層 中央部	須恵器 杯蓋 口縁部	- - [2.5]	[外] 回転ガフ [内] 回転ガフ	[外] IN6/0 灰 [内] IN7/0 灰白 普:1 mm程度の石英・長石・黒色粒 少量 良	
-	10	69	17- 水田層	須恵器 杯蓋 口縁部	- - [3.1]	歪み有 [外] 回転ガフ・沈線 1 条 [内] 回転ガフ	[外] 10YB6/1 灰 [内] 10B6/1 灰 普:2 mm以下の長石 良好	
-	10	70	17- 水田層	須恵器 杯 A	(13.4) (10.0) 3.6	[外] 回転ガフ [内] 回転ガフ	[外] 10Y6/1 灰 [内] IN6/0 灰 普:1 mm程度の石英・長石・黒色粒 良	
57	10	71	17- 水田層	須恵器 杯 A	(15.2) (11.0) 3.8	[外] 回転ガフ・回転ハタ切り [内] 回転ガフ	[外] IN7/0 灰白 [内] IN7/0 灰白 普:2 mm以下の石英・長石 良	
-	10	72	17- 水田層	須恵器 杯 B 底部	(10.5) [3.3]	[外] ヨコギ [内] ヨコギ	[外] IN4/0 灰 [内] IN6/0 灰 普:0.5 mm以下の砂粒 良好	
-	10	73	17- 水田層	須恵器 杯 口縁部	- - [2.1]	口縁部: 煙付着 [外] 回転ガフ [内] 回転ガフ	[外] IN8/0 灰白 [内] IN8/0 灰白 普:1 mm程度の石英・長石 良	中世 西村産
-	10	74	17- 水田層	土師器 杯	(13.2) (10.6) 3.5	[外] 手びき・回転ハタ切り [内] 手びき	[外] 2.5Y8/2 灰白 [内] 2.5Y8/2 灰白 普:3 mm程度の小礫・2.5 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	

表7 土器観察表(5)

図版番号	排回番号	遺物番号	遺構/層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高(cm)	形態の特徴 手法の特徴[外][内]	色調[外][内] 胎土 焼成	備考
-	10	75	17- 水田層	土師器 甕 口縁部	(11.6) -[4.7]	外面:付着物、内面:煤付着 [外]ヨコナ・苗頭圧痕・凹目 [内]ヨコナ	[外]5YR5/8 明赤褐色 [内]10YR7/3 にぶい黄橙・5YR5/8 明赤褐色 普:3 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
-	10	76	17- 水田層	土師器 甕 口縁部	(14.6) -[3.85]	接合痕あり [外]ナ・好ナカ [内]ナ・ナ?	[外]25YR5/6 明赤褐色 [内]2.5YR6/1 赤灰 普:2 mm以下の石英・長石・赤色粒 ・雲母 良	
57	10	77	16- 水田層	須恵器 蓋	つまみ径 2.5 [1.8]	[外]ナ・薄灰 [内]ナ	[外]N8/0 灰 [内]N6/0 灰 普:1 mm程度の石英・長石 良	
57	10	78	16- 水田層	須恵器 蓋	つまみ径 3.4 [1.5]	生焼け [外]回転ナ・(ナ?) [内]回転ナ・(ナ?)	[外]5Y5/1 灰 [内]7.5YR7/2 明褐灰色・7.5YR7/4 にぶい橙 普:2 mm以下の石英・長石・赤色粒 不良	
-	10	79	16- 水田層	須恵器 杯	(16.0) -[3.3]	[外]回転ナ [内]回転ナ	[外]5Y7/1 灰白 [内]5Y7/1 灰白 普:1 mm以下の石英・長石・黒色粒 良	
-	10	80	16- 水田層	須恵器 杯 A	- [3.3]	[外]回転ナ・ベタ切りのちナ [内]回転ナ	[外]N7/0 灰白 [内]N7/0 灰白 普:1.5 mm以下の石英・長石・2 mm程度の小砾 良	
-	10	81	16- 水田層	須恵器 皿	(17.4) (14.4) [2.2]	内面:付着物 外面:火燐 [外]回転ナ [内]回転ナ	[外]N7/0 灰白・N6/0 灰 [内]N5/0 灰・N7/0 灰白 普:2 mm以下の長石 良	
57	12	99	12- 洪水砂層・水田層 (西側)	須恵器 杯身 口縁部	(12.8) -[1.9]	[外]回転ナ [内]回転ナ	[外]N6/0 灰 [内]N6/0 灰 普:4 mm以下の石英・2 mm以下の長石 良好	TK209 ~ 217
-	12	100	18- 洪水砂層	須恵器 杯	(14.6) [3.05]	[外]回転ナ [内]回転ナ	[外]N7/0 灰白 [内]N7/0 灰白 積良:2.5 mm以下の長石・黒色粒 良好	
57	12	101	13- 洪水砂層	須恵器 皿	(12.6) (9.0) 1.9	[外]回転ナ・回転ベタ切り(左) [内]回転ナ	[外]N6/0 灰 [内]N6/0 灰 普:2 mm以下の石英・長石 良好	
-	12	102	2- 洪水砂層	須恵器 杯 8 底部	- [9.8] [2.3]	接合痕あり、貼付高台 [外]回転ナ・ナ [内]回転ナ	[外]IN4/0 灰 [内]IN6/0 灰 普:3.5 mm以下の石英・長石 良好	
-	12	103	12- 洪水砂層	須恵器 長頸壺 口縁部	- [5.4]	[外]回転ナ [内]回転ナ	[外]IN5/0 灰 [内]IN5/0 灰 普:0.5 mm以下の砂粒 良	
-	12	104	13- 洪水砂層	須恵器 壺 口縁部	(17.6) -[5.3]	[外]回転ナ [内]回転ナ	[外]IN6/0 灰 [内]IN7/0 灰白 積良:0.5 mm以下の白色粒・黒色粒 良好	
57	12	105	10- 洪水砂層	須恵器 壺	(8.8) [4.4]	貼付高台 [外]回転ナ・回転ナ・回転ベタ切り [内]回転ナ・ナ	[外]IN7/0 灰白 [内]IN7/0 灰白 普:5 mm以下の長石・黒色粒 良好	
57	12	106	16- 洪水砂層	瓦質土器 鉢 口縁部	(21.4) -[3.9]	[外]ナ・指頭圧痕・粘土接合痕 [内]凹目	[外]5Y4/1 灰 [内]5Y6/1 灰 普:2 mm以下の石英・長石 良	
57	12	107	16- 洪水砂層	土師器 羽釜 口縁部	(20.2) -[6.4]	接合痕あり [外]ヨコナ・タテナカ [内]ヨコナ・タテナリ	[外]7.5YR5/3 にぶい褐 [内]10YR5/2 灰褐色 普:2 mm以下の石英・長石・1 mm以下の 中の赤粒・黒雲母 良	
57	12	108	11- 洪水砂層	土師器 羽釜 口縁部	(20.0) -[6.7]	外面:黒斑あり 接合痕あり [外]ヨコナ・板ナ [内]板ナ	[外]7.5YR7/4 にぶい橙 [内]10YR7/2 にぶい黄橙 普:7 mm以下の砂粒・3 mm以下の石英 ・長石・赤色粒 良	

表8 土器観察表(6)

図版番号	排回番号	遺物番号	遺構/層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高(cm)	形態の特徴 手法の特徴 [外][内]	色調 [外][内] 胎土 焼成	備考
-	12	109	11- 混水砂層	土師器 羽釜 口縁部	- [6.5]	[外] ハゲ・アラフ・指頭圧痕・野 ウチ [内] ハゲ・ミサカ	[外] 10YR7/4 にびい黄橙 内 10YR8/4 浅黄橙 普:0.5~1mmの石英・長石・赤色 粒良	
59	15	117	3-SD13/ 最下層 No.1	土師器 杯-	12.0 7.1 3.2	内外面:付着物 [外] 回転ガ・回転ハタ切り [内] 回転ガ	[外] 7.5YR8/4 浅黄橙 内 7.5YR8/4 浅黄橙 普:微細な石英・長石・赤色粒良	
59	15	118	3-SD13/ 最下層 No.1 取り上 げ周辺	土師器 杯	12.1 7.6 3.4	内外面:付着物 [外] 回転ガ・回転ハタ切り [内] 回転ガ	[外] 7.5YR8/6 浅黄橙 内 7.5YR8/4 浅黄橙 普:0.5mm以下の石英・長石・赤色粒良	
59	15	119	3-SD13/ 最下層 No.4	土師器 杯	12.8 7.5 3.8	[外] 回転ガ・回転ハタギリ・回 転ハタ切り [内] 回転ガ	[外] 2.5YR7/6 橙 内 7.5YR8/2 灰白 やや密・1mm程度の石英・長石・赤色 粒良・雲母?	
59	15	120	3-SD13/ 最下層 No.4 取り上 げ周辺	土師器 杯	12.6 6.0 3.05	[外] 回転ガ・回転ハタ切り [内] 回転ガ	[外] 10YR8/3 浅黄橙 内 10YR8/3 浅黄橙 普:1mm程度の石英・長石・赤色粒良	
59	15	121	3-SD13/ 最下層 No.4	土師器 杯	12.2 3.0 6.4	底部内面・口縁部:煤付着 [外] 回転ガ・回転ハタ切り [内] 回転ガ	[外] 10YR7/6 黄橙 内 5YR7/6 橙 普:2mm程度の石英・長石・赤色粒良・ 金雲母?	
59	15	122	3-SD13/ 最下層 No.1	土師器 杯	12.5 6.2 3.2	内外面:付着物 [外] 回転ガ・回転ハタ切り [内] 回転ガ	[外] 10YR8/3 浅黄橙 内 10YR8/2 灰白 普:2mm以下の石英・長石・赤色粒良	
59	15	123	3-SD13/ 最下層	土師器 杯	(13.0) (6.7) 3.4	内面:黒斑あり [外] 回転ガ・回転ハタ切り [内] 回転ガ	[外] 2.5Y7/2 灰黄 内 2.5Y7/2 灰黄 普:0.5mm以下の石英・長石・赤色 粒良	
59	15	124	3-SD13/ 最下層	土師器 杯	(16.0) (7.8) 3.3	内外面:付着物 [外] 回転ガ・回転ハタ切り [内] 回転ガ	[外] 5YR7/2 橙 内 5YR7/2 橙 やや粗・2mm程度の石英・長石・赤色 粒・金雲母?	
59	15	125	3-SD13/ 最下層 No.2 取り上 げ周辺	土師器 杯	12.5 7.5 3.2	[外] 回転ガ・回転ハタギリ・回 転ハタ切り [内] 回転ガ	[外] 10YR8/2 灰白 内 10YR8/2 灰白 普:2mm以下の石英・長石・赤色粒良	
59	15	126	3-SD13/ 最下層 No.3 取り上 げ周辺	土師器 杯	13.0 7.2 3.1	[外] 回転ガ・回転ハタ切り [内] 回転ガ	[外] 10YR8/2 灰白 内 7.5YR8/3 浅黄橙 普:2mm以下の石英・長石・赤色粒良	
59	15	127	3-SD13/ 最下層 No.4	土師器 杯	12.9 7.7 3.3	外面:付着物 [外] 回転ガ・回転ハタギリ・回 転ハタ切り [内] 回転ガ	[外] 10YR8/3 浅黄橙 内 10YR8/3 浅黄橙 普:1mm以下の石英・長石	
-	15	128	3-SD13/ 最下層	須恵器 杯	(15.0) (6.8) 4.4	口縁部外面:煤付着、外面: 火押 内面:付着物 (2.5Y4/3 トーピー) [外] 回転ガ・回転ハタ切り [内] 回転ガ	[外] N8/0 灰白 内 N8/0 灰白 普:1~3mm大の石英・長石 粒良	
58	16	129	3-SD13	土師器 杯	12.0 6.0 3.4	内外面:付着物 [外] 回転ガ・回転ハタ切り [内] 指頭圧痕のち回転ガ	[外] 2.5Y7/3 浅黄 内 2.5Y7/3 浅黄 普:0.5mm程度の石英・長石・1mm程 度の赤色粒	
-	16	130	3-SD13	土師器 杯 底部	- 7.5 [2.1]	[外] ハゲ・回転ハタ切り [内] ハゲ	[外] 7.5YR7/4 にびい橙 内 7.5YR8/4 浅黄橙 普:1~2mm大の石英・長石・赤色 粒良	
58	16	131	3-SD13	黒色土器A 底部	- [7.2] [2.9]	[外] 回転ガ [内] ハゲガキ	[外] 10YR8/2 灰白 内 N15/0 黒 普:1~2mm大の石英・長石・赤色 粒良	

表 9 土器観察表(7)

図版番号	掲図番号	遺物番号	遺構/層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高(cm)	形態的特徴 手法の特徴 [外][内]	色調 [外][内] 胎土 焼成	備考
-	16	132	3-SD13	須恵器 杯B 底部	~ (10.0) [1.4]	高台部：付着物 [外] 回転ハカリ・ハカリ・回 転 [内] 回転が	[外] IN6/0 灰 [内] IN6/0 灰 普: 1 ~ 2 mm 大の石英・長石・赤色 粒良	
58	16	134	3-SD13	土師器 羽釜 口縁部	(18.2) [5.5]	外面：煤付着、内面：ガラで変色 している？接合痕あり [外] 煤付着で確認できない・3 コガ [内] ガ	[外] 10YR7/2 にぶい黄橙 [内] 10YR7/3 にぶい黄橙 普: 3 mm 以下の石英多量・長石・赤 色粒・金雲母	
-	16	135	3-SD13	土師器 羽釜 口縁部	(24.2) -[ [6.2]	内外面：煤付着、接合痕あり [外] 指頭圧痕・ガラ・凹目 [内] 指頭圧痕・ガラ	[外] 10YR7/2 にぶい黄橙 [内] 2.5Y8/2 灰白 普: 3 mm 以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒	
58	16	136	3-SD13	土師器 鍋	(25.4) -[ [9.5]	内外面：付着物、内面：煤付着 [外] ハリ・ナカ [内] コガ	[外] 12.5YR7/6 暗 [内] 10YR7/3 にぶい黄橙 普: 1 ~ 2 mm 大の石英・長石・赤色 粒良	
58	16	137	3-SD13	土師質土器 移動式竈	長さ [13.1] 幅 [9.6] 厚さ [8.1]	内外面：煤付着 [外] ガリ・ナカ [内] ガリ・ナカ	[外] 10YR7/3 にぶい黄橙 [内] 7.5YR6/4 にぶい灰 普: 3 mm 以下の石英・長石多量・赤 色粒・金雲母	
-	16	138	2-SD13	須恵器 杯A 底部	~ (11.2) [1.8]	[外] 回転ハカリのち回転が 回転ハカリ [内] 回転が・指げ？	[外] 2.5Y7/1 灰白 [内] 2.5Y6/1 黄灰 普: 2 mm 以下の長石・赤色粒 良	
-	16	139	2-SD13	須恵器 杯B 底部	~ (9.8) [1.2]	接合痕あり、貼付高台 [外] 回転が・回転ハカリ [内] 回転が・ガ	[外] IN5/0 灰 [内] IN6/0 灰 普: 5 mm 以下の砂粒 良好	
61	20	143	4-SD1 /上層	土師器 杯	(11.0) 6.4 3.3	内外面：付着物 [外] 回転が・板状弦痕 [内] 回転が・ガ	[外] 12.5Y8/2 灰白 [内] 12.5Y8/2 灰白 普: 2 mm 以下の石英・長石 良	
-	20	144	4-SD1 /上層	土師器 杯	(11.3) (6.4) 3.9	[外] 回転が・板状弦痕 [内] 回転が・ガ	[外] 10YR8/2 灰白 [内] 10YR8/2 灰白 普: 1 mm 以下の石英・長石・赤色粒 良	
61	20	145	4-SD1 /上層	土師器 杯	(11.4) 6.5 3.15	[外] 回転が・回転ハカリ [内] 回転が	[外] 5YR6/8 暗 [内] 5YR7/6 暗 普: 1 mm 以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒 良	
-	20	146	4-SD1 /上層	土師器 杯	~ 5.4 [2.2]	[外] 回転ハカリのちガ ? + [内] 回転ハカリ・ガ	[外] 10YR8/2 灰白 [内] 10YR8/2 灰白 普: 1 mm 以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒 良	
61	20	147	4-SD1 /上層	土師器 杯	~ (6.6) [2.9]	[外] 回転が・回転ハカリ [内] 回転が	[外] 10YR7/3 にぶい黄橙 [内] 10YR7/3 にぶい黄橙 普: 0.5 mm 以下の石英・長石・黒色 粒・赤色粒 良	
61	20	148	8-SD1 /最上層	土師器 皿 or 杯	(10.6) 7.0 2.9	歪み有 [外] 回転が・回転ハカリ [内] 回転が	[外] 7.5YR8/3 浅黄橙 [内] 7.5YR8/3 浅黄橙 やや密: 1 mm 以下の石英・長石・雲 母? 良	
61	20	149	8-SD1 /上層	土師器 羽釜	~ -[ [4.0]	外面：煤付着 [外] ヨコナ・板ナ・のちヨコナ [内] ヨコナ・板ナ・のちヨコナ	[外] 10YR4/1 暗灰 [内] 10YR4/2 灰黄褐 粗: 1 mm 程度の石英・長石・雲母・ 角閃石? : 2 ~ 5 mm の小礫 良	
-	21	153	4-SD1 /下層	土師器 杯口縁部	(12.0) -[ [2.5]	[外] 回転が [内] 回転が	[外] 10YR7/3 にぶい黄橙 [内] 10YR7/3 にぶい黄橙 普: 1 mm 程度の石英・長石	
-	21	154	4-SD1 /下層	土師器 杯	~ (5.8) [1.7]	[外] 回転が・回転ハカリ [内] 回転が	[外] 10YR8/3 浅黄橙 [内] 5YR7/6 暗 精良: 1 mm 以下の石英・長石少量 良	

表 10 土器観察表 (8)

図版番号	掲出番号	遺物番号	遺構／層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高 (cm)	形態の特徴 手法の特徴 [外] [内]	色調 [外] [内] 胎土 焼成	備考
-	21	155	4-SD1 /下層	土師器 杯 底部	- (6.0) [1.5]	[外] 回転びのちげ・回転べ 切り [内] 回転びのちげ	[外] 2.5Y7/2 灰黄 [内] 7.5YR6/6 橙 精良: 0.5 mm以下の砂粒 良	
59	21	156	4-SD1 /下層	土師器 杯	- (7.0) [2.85]	[外] 回転び・回転べ切り [内] 回転び	[外] 10YR7/3 にぶい黄橙 [内] 10YR6/3 にぶい黄橙 普: 2 mm以下の石英・長石 良	
59	21	157	4-SD1 /下層	須恵器 杯	13.4 6.1 3.8	底部～体部: 桶裡、口縁部内外面: 被熱膜、体部上半: 付着物? [外] 回転び・回転べ切り [内] 回転び	[外] IN8/0 灰白 [内] IN8/0 灰白 普: 1 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
-	21	158	4-SD1 /下層	須恵器 杯 口縁部	(16.4) [3.0]	[外] どうな汚れ付着 [外] 回転び [内] 回転び	[外] 2.5Y6/1 黄灰 [内] 2.5Y6/1 黄灰 普: 2 mm以下の石英・長石 良	
60	22	159	4-SD1	土師器 杯	(10.8) (8.0) 2.2	[外] 回転び・回転べ切り [内] 回転び	[外] 7.5YR7/4 にぶい橙 [内] 10YR8/2 灰白 普: 1 mm以下の石英・長石 良	
60	22	160	4-SD1	土師器 杯	13.5 6.8 3.4	底部: 暗成後穿孔あり、外面: ボ タ・煤付着。里面: 付着物? [外] 回転び・回転べ切り [内] 回転び・ボ	[外] 7.5YR5/3 にぶい褐 [内] 7.5YR6/4 にぶい褐 普: 3 mm以下の石英・長石 良	
-	22	161	4-SD1	土師器 羽金 口縁部	(22.4) - [5.6]	内外面: 所々に煤付着。接合痕 [外] ボ・口目 [内] ボ	[外] 15YR5/4 にぶい赤褐色 [内] 10YR6/2 灰黄褐 普: 2 mm以下の石英・長石・雲母 良	
61	22	162	4-SD1	須恵質土器 壺 底部	- 12.4 [9.1]	[外] 回転びのちげ・ヨコ ・ガ [内] ヨコ - 指頭圧痕	[外] IN4/0 灰 [内] IN4/0 灰 普: 2 mm以下の石英・長石・黒色粒 良	備前 13C
58	22	163	7-SD1	土師器 杯	(10.7) 2.9 7.0	[外] 回転び・回転べ切り [内] 回転び	[外] 7.5YR8/3 浅黄橙 [内] 10YR8/1 灰白 やや密: 1 mm程度の石英・長石・赤 色粒 良	
-	22	164	7-SD1	須恵器 杯 A 底部	- (11.8) [1.9]	[外] 回転び・べ切り [内] 回転び	[外] IN7/0 灰白 [内] IN6/0 灰 密: 1 mm以下の石英・長石・黒色粒 良	
-	22	165	7-SD1	土師器 羽金	- [5.1]	内外面: 煤付着、接合痕あり [外] ボ・ボのちのち目 [内] ボ・ボのちのち目	[外] 15YR6/1 褐灰 [内] 7.5YR7/1 明褐灰 普: 3 mm以下の石英・長石・赤色粒 ・金雲母 良	
-	24	167	9-SD80 /上層	土師器 杯	(10.5) (7.0) 2.6	[外] 回転び・回転べ切り [内] 回転び	[外] 2.5Y8/2 灰白 [内] 2.5Y8/2 灰白 精良: 砂粒をほとんど含まない 良	
61	24	168	9-SD80 /上層	土師器 杯	(11.2) (7.2) 2.25	内外面: 付着物 [外] 回転び・回転べ切り [内] 回転び	[外] 2.5Y7/2 灰黄 [内] 2.5Y7/2 灰黄 普: 2 mm以下の赤色粒 良	
61	24	169	9-SD80 /上層	土師器 杯	10.8 6.3 3.1	[外] 回転べギザリのち回転び・ 回転べ切り [内] 回転び	[外] 2.5Y8/2 灰白 [内] 2.5Y7/2 灰黄 普: 1 mm以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒 良	
61	24	170	9-SD80 /上層	土師器 杯	(11.2) (7.2) 2.8	[外] 回転び・回転べ切り [内] 回転び	[外] 10YR7/2 にぶい黄橙 [内] 10YR8/2 灰白 普: 1 mm以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒 良	
61	24	171	9-SD80 /上層	土師器 杯	(10.8) 6.9 2.9	[外] 回転べギザリのち回転び・ 回転べ切り [内] 回転び	[外] 2.5Y8/2 灰白 [内] 2.5Y8/2 灰白 普: 2 mm以下の赤色粒 良	
-	24	172	9-SD80 /上層	土師器 杯	(10.8) (7.2) [2.5]	[外] 回転べギザリ・回転び・ 回転べ切り [内] 回転び	[外] 2.5Y8/1 灰白 [内] 2.5Y8/2 灰白 普: 2 mm以下の長石・3.5 mm以下の赤 色粒 良	
61	24	173	9-SD80 /上層	土師器 杯	(10.9) (7.0) 2.65	[外] 回転べギザリ・回転び・ 回転べ切り [内] 回転び	[外] 2.5Y8/2 灰白 [内] 2.5Y8/3 淡黄 普: 2 mm以下の赤色粒 良	

表 11 土器観察表(9)

図版番号	捲回番号	遺物番号	遺構/層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高(cm)	形態の特徴 手法の特徴[外][内]	色調[外][内] 胎土 焼成	備考
61	24	174	9-SD80 /上層	土師器 杯	11.0 7.1 2.55	[外]回転 $\times$ 切り [内]回転 $\times$	[外]2.5Y8/2灰白～2.5Y7/2灰黄 ・5YR7/6橙 [内]2.5Y8/2灰白～2.5Y7/2灰黄 ・5YR7/6橙 普:1mm以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒 良	
-	24	175	9-SD80 /上層	土師器 杯	(11.4) (7.6) [3.0]	[外]回転 $\times$ ・回転 $\times$ 切り [内]回転 $\times$	[外]2.5Y7/2灰白～2.5Y7/1灰白 [内]2.5Y7/2灰白 普:1mm以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒 良	
-	24	176	9-SD80 /上層	土師器 杯	(10.4) (7.2) [3.1]	[外]回転 $\times$ ・回転 $\times$ 切り [内]回転 $\times$ ・ $\times$	[外]2.5Y8/2灰白 [内]2.5Y8/2灰白～7.5YR6/4にぶい 普:1mm以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒 良	
-	24	177	9-SD80 /上層	土師器 杯	- [2.0]	[外]回転 $\times$ ・ $\times$ [内] $\times$ (回転 $\times$ ?)	[外]7.5YR8/4浅黃橙 [内]7.5YR7/4にぶい 普:1mm以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒 良	
-	24	178	9-SD80 /上層	土師器 羽釜 口縁部	- [4.95]	内外面:撲付有り、接合痕あり [外] $\times$ ・荒い目 [内] $\times$	[外]7.5YR5/2灰褐色 [内]7.5YR5/2灰褐色 粗:5mm以下の石英・長石多量 良	
-	25	179	9-SD80 /下層	土師器 杯	(11.4) - [2.6]	[外]回転 $\times$ [内]回転 $\times$	[外]7.5YR6/6橙 [内]7.5YR6/6橙 普:2mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
60	25	180	9-SD80 /下層No.3	土師器 杯	(13.0) (6.6) 3.0	内面:付着物 [外]回転 $\times$ ・回転 $\times$ 切り [内]回転 $\times$	[外]10YR7/2にぶい黄橙 [内]10YR7/2にぶい黄橙 普:1mm以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒・金雲母 良	
60	25	181	9-SD80 /下層No.1	土師器 杯	13.7 7.05 3.65	[外]回転 $\times$ [内]回転 $\times$	[外]7.5YR7/3にぶい [内]7.5YR6/4にぶい 普:4mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
-	25	182	9-SD80 /下層	土師器 杯	(14.6) (8.6) 3.1	[外]回転 $\times$ ・回転 $\times$ 切り [内]回転 $\times$	[外]10YR7/4にぶい黄橙 [内]10YR7/4にぶい黄橙 精良:1mm以下の石英・長石・角閃石 少量 良	
-	25	183	9-SD80 /下層	土師器 杯	(15.3) (6.8) 3.85	[外]回転 $\times$ ・回転 $\times$ 切り [内]回転 $\times$	[外]10YR7/4にぶい黄橙 [内]10YR7/4にぶい黄橙 普:2mm以下の石英・長石 良	
-	25	184	9-SD80 /下層	土師器 杯	- (7.6) [2.4]	内面:付着物 [外]回転 $\times$ [内]回転 $\times$	[外]10YR7/2にぶい黄橙 [内]10YR8/2灰白 普:1mm以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒 良	
59	25	185	9-SD80 /下層	土師器 杯	- 6.8 [2.9]	内外面:煤化・付着物 [外]回転 $\times$ 切りのち回転 $\times$ 回転 $\times$ 切り [内]回転 $\times$	[外]10YR7/3にぶい黄橙 [内]10YR8/3透青橙 普:2mm以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒・金雲母 良	
-	25	186	9-SD80 /下層	土師器 杯 底部	- (7.2) [2.0]	[外]回転 $\times$ ・回転 $\times$ 切り [内]回転 $\times$	[外]2.5Y7/4浅黄 [内]7.5YR6/4にぶい 普:2mm以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒 良	
-	25	187	9-SD80 /下層No.2	土師器 杯 底部	(8.4) (6.3) [1.9]	[外]回転 $\times$ ・回転 $\times$ 切り [内]回転 $\times$	[外]10YR7/2にぶい黄橙 [内]10YR7/2にぶい黄橙 やや密:1mm以下の石英・長石・赤色粒 ・金雲母・角閃石 良	
-	25	188	9-SD80 /下層	須恵器 杯 口縁部	(16.0) [2.25]	内外面:付着物 [外]回転 $\times$ [内]回転 $\times$	[外]2.5Y8/1灰白 [内]5Y8/1灰白 普:1mm以下の石英・長石・黒色粒 良	
-	25	189	9-SD80 /下層	須恵器 杯A 底部	- (7.4) [1.2]	火押らしき痕あり [外]回転 $\times$ ・回転 $\times$ 切り [内]回転 $\times$	[外]10Y6/1灰 [内]10Y6/1灰 普:0.5mm以下の石英・長石・赤色粒 良	中世

表 12 土器観察表 (10)

図版番号	持回番号	遺物番号	遺構／層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高(cm)	形態の特徴 手法の特徴 [外] [内]	色調 [外] [内] 胎土 焼成	備考
-	25	190	9-SD80 /下層No.3	須恵器 杯	- [7.0] [1.8]	内外面：火薬 [外]回転び・回転べ切り [内]回転び	[外]7.5Y7/1灰白 [内]7.5Y7/1灰白～7.5Y6/1灰 粒良：1mm以下の石英・長石・黒色 粒良	
59	25	191	9-SD80 /下層	須恵器 壺	- -[8.55]	外面・内面口縁付近：自然釉 [外]回転べ・アリのち回転び [内]回転び	[外]IN6/0灰 [内]IN7/0灰白 普：1.5mm以下の石英・長石・黒色 粒良	
60	25	192	9-SD80 /下層No.4	黑色土器 A 椀	- 6.4 [3.1]	貼付高台、内外面：付着物多し [外]び・3ヨリ・板形のちけ ・回転べ切り？ [内]びのちび	[外]10YR6/2灰黄褐色 [内]5Y2/1黑 普：1mm以下の石英・長石・金雲母？ 角閃石？ 赤色粒良	
59	25	193	9-SD80 /下層	土師器 羽釜	(22.2) [8.6]	内外面：煤付着 [外]アリのちけ・指頭圧痕のち 3ヨリ・凹目 [内]3ヨリ・指頭圧痕のちけ	[外]10YR6/4にぶい黄橙 [内]7.5YR6/6橙 普：1mm以下の石英・長石・黒色粒 良・赤色粒良	
60	25	194	9-SD80 /下層No.5	土師器 羽釜	(23.8) [6.65]	内外面：煤付着 [外]アリのちけ・び・凹目 [内]び	[外]10YR7/2にぶい黄橙 [内]2.5Y7/2灰黄 普：3mm以下の石英・長石・黒色粒 良	
59	25	195	9-SD80 /下層	土師器 甕 口縁部	(25.2) [7.2]	外面：煤付着 [外]び・好みのち3ヨリ・凹 目 [内]板形・び	[外]10YR7/2にぶい黄橙 [内]10YR7/1灰白・10YR5/1褐灰 粗：0.5～3mmの石英・長石・赤色 粒・雲母？・5mm程度の小穀 良	
-	25	196	9-SD80 /下層	土師質土器 移動式竈	長さ [7.0] 幅 [13.5] 厚さ [4.0]	[外]び [内]指頭圧痕のちけ	[外]7.5YR5/1灰黃褐色 [内]10YR5/1褐灰 粗：0.5～3mmの石英・長石・角閃 石・雲母？・赤色粒良	
-	25	197	9-SD80 /下層	土師質土器 移動式竈	長さ [20.9] 幅 [18.1] 厚さ [7.1]	抜き口：煤化著しい [外]び [内]び	[外]7.5YR6/3～5/3にぶい褐 [内]10YR1/2黒 やや粗・5mm以下の石英・長石・雲 母良	
57	26	198	9-SD80	須恵器 壺 底部	- -(12.2) [5.15]	貼付高台、外面：変色している 部分あり(10YR6/3にぶい黄 橙) [外]回転べアリ・回転び・す レーディーのち回転び	[外]2.5Y7/1灰白 [内]5Y7/1灰白 普：2.5mm以下の石英・長石・黒色 粒良	
58	26	199	9-SD80	瓦質土器 擂鉢 口縁部	(24.0) -[6.9]	内外面：煤化 [外]3ヨリ [内]3ヨリ・凹目	[外]IN4/0灰 [内]2.5Y4/1灰黄 普：2mm以下の石英・長石 良	
-	26	200	9-SD80	瓦質土器 擂鉢 口縁部	- -[5.4]	[外]3ヨリ・指頭圧痕 [内]3ヨリ・凹目	[外]2.5Y8/2灰白 [内]2.5Y7/1灰白 普：1.5mm以下の石英・長石・黒色 粒良	
60	29	207	12-SD2 /中層 砂礫層	土師器 杯	12.0 6.0 3.1	内外面：付着物 [外]回転び・回転べ切り [内]回転び	[外]5YR7/6橙 [内]7.5YR7/4にぶい橙 普：2mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
60	29	208	12-SD2 /中層 砂礫層	土師器 杯	(12.4) (6.0) 2.7	口縁部：対角線上に2ヶ所煤付 着 [外]回転び・回転べ切り [内]回転び	[外]7.5YR6/4にぶい橙 [内]2.5Y7/3浅黄 普：2mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
60	29	209	12-SD2 /中層 砂礫層	土師器 杯	11.8 6.8 3.3	外面：黒斑あり [外]回転び・回転べ切り [内]回転び	[外]10YR7/4にぶい黄橙 [内]7.5YR7/4にぶい橙 普：0.5mm以下の砂粒・赤色粒 良	
60	29	210	12-SD2 /中層 砂礫層	土師器 杯	13.0 -[3.15]	外面：黒斑あり、内外面：付着 物(鉄?) [外]回転び [内]回転び	[外]10YR7/4にぶい黄橙 [内]2.5Y7/3浅黄 普：0.5mm以下の砂粒・赤色粒 良	
-	29	211	12-SD2 /中層 砂礫層	土師器 杯	- [7.1] [2.5]	[外]回転び・回転べ切り [内]回転び	[外]5YR6/6橙 [内]5YR6/6橙 普：0.5mm以下の石英・長石・赤色 粒良	

表 13 土器観察表 (11)

図版番号	排図番号	遺物番号	遺構／層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 高さ(cm)	形態的特徴 手法の特徴 [外][内]	色調 [外][内] 胎土 焼成	備考
61	29	212	12-SD2 /中層 砂礫層	須恵器 杯	(12.3) (6.7) 3.5	外内面：付着物・火搾あり [外]回転打・回転ハ切り [内]回転打	[外]N8/0灰白 [内]2.5Y8/1灰白 普:0.5 mm以下の砂粒 良	
-	29	213	12-SD2 /中層 砂礫層	土師器 移動式竈 底部	- [6.6]	内面：せのような付着物。底 部端部まで凹凸有 [外]外かく [内]指頭圧痕	[外]2.5Y7/2灰黄 [内]2.5Y7/2灰黄 普:1~2 mm大の石英・長石・1 mm大 の赤色粒 良	
60	29	214	12-SD2 /中層 砂礫層	土師器 羽釜 口縁部	(33.0) - [7.1]	[外]指頭圧痕・ヨカナ [内]ヨカナ・ハ	[外]10YR8/4浅黄橙 [内]10YR8/4浅黄橙 普:1~2 mm大の長石・石英・1 mm大 の赤色粒 良	
60	29	215	12-SD2 /中層 砂礫層	弥生土器 壺 口縁部	(15.6) -[8.9]	内外面一部、鉄のような付着物 [外]ハ・指頭圧痕 [内]ハ・ヨカナ	[外]10YR6/2灰黄橙 [内]10YR6/3にぶい黄橙 粗:4 mm以下の石英・長石多量 良	
58	30	216	12-SD2	土師器 杯	(11.2) (5.9) 3.1	[外]回転打・回転ハ切り・マフ [内]回転打・マフ	[外]2.5YR6/8橙 [内]10YR7/3にぶい黄橙 普:1 mm以下の砂粒・赤色粒 良	
58	30	217	12-SD2	土師器 杯	(12.0) 6.8 2.8	[外]回転打・回転ハ切り [内]回転打	[外]2.5Y8/2灰白 [内]2.5Y8/2灰白 普:1.5 mm以下の石英・長石・赤色 粒良	
-	30	218	12-SD2	土師器 杯	(11.8) (6.2) 3.1	[外]ハ [内]ハ	[外]10YR8/2灰白 [内]10YR8/2灰白 普:5 mm大の長石の混入・2 mm以下 の石英・長石・赤色粒 良	
-	30	219	12-SD2	土師器 杯	(12.0) (7.0) [3.3]	[外]回転打・回転ハ切り [内]回転打	[外]10YR7/2にぶい黄橙 [内]10YR7/3にぶい黄橙 普:1 mm以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒 良好	
-	30	220	12-SD2	土師器 杯	(12.8) (7.8) [3.4]	内外面：付着物 [外]回転打・回転ハ切りのち 回転ハカリ [内]回転打	[外]2.5Y8/1灰白 [内]2.5Y8/1灰白 普:2 mm以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒 良好	
58	30	221	12-SD2	土師器 杯	(12.2) 7.4 3.65	[外]回転打・回転ハ切り [内]回転打	[外]10YR8/2灰白 [内]10YR8/2灰白 普:1 mm以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒 良	
-	30	222	12-SD2	土師器 杯	(14.0) -[3.0]	内外面：保付着 [外]回転打・回転ハ切り [内]回転打	[外]7.5YR7/4にぶい橙 [内]7.5YR7/4にぶい橙 普:良	
-	30	223	12-SD2	土師器 杯	(13.8) (7.2) 3.6	内外面：付着物 [外]回転打・回転ハ切り [内]回転打	[外]5YR6/6橙 [内]5YR6/6橙 普:1 mm以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒 良	
58	30	224	12-SD2	土師器 杯	(12.8) (6.4) 3.6	内面：付着物 [外]回転打・回転ハ切り [内]回転打	[外]10YR8/1灰白 [内]10YR8/1灰白 普:1 mm程度の石英・長石・赤色粒 良	
58	30	225	12-SD2	土師器 杯	(13.0) (6.7) 3.9	[外]回転打・回転ハ切り [内]回転打	[外]7.5YR7/4にぶい橙 [内]7.5YR7/4にぶい橙 普:0.5 mm以下の砂粒 良	
58	30	226	12-SD2	土師器 杯	(14.0) 6.9 3.8	[外]マフ [内]マフ	[外]7.5YR8/4浅黄橙 [内]7.5YR8/4浅黄橙 普:3 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
58	30	227	12-SD2	土師器 杯	15.8 7.7 4.85	内面：付着物 [外]回転打・回転ハ切り [内]回転打・指げ?	[外]10YR6/3にぶい黄橙 [内]10YR7/3にぶい黄橙 普:1 mm以下の赤色粒・3 mm以下の石 英・長石 良	

表 14 土器観察表 (12)

図版番号	排図番号	遺物番号	遺構／層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高 (cm)	形態の特徴、 手法の特徴 [外] [内]	色調 [外] [内] 胎土 焼成	備考
-	30	228	12-SD2	土師器 杯 口縁部	(15.9) -[2.35]	[外] 回転がい [内] 回転がい	[外] 10YR7/3 にぶい黄橙 [内] 10YR7/3 にぶい黄橙 普: 1.5 mm以下の長石・赤色粒 良	
-	30	229	12-SD2	土師器 杯	(14.0) -[3.8]	[外] 回転がい [内] 回転がい・マダ	[外] 10YR7/3 にぶい黄橙 [内] 10YR8/2 灰白 普: 1.5 mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒 良好	
-	30	230	12-SD2	土師器 杯	(14.0) -[4.5]	外面: 付着物 [外] 回転がい [内] 回転がい	[外] 7.5YR8/2 灰白 [内] 7.5YR8/4 浅黄橙 普: 1 mm以下の赤色粒・2 mm以下の石英 良	
58	30	231	12-SD2	土師器 杯	- 6.5 [3.1]	[外] ナギ・回転へり切り [内] ナギ	[外] 5YR6/6 橙 [内] 5YR6/6 橙 普: 1 ~ 3 mmの石英・長石・1 mm以下の雲母・赤色粒 良	
-	30	232	12-SD2	土師器 杯 底部	- (7.0) [1.5]	里面: 付着物 [外] 回転がい [内] 調整不明	[外] 7.5YR8/3 浅黄橙 [内] 7.5YR8/3 浅黄橙 普: 2.5 mm以下の長石 良	
58	30	233	12-SD2	土師器 杯	- 5.8 [2.4]	里面: 付着物 [外] ナギ [内] ナギ	[外] 10YR8/3 浅黄橙 [内] 10YR8/3 浅黄橙 普: 1 ~ 2 mmの石英・長石・1 mmの大赤色粒 良	
-	30	234	12-SD2	土師器 杯	- (6.4) [2.15]	[外] 回転がい・マダ・回転へり切り [内] 回転がい・マダ	[外] 5YR8/3 淡橙 [内] 5YR8/4 淡橙 普: 1.5 mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒 良	
58	30	235	12-SD2	土師器 杯	- 8.0 [3.2]	外面: 付着物・煤付着 [外] 回転がい・回転へり切りのち ガ [内] 回転がい	[外] 10YR7/2 にぶい黄橙 [内] 10YR7/3 にぶい黄橙 普: 1 mm以下の石英・長石・黒色粒 良	
58	30	236	12-SD2	土師器 高台付杯	13.3 7.45 4.6	外面底部・体部の一部: 煤化、接合痕あり [外] 回転がい・回転へり切り [内] 回転がい	[外] 10YR8/2 灰白 ~ 10YR7/2 に ぶい黄橙 [内] 10YR8/2 灰白 ~ 10YR7/2 に ぶい黄橙 普: 1.5 mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒 良	
58	30	237	12-SD2	土師器 皿	10.6 8.1 1.9	[外] 回転がい・回転へり切りのち ガ [内] 回転がい	[外] 7.5YR8/3 浅黄橙 [内] 7.5YR8/4 浅黄橙 普: 2 mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒 良好	
58	30	238	12-SD2	土師器 羽釜 口縁部	(23.1) -[9.4]	外面: 煤付着、接合痕あり [外] 回転がい・指頭圧痕・けい ガ [内] 回転がい・不定方向のけい ガ	[外] 10YR5/2 灰黄褐 [内] 10YR5/2 灰黄褐 普: 3 mm以下の石英・長石・2 mm以下の赤色粒・0.5 mm以下の金雲母 良	
-	30	239	12-SD2	土師器 羽釜	(22.1) -[13.25]	全面全體: 煤付着、接合痕あり [外] 33才・マダ・けいのち指頭圧痕・粘土紐目痕 [内] 33才・マダのち板根	[外] 10YR7/3 にぶい黄橙 [内] 10YR6/4 にぶい黄橙 普: 0.5 ~ 2 mmの石英・長石・1 mm以下の赤色粒 良	
58	30	240	12-SD2	土師器 羽釜 口縁部	- -[5.2]	外面: 付着物。外面顎部から下 煤付着、接合痕あり [外] ナギ・3才・けいのち指頭圧痕 [内] 3才才・マダのち板根	[外] 7.5YR6/8 橙・7.5YR1.7/1 黒 [内] 10YR5/2 灰黄褐・7.5YR6/6 橙 普: 4 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
58	30	241	12-SD2	土師器 鍋? 口縁部	- -[6.5]	焼成前穿孔。 外面: 煤付着・付着物 [外] ナギ・少目 [内] ナギ・ナギのち指頭圧痕	[外] 10YR4/2 灰黄褐 [内] 10YR4/2 灰黄褐 普: 3 ~ 7 mmの小砾・1 mm以下の石英・長石・雲母 良	
-	30	242	12-SD2	土師器 移動式竈	- -[4.95]	接合痕、付着物多し [外] ナギ・ナギ [内] ナギのち指頭圧痕	[外] 7.5YR5/4 にぶい褐 [内] 7.5YR5/3 にぶい褐 普: 3 mm程度の石英・長石・赤色粒・雲母 良	

表 15 土器観察表(13)

図版番号	掲図番号	遺物番号	遺構/層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高(cm)	形態の特徴 手法の特徴 [外][内]	色調 [外][内] 胎土 焼成	備考
57	30	243	12-SD2	弥生土器 壺 底部	- (8.6) [5.1]	[外] 277 [内] 277	[外] 2.5Y8/2 灰白 [内] 5YR5/8 明赤褐 粗: 5 mm以下の石英・長石・1 mmの大赤色粒・雲母 良	
60	35	247	13-SD3/ 中層(砂礫層 とシルトの間)	土師器 羽釜 口縁部	(23.6) - [6.9]	接合痕あり。内外面: 付着物、 内外面: 煙付着 [外] 3コナ - 指頭圧痕・粘土細 目痕・外カナ - 277 [内] 3コナ - 277	[外] 2.5Y6/1 黄灰 [内] 2.5Y5/1 黄灰 粗: 1 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
-	35	248	13-SD3/ 中層(砂礫層 とシルトの間)	土師器 羽釜 口縁部	(27.8) [8.5]	外面: 付着物、接合痕あり [外] 3コナ - 277 のち指頭圧 痕・外カナ - 277 [内] 3コナ - 板が	[外] 10YR4/2 灰黄褐 [内] JN3/0 鑑灰 粗: 2 mm以下の石英・長石・ 赤色粒 良好	
60	35	249	13-SD3/ 中層(砂礫層 とシルトの間)- 13-SD2/ 砂礫層 No 1	土師器 移動式壺 底部	- (37.6) [9.0]	内面: 帽状に煙付着、外面: 一部 煙付着 [外] 3コナ - 277 [内] 指頭圧痕・277	[外] 10YR5/3 にぶい黄褐 2.5YR6/6 橙 [内] JN3/0 にぶい褐 - 7.5YR6/4 にぶい橙 粗: 3 mm以下の石英・長石・ 赤色粒 良	
-	36	250	13-SD3 /最下層	須恵器 杯	(14.0) -[3.0]	内外面: 黒斑・付着物 [外] 回転が [内] 回転が	[外] 7.5Y8/1 灰白 [内] 5Y8/1 灰白 粗: 1 mm以下の石英・長石 良	
-	36	251	13-SD3 /最下層	須恵器 杯 口縁部	(14.7) -[3.4]	[外] 回転が [内] 回転が のち回転が	[外] 7.5Y8/1 黄白 [内] 5Y8/2 灰白 粗: 1 mm以下の石英・長石・ 黒色粒 良	
-	36	252	13-SD3 /最下層	黒色土器 A 杯	- [3.7]	内外面: 付着物 [外] 277 - 指頭圧痕 [内] 回転が - 277	[外] 10YR8/3 浅黄褐 [内] 黒 粗: 0.5 mm以下の砂粒・金雲母 良	
59	36	253	13-SD3/ 最 下層-13- SD2/ 中層 (砂礫層)	土師器 移動式壺 口縁部	長さ [4.7] 幅 [20.8] 厚さ 2.9	接合痕あり、端部内面側・内面 化 [外] 3コナ - 指頭圧痕 [内] 3コナ	[外] 10YR7/6 明赤褐 [内] 10YR5/2 灰黄褐 粗: 0.5 ~ 3 mm程度の石英・長石・ 金雲母 良	
-	37	256	13-SD3 アゼ A 以北	土師器 鉢 口縁部	- [3.9]	[外] 277 - 3コナ [内] 3コナ - 板が ?	[外] JSY5/1 褐 [内] JSY5/1 褐 粗: 3 mm以下の石英・長石・ 黒色粒 良好	
58	37	257	13-SD3 セク A 以北	土師器 三足羽釜 脚部	長さ [10.4] 幅 3.2 厚さ 2.5	[外] 指が [内] -	[外] 10YR7/3 にぶい黄褐 [内] - 粗: 2 mm以下の石英・長石・ 黒色粒・ 赤色粒 良	
-	38	260	13-SD1	土師器 杯	(13.4) [3.3]	[外] 回転が - 不定方向のが [内] 回転が	[外] IN4/0 褐 [内] JN7/0 白 粗: 1 mm以下の石英・長石 良	
57	38	262	13-SD1	須恵器 杯 B 底部	- [9.4] [2.7]	削出高台 [外] 回転が [内] 277	[外] IN4/0 褐 [内] JN7/0 白 粗: 1 mm以下の石英・長石 良	
-	38	264	13-SD1	土師器 羽釜 口縁部	- -[3.8]	外面: 煙付着 [外] 3コナ - 指頭圧痕 - 277 [内] 板が	[外] 10YR7/3 にぶい黄褐 [内] 10YR5/4 にぶい黄褐 粗: 0.5 mm以下の石英・長石・ 黒色粒・ 赤色粒 良	
58	38	265	13-SD1	土師器 三足羽釜 脚部	長さ [11.3] 幅 5.35 厚さ 3.05	煙付着 [外] 指頭圧のちが [内] -	[外] 10YR7/3 にぶい黄褐 [内] 2.5YR7/3 浅黄 粗: 0.5 mm以下の石英・長石・ 角閃石 良	
61	39	266	13-SD2 /上層	土師器 杯	(10.8) 6.7 3.3	[外] 回転が - 回転へ切り [内] 回転が	[外] 7.5YR7/3 にぶい橙 [内] 7.5YR7/4 にぶい橙 粗: 2.5 mm以下の石英・長石・ 黒色粒・ 赤色粒 良	
61	39	267	13-SD2 /上層 セク B 以南	土師器 杯	10.8 6.0 3.5	[外] 回転が - 回転へ切り [内] 回転が	[外] 10YR8/2 灰白 [内] 7.5YR8/4 浅黄褐 粗: 1 mm以下の石英・長石・ 赤色粒 良	

表 16 土器觀察表 (14)

図版番号	持団番号	遺物番号	遺構／層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 高さ (cm)	形態の特徴 手法の特徴 [外] [内]	色調 [外] [内] 胎土 焼成	備考
61	39	268	13-SD2 /上層 セクB以南	土師器 杯	11.3 7.0 3.6	外面：付着物 [外] 回転打・回転ハタ切り [内] 回転打	[外] 5YR7/6 暗 [内] 17.5YR7/6 暗 昔 0.5 mm以下の砂粒・赤色粒・金 雲母・良	
-	39	269	13-SD2 /上層	土師器 杯	(11.8) 6.6 3.6	外面：付着物 [外] 回転打・回転ハタ切り [内] 回転打	[外] 10YR8/3 浅黄橙 [内] 5YR8/4 淡灰 昔 1 mm以下の石英・長石・黒色粒・ 赤色粒・良	
-	39	270	13-SD2 /上層 セクB以南	土師器 杯	(14.2) (8.8) 3.85	外面：付着物 [外] 回転打・マサ [内] 回転打	[外] 17.5YR8/4 浅黄橙 [内] 17.5YR8/6 浅黄橙 昔 0.5 mm以下の石英・長石・雲母・ 赤色粒・良	
-	39	271	13-SD2 /上層 セクB以南	土師器 杯	(14.0) (7.0) 4.9	外面：付着物 [外] 回転打・マサ [内] マサ	[外] 17.5YR8/2 白灰 [内] 17.5YR8/2 白灰 昔 1 mm以下の石英・長石・雲母・ 赤色粒・良	
-	39	272	13-SD2 /上層 セクB以南	土師器 杯	(14.0) - [3.2]	[外] 回転打 (マサ) [内] 回転打 (マサ)	[外] 17.5YR6/4 にぶい橙 [内] 10YR6/2 黄褐 昔 1 mm以下の石英・長石 良	
-	39	273	13-SD2 /上層 セクB以南	土師器 杯 口縁部	(14.0) - [2.1]	[外] マサ [内] マサ	[外] 17.5YR6/4 にぶい橙 [内] 17.5YR6/4 にぶい橙 昔 1 mm以下の石英・長石 良	
-	39	274	13-SD2 /上層	土師器 杯	(12.4) - [2.6]	[外] 回転打 (マサ) [内] 回転打 (マサ)	[外] 17.5YR8/6 浅黄橙 [内] 17.5YR8/4 浅黄橙 昔 2 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
61	39	275	13-SD2 /上層 セクB以南	土師器 杯 底部	- 6.8 [2.7]	底面内部：焼化 [外] 回転打 (マサ)・回転ハタ切り [内] 回転打 (マサ)	[外] 17.5YR8/4 浅黄橙 [内] 17.5YR8/3 浅黄橙 昔 1~2 mmの石英・長石・赤色粒 良	
62	39	276	13-SD2 /上層	須恵器 皿	(14.6) (11.2) 1.65	[外] 回転打・回転ハタ切り [内] 回転打	[外] N6/0 灰 [内] N6/0 灰 昔 1 mm以下の石英・長石 良	
61	39	277	13-SD2 /上層 セクB以南	黒色土器 A 椀	(12.8) (6.8) 4.7	外面黒色化しているが並 列でできない [外] 回転打・回転ハタギリ [内] ハタギリ	[外] N3/0 暗灰・10YR7/3 にぶい黄 [内] N2/0 黑 昔 1 mm以下の石英・長石多量・角 閃石・金雲母 良	
61	39	278	13-SD2 /上層 セクB以南	黒色土器 B 椀 底部	- (6.8) [2.0]	[外] 回転打 [内] ハタギリ・マサ	[外] 2.5Y3/1 黒褐 [内] 2.5Y3/1 黑褐 昔 0.5 mm以下の石英・長石 良	
62	39	280	13-SD2 /上層	瓦器 椀 底部	- (4.2) [1.25]	[外] 回転打・指頭圧痕 [内] 格子状の端文	[外] 17.5Y7/1 白灰 [内] N6/0 灰 積良好 良	
-	39	281	13-SD2 /上層	土師器 羽釜 口縁部	(20.2) - [5.05]	接合痕あり。外面：煤付着、 内面：付着物 外：ヨコナ・ボ・ヨコナ 内：ヨコナ・ボ	[外] 10YR5/2 黄褐 [内] 10YR4/2 黄褐 昔 0.5 mm以下の石英・長石・雲 母・赤色粒 良	
61	39	282	13-SD2 /上層	土師器 羽釜 口縁部	(21.9) - [6.4]	接合痕あり。外面：煤付着、 内面：付着物 外：ヨコナ・ボ・ヨコナ 内：ヨコナ・ボ	[外] 10YR8/4 浅黄橙 [内] 10YR8/6 浅黄橙 昔 0.5 mm以下の石英・長石・赤色 粒・良	
-	39	283	13-SD2 /上層	土師器 羽釜 口縁部	(25.7) - [6.1]	内面：煤付着、付着物、接合痕 あり 外：ヨコナ・ボ・ヨコナ 内：ヨコナ・ボ・板打	[外] 17.5YR7/6 橙 [内] 10YR4/2 黄褐 昔 1 mm以下の石英・長石・角閃石 ・赤色粒・良	
61	39	284	13-SD2 /上層 洪水砂層	土師器 三足羽釜 脚部	長さ [7.8] 幅 2.5 厚さ 1.9	煤付着 外：ボ・板打・指頭圧痕 内：	[外] 5YR4/6 赤褐 [内] - 昔 2 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	

表 17 土器観察表 (15)

図版番号	掲図番号	遺物番号	遺構/層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高(cm)	形態の特徴 手法の特徴[外][内]	色調[外][内] 胎土 焼成	備考
61	39	285	13-SD2 /上層 洪沢砂層	土師器 三足羽釜 脚部	長さ [7.8] 幅 2.7 厚さ 2.05	付着物 [外] ダイ・マフ [内] -	[外] 10YR5/3 にぶい黄褐色 [内] - 普: 1 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
62	39	286	13-SD2 /上層	瓦質土器 鉢	(32.8) - [9.7]	[外] 3コナギ・外斜 [内] 3コナギ・板状	[外] IN5/0 灰 [内] IN4/0 灰 普: 2 mm以下の石英・長石 良	
62	39	287	13-SD2 /上層 洪沢砂層	須恵器 壺 口縁部	(30.0) - [8.2]	垂み有 [外] 3コナギ・ダ・自然釉 [内] 3コナギ	[外] 17.5YR5/2 灰褐色・N4/ 灰 [内] N4/0 灰 ~ N6/0 灰 普: 0.5 ~ 4 mmの石英・長石 良	
61	39	288	13-SD2 /上層	土師器 移動式壺	長さ [9.7] 幅 [10.2] 厚さ [5.5]	[外] ダイ [内] ダイ	[外] 2.5Y7/4 浅黄 [内] 10YR7/4 にぶい黄褐色 普: 0.5 mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母・赤色粒 良	
61	39	289	13-SD2 /上層	土師器 移動式壺 底部	(26.4) - [7.8]	内面: 探付着 [外] 3コナギ・3コナギ・ダ [内] 壁のため不明	[外] 10YR5/2 灰褐色 [内] 17.5YR6/4 にぶい橙 普: 2 mm以下の石英・長石・赤色粒・まれに 5 mm以上のものあり 良	
-	39	290	13-SD2 /上層	土師器 移動式壺 底部	- - [5.9]	内外面: 探付着 [外] 3コナギ・ヘタツリ [内] 指頭圧痕・マフ	[外] 15YR6/6 橙 [内] 15YR7/6 橙 普: 4 mm以下の石英・長石・2 mm以下の赤色粒 良	
61	39	291	13-SD2 /上層	土師器 器種不明 取手	長さ [7.3] 幅 [6.1] 厚さ [3.5]	[外] 指頭圧痕・凹目 [内] 指頭圧痕・工具痕	[外] 10YR5/1 黄褐色・7.5YR5/4 にぶい橙 [内] 17.5YR6/4 にぶい橙 普: 1 mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒・角閃石 良	
60	40	293	13-SD2 /中層 砂礫層	土師器 杯	(12.6) (6.4) 3.0	内面: 付着物 [外] 回転形・回転ハタ切り [内] 回転形	[外] 17.5YR6/3 浅黄褐色 [内] 15YR5/6 明赤褐色 普: 長石・石英・雲母・赤色粒 良	
-	40	294	13-SD2 /中層 砂礫層	土師器 杯	(12.9) 6.0 3.95	垂み有 [外] 回転形・回転ハタ切りのち [内] 回転形	[外] 17.5YR8/3 浅黄褐色 [内] 17.5YR8/2 灰白色 精良: 1 mm以下の石英・長石・赤色粒 良好	
60	40	295	13-SD2 /中層 砂礫層 No. 2	土師器 杯	13.0 7.05 3.8	底部: 黒斑あり、内部: 付着物 [外] 回転形・回転ハタ切り [内] 回転形	[外] 17.5YR7/4 にぶい橙 [内] 17.5YR7/4 にぶい橙 普: 0.5 mm以下の石英・長石・金雲母・1 mm以下の赤色粒 良	
59	40	296	13-SD2 /中層 No. 8	土師器 杯	(13.4) (6.6) 3.5	[外] 回転形・回転ハタ切り [内] 回転形	[外] 15YR6/6 橙 [内] 17.5YR6/4 にぶい橙 普: 1 mm以下の赤色粒 良	
60	40	297	13-SD2 /中層 砂礫層 No. 4	土師器 杯	13.2 6.0 3.7	[外] 回転形 (マフ)・回転ハタ切り (マフ) [内] 回転形 (マフ)	[外] 17.5YR7/4 にぶい橙 [内] 17.5YR8/4 浅黄褐色 普: 2 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
60	40	298	13-SD2 /中層 砂礫層 No. 3	土師器 杯	13.7 6.5 4	[外] 回転形・回転ハタ切り [内] 回転形 (マフ)	[外] 15YR6/6 橙 [内] 15YR6/6 橙 普: 2 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
-	40	299	13-SD2 /中層 砂礫層	土師器 杯	(13.4) [2.3]	外面: 付着物 [外] 回転形 [内] 回転形	[外] 15YR6/6 橙 [内] 15YR6/6 にぶい橙 普: 1 mm以下の石英・長石・赤色粒 良好	
-	40	300	13-SD2 /中層 砂礫層	土師器 杯	(14.2) - [3.7]	内面: 付着物 [外] 回転形 [内] 回転形	[外] 10YR7/3 にぶい黄褐色 [内] 10YR8/2 灰白 普: 1 mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒 良	
-	40	301	13-SD2 /中層 砂礫層	土師器 杯	(11.8) (5.6) [2.8]	内外面: 付着物 [外] 回転形 [内] 回転形	[外] 2.5Y7/2 灰黃 [内] 12.5Y5/2 灰白 精良: 黑色粒・赤色粒 良	
-	40	302	13-SD2 /中層	土師器 杯	- (6.7) [3.0]	内外面: 付着物 [外] 回転形・回転ハタ切り [内] 回転形	[外] 17.5YR7/6 橙 [内] 15YR6/6 橙 普: 1 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	

表 18 土器観察表 (16)

図版番号	持団番号	遺物番号	遺構/層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高(cm)	形態の特徴 手法の特徴[外][内]	色調[外][内] 胎土 焼成	備考
-	40	303	13-SD2/ 中層 砂礫層	土師器 杯 底部	- (7.0) [2.4]	[外]回転び・回転へきりのち び [内]回転び	[外]5YR6/4にぶい橙 [内]5YR6/4にぶい橙 普:1 mm以下の石英・長石・赤色粒 良好	
-	40	304	13-SD2/ 中層 砂礫層	須恵器 杯	- (7.0) [2.4]	内外面:付着物、外面:黒斑 [外]回転び・回転びのち指 頭圧痕・回転へきり [内]回転び	[外]2.5Y7/3浅黄 [内]5YR4/4にぶい赤褐 普:2 mm以下の石英・長石・赤色粒 不良	
-	40	305	13-SD2/ 中層 砂礫層	須恵器 杯蓋	(12.4) - [2.6]	[外]回転び [内]回転び	[外]IN7/0灰白 [内]IN8/0灰白 普:1 mm以下の長石・黒色粒 良好	古墳時代
-	40	306	13-SD2/ 中層 砂礫層	須恵器 蓋	(14.0) - [2.4]	[外]回転び [内]回転び	[外]IN5/0灰 [内]IN7/0灰白 普:2 mm以下の石英・長石・黒色粒 良好	古墳時代
61	40	307	13-SD2/ 中層	須恵器 蓋 口縁部	- - [2.0]	外面:付着物 [外]回転びのち回転び [内]回転び	[外]5Y6/1灰・N6/0灰 [内]IN6/0灰 普:1 mm以下の石英・長石・黒色粒 良好	古代
61	40	308	13-SD2/ 中層 砂礫層	須恵器 杯B 底部	- (11.1) [3.6]	貼付高台 [外]回転び・回転へきり [内]回転び	[外]IN6/0灰 [内]IN6/0灰 普:2 mm以下の長石・黒色粒 良好	古代
-	40	309	13-SD2/ 中層 砂礫層	須恵器 杯A	(12.0) - [3.5]	外面:付着物 [外]回転び・回転へきり [内]回転び	[外]IN4/0灰 [内]IN6/0灰 普:1 mm以下の石英・長石・黒色粒 良好	古代
61	40	310	12-13-SD2/ 中層 砂礫層	須恵器 皿	(12.3) (9.0) 1.9	内外面:煤付着 [外]回転び・回転へきり [内]回転び	[外]IN8/0灰白 [内]2.5Y6/2灰白 普:0.5 mm以下の砂粒 良好	古代
-	40	311	13-SD2/ 中層 砂礫層	須恵器 杯	(15.0) - [4.05]	墨み有、内外面:黒斑あり、外 面:火燐?の跡あり [外]回転び [内]回転び	[外]5Y7/1灰白 [内]10YR6/3にぶい黄橙 普:1.5 mm以下の石英・長石・黒色 粒・赤色粒 良好	
-	40	312	13-SD2/ 中層 砂礫層	須恵器 杯	(15.5) - [4.3]	墨み有 [外]回転び [内]回転び	[外]2.5Y7/1灰白 [内]5Y7/1灰白 普:0.5 mm以下の石英・長石・赤色 粒良好	
-	40	313	13-SD2/ 中層	須恵器 杯 口縁部	(15.2) - [2.6]	[外]回転び [内]回転び	[外]IN5/0灰 [内]IN5/0灰 普:3 mm前後の石英・長石 良好	
61	40	314	13-SD2/ 中層 砂礫層	須恵器 杯	(13.0) (7.4) 3.2	外面:付着物 [外]回転び・回転へきり [内]回転び	[外]5Y7/1灰白 [内]5Y7/1灰白 普:2 mm以下の石英・長石 良好	
-	40	315	13-SD2/ 中層 砂礫層	須恵器 杯	- (7.6) [2.45]	外面:付着物 [外]回転び・回転へきり [内]回転び	[外]IN6/0灰 [内]7.5Y6/1灰 普:1 mm以下の長石・金雲母 良好	
-	40	316	13-SD2/ 中層 砂礫層	須恵器 杯 底部	- (6.8) [1.5]	外面:火燐 [外]回転び・回転へきり [内]回転び	[外]5Y7/1灰白 [内]2.5Y7/1灰白 普:1 mm以下の石英・長石 良好	
-	40	317	13-SD2/ 中層 砂礫層	須恵器 杯 底部	- (8.1) [2.0]	内外面:付着物 [外]回転び・回転へきりのち び [内]回転び	[外]IN8/0灰白 [内]5Y8/1灰白 普:1 mm以下の石英・長石・赤色粒 良好	
-	40	318	13-SD2/ 中層	須恵器 杯	- - [2.5]	[外]回転び・回転へきり [内]回転び	[外]5Y8/1灰白 [内]5Y8/1灰白 普:1 mm以下の石英・長石・黒色粒 良好	
-	40	319	13-SD2/ 中層 砂礫層	須恵器 杯	- - [2.6]	口縁部:墨み有 [外]回転び [内]回転び	[外]5Y8/1灰白 [内]7.5YR6/6橙 普:2 mm以下の石英・長石・黒色粒 良好	
-	40	320	13-SD2/ 中層	須恵器 杯	- - 3.6	墨み有 [外]回転び・回転へきり [内]回転び	[外]IN6/0灰 [内]IN6/0灰 普:1 mm以下の石英・長石・黒色粒 良好	

表 19 土器観察表 (17)

図版番号	掲出番号	遺物番号	遺構/層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高 (cm)	形態の特徴 手法の特徴 [外] [内]	色調 [外] [内] 胎土 焼成	備考
60	40	321	13-SD2 / 中層 砂礫層	黒色土器 A 碗 底部	- (9.9) [0.9]	[外] ナギ [内] ハニカミ	[外] 10YR6/3 にびい黄橙 [内] 10YR2/1 黒 普: 1 mm以下の長石・金雲母 良	
60	40	322	13-SD2 / 中層 砂礫層	黒色土器 A 碗 底部	- (7.6) [1.9]	貼付高台 [外] ナギ [内] ハニカミ	[外] 7.5YR6/6 棕 [内] 10YR/0 灰・7.5YR5/6 明褐 精良: 1 mm以下の石英・長石・雲母 ・赤色粒 良好	
60	40	323	13-SD2 / 中層 砂礫層 No.5	黒色土器 A 杯 底部	- (6.9) [2.55]	貼付高台、外面・底部: 黒斑あり [外] ナギ [内] ハニカミ	[外] 7.5YR6/8 棕 [内] 黒 普: 0.5 mm以下の石英・長石 良	
-	40	324	13-SD2 / 中層 砂礫層	黒色土器 A 碗 口縁部	- - [2.4]	内外面: 付着物 内面付着物のため暗紋見えず [外] 回転ナギ [内] 調整不明	[外] 2.5Y7/3 浅黄 [内] 2.5Y3/1 黒褐 普: 1.5 mm以下の長石・金雲母 良	
-	40	325	13-SD2 / 中層 砂礫層	黒色土器 A 碗 口縁部	- - [2.6]	[外] ナギ [内] ナギ・3.3ナギ のちハニカミ	[外] IN3/0 暗灰 [内] 10YR/0 灰 普: 0.5 mm以下の石英・長石・雲母 良	
-	40	326	13-SD2 / 中層 砂礫層	土師器 羽金 口縁部	(23.4) - [9.2]	内面全体・外面一部: 付着物、 接合痕あり [外] ナギ・指頭圧痕・指頭圧痕 [内] ナギ・板ナギ	[外] 10YR4/1 暗灰 [内] 10YR4/1 暗灰 普: 1.5 mm以下の石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒 良好	
60	40	327	13-SD2 / 中層 砂礫層	土師器 羽金 口縁部	(22.1) - [8.5]	内外面: 煙付着 [外] 3.3ナギ・指頭圧痕・ハリ目 [内] 3.3ナギ	[外] 7.5YR6/7 棕 [内] 10YR4/2 灰黄褐 普: 5 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
-	40	328	13-SD2 / 中層	土師器 羽金 口縁部	(22.0) - [7.7]	内外面: 煙付着、外面・火炎 のよう付着物 接合痕あり [外] 3.3ナギ・指頭圧痕・3.3ナギ [内] 指頭圧痕	[外] IN5/0 灰 [内] 10YR3/1 黒褐 普: 1 mm大の石英・長石・赤色粒 良	
-	40	329	13-SD2 / 中層 砂礫層	土師器 羽金 口縁部	(22.0) - [7.0]	外面: 煙付着。内面: 付着物、 接合痕あり [外] 3.3ナギ・指頭圧痕・ハリ目 [内] ナギ	[外] 7.5YR7/3 にびい黄 [内] 7.5YR7/3 にびい黄 普: 2.5 mm以下の石英・長石・赤色粒 普: 1 mm以下の黒雲母・金雲母 良	
60	40	330	13-SD2 / 中層 砂礫層	土師器 羽金 口縁部	(23.6) - [6.2]	接合痕あり、内外面: 煙付着、 付着物 [外] ナギ・ハリ目 [内] ナギ	[外] 2.5Y5/2 暗灰黄 [内] 2.5Y5/2 暗灰黄 普: 3 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
-	40	331	13-SD2 / 中層 砂礫層	土師器 羽金 口縁部	- - [6.7]	外面口縁部・内面: 付着物、 外: ナギ・好ナギ 内: ナギ	[外] 10YR7/2 にびい黄橙 [内] 10YR4/1 暗灰 普: 3.5 mm以下の石英・長石・1.5 mm 以下の赤色粒・黒雲母 良	
-	40	332	13-SD2 / 中層 砂礫層	土師器 羽金 口縁部	- - [7.1]	接合痕あり、内面: 煙化 [外] 指頭圧痕・ハリ・ヨコナギ [内] ヨコナギ・板ナギ	[外] 10YR7/2 にびい黄橙 [内] 10YR4/1 暗灰 普: 2 mm以下の石英・黒雲母・石英・ 長石・赤色粒・赤色粒 良	
-	40	333	13-SD2 / 中層 砂礫層	土師器 羽金 口縁部	- - [4.9]	内外面: 煙付着・付着物、接合 痕あり [外] 3.3ナギ・好ナギ・指頭圧痕 [内] ヨコナギ	[外] 2.5Y7/2 灰黄 [内] 10YR5/1 暗灰 普: 2.5 mm以下の石英・長石 良	
-	40	334	13-SD2 / 中層 砂礫層	土師器 器種不明 口縁部	- - [6.05]	接合痕あり [外] ナギ・3.3ナギ・ハリ [内] ヨコナギ・板ナギ	[外] 2.5Y7/2 灰黄 [内] 2.5Y7/2 灰黄 普: 1.5 mm以下の石英・長石・0.5 mm 以下の金雲母 良	
-	40	335	13-SD2 / 中層	土師器 鉢 口縁部	- - [2.8]	[外] ヨコナギ [内] 指頭圧痕・ナギ	[外] 7.5YR6/6 棕 [内] 10YR6/4 にびい黄橙 普: 2 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
60	40	336	13-SD2 / 中層 砂礫層	土師器 鉢 口縁部	- - [5.85]	内面全体: 煙付着 [外] 3.3ナギ・2.7ナギ [内] ヨコナギ・板ナギ	[外] 10YR6/3 にびい黄橙 [内] 10YR2/1 黒 普: 3 mm以下の石英・長石・雲母・ 赤色粒 良	
60	41	337	13-SD2 / 中層 砂礫層	土師器 甕 口縁部	- - [5.3]	外面: 付着物 [外] ハリ・ナギ [内] ヨコナギ・ナギ	[外] 10YR7/3 にびい黄橙 [内] 7.5YR6/4 にびい黄 普: 1 ~ 2 mm大の長石・石英・赤色 粒 良	

表 20 土器観察表 (18)

図版番号	排回番号	遺物番号	造構/層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高(cm)	形態の特徴 手法の特徴 [外][内]	色調 [外][内] 胎土 焼成	備考
-	41	338	13-SD2/ 中層 砂礫層	土師器 甕 口縁部	- [4.5]	[外] 手 [内] 手・33カ	[外] 2.5Y7/2 灰黄 [内] 2.5Y7/3 灰黄 普:4 mm以下の石英・1 mm以下の長石・赤色粒・金雲母 良	
60	41	339	13-SD2/ 中層 砂礫層	土師器 甕 口縁部	(40.2) [6.5]	外面: 塗付着・付着物 [外] 手・33カ [内] 33カ	[外] 10YR6/1 塗灰 [内] 10YR7/2 にぶい黄橙 普: 1 mm大の長石・石英・赤色粒・まれに大粒のものあり 良	
-	41	340	13-SD2/ 中層 砂礫層	土師器 甕 口縁部	- [4.1]	[外] 手のち33カ・33カ [内] 33カ	[外] 10YR5/2 灰黄褐 [内] 10YR5/3 にぶい黄褐 普: 2 mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒・角閃石 良	
-	41	341	13-SD2/ 中層 砂礫層	土師器 甕 口縁部	- [3.5]	外面: 塗付着・接合痕あり [外] 指頭压痕のち33カ・ハリ [内] 33カ・ハリ	[外] 2.5Y6/2 雪白灰 [内] 2.5Y7/2 灰黄 普: 2 mm以下の石英・赤色粒 良	
60	41	342	13-SD3/ 中層(砂礫層 とシルト の間)・13- SD2/ 砂礫層 No.1	土師器 移動式竈 焚口部	長さ 45.8 幅 23.0 厚さ 5.5	塗付着 [外] 手 [内] 手	[外] 7.5YR6/4 にぶい橙 [内] 7.5YR5/2 灰褐 普: 4 mm以下の石英・長石多量 良	
59	42	346	13-SD2/セ クA以南/ 下層シルト層	土師器 移動式竈	長さ [14.6] 幅 [9.6] 厚さ 7.05	接合痕あり・塗付着・付着物 [外] 手・サ目 [内] 板手・工具痕	[外] 7.5YR5/6 明褐 [内] 10YR6/3 にぶい黄褐 普: 1 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
59	42	347	13-SD2/ No.7	土師器 杯	12.6 6.55 3.5	内外面: 付着物、歪み有 [外] 回転手・回転へり切り [内] 回転手	[外] 7.5YR6/4 にぶい橙 [内] 5YR6/6 暗 普: 1 mm以下の石英・長石・金雲母 良	
59	42	348	13-SD2/ No.6	須恵器 盃 底部	- [9.8] [5.4]	接合痕あり [外] 回転手・ハリ・手 [内] 回転手	[外] N5/0 灰 [内] N8/0 灰白 普: 0.5 mm以下の砂粒・黒色粒 良	
59	42	349	13-SD2/ No.6	土師器 羽釜 口縁部	(22.6) - [6.95]	外面: 塗付着 [外] 33カ・手・手のち (マツ) [内] 回転手	[外] 5YR7/4 にぶい橙 [内] 2.5S5/2 灰白 普: 3 mm以下の石英・長石・0.5 mm以下 の金雲母 良	
-	43	353	13-SD4/ 下層	須恵器 杯 口縁部	(13.0) - [3.5]	内外面: 付着物 [外] 回転手・自然釉 [内] 回転手	[外] N4/0 灰 [内] N7/0 灰白 普: 2 mm以下の石英・長石・黒色 粒・良好	
-	43	354	13-SD4/ 下層	須恵器 杯 口縁部	(14.0) - [2.9]	内外面: 付着物 外面上部: 黑斑 [外] 回転手 [内] 回転手	[外] N8/0 灰白 [内] 2.5Y6/1 費灰 普: 1.5 mm以下の石英・長石・黒色 粒・良好	
59	43	355	13-SD4/ 下層	須恵器 杯 底部	- [5.4] [3.1]	内外面: 付着物 [外] 回転手・ハリ・回転へり切り [内] 回転手	[外] N8/0 灰白 [内] N7/0 灰白 普: 1.5 mm以下の石英・長石・黒色 粒・赤色粒 良好	
59	43	356	13-SD4/ 下層	土師器 杯 底部	- 6.05 [2.7]	内外面: 付着物 [外] 回転手・ハリ・回転へり切りのち ハリ・マツ [内] 回転手・マツ	[外] 5YR7/3 にぶい橙 [内] 5YR7/6 暗 普: 1 mm以下の石英・長石・赤色粒・ 金雲母 良	
57	43	358	13-SD4	須恵器 甕 口縁部	(27.6) - [8.1]	内外面: 工具痕 [外] 回転手・舛のち [内] 回転手・指頭压のち	[外] N5/0 灰 [内] N6/0 灰 普: 0.5 mm以下の砂粒 良	
58	44	359	13-SD2	土師器 杯	(14.8) 7.6 4.7	外面: 付着物 [外] 回転手・回転へり切り [内] 回転手	[外] 7.5YR8/4 浅黄橙 [内] 10YR8/3 浅黄橙 普: 1 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
58	44	360	13-SD2	土師器 杯	(11.5) (8.6) 3.0	内外面: 付着物 [外] 回転手・回転へり切り・回 転へり切り [内] 回転手	[外] 7.5YR8/4 浅黄橙 [内] 7.5YR7/4 にぶい橙 普: 0.5 mm以下の石英・長石・金雲 母・1 mm以下の赤色粒 良	

表 21 土器観察表 (19)

図版番号	排図番号	遺物番号	遺構/層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 高さ (cm)	形態の特徴 手法の特徴 [外] [内]	色調 [外] [内] 胎土 焼成	備考
58	44	361	13-SD2	土師器 杯	(11.8) (6.5) 3.2	内外面:付着物 外:回転けい、回転へり切り 内:回転けい	[外] 7.5YR8/4 浅黄橙 [内] 7.5YR8/4 浅黄橙 普:1 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
57	44	362	13-SD2	須恵器 杯 G 蓋	(8.6) ~ [2.5]		[外] IN6/0 灰 [内] IN4/0 灰 普:0.5 mm以下の長石・石英 良	TK217
-	44	363	13-SD2	須恵器 杯 底部	(7.8) [2.6]	内外面:火漆 外:けい 内:けい	[外] IN7/0 灰白 [内] IN7/0 灰白 普:1 mm以下の長石・石英 良	
-	44	364	13-SD2 セク A 以北	須恵器 杯 底部	- (6.4) [1.5]	[外] けい、回転けい、回転糸切 リ [内] 回転けい	[外] 10Y7/1 灰白 [内] 10Y7/0 灰白 普:2.5 mm以下の石英・長石 良好	
-	44	365	13-SD2 セク A 以北	須恵器 椀 口縁部	- -[3.5]	[外] 回転けい [内] 回転けい	[外] IN7/0 灰白 [内] IN7/0 灰白 普:3 mm以下の石英・長石 良好	
58	44	366	13-SD2	土師器 羽釜	(24.2) -[11.7]	内面:煤付着・付着物 外:コロナ・紺目・好時・ち指 けい [内] コロナ	[外] 10YR5/2 灰黄褐 [内] 10YR2/2 黒褐一 10YR1.7/1 黒 やや粗・0.5 ~ 1.5 mmの石英・長石・ 雲母・角閃石・3 mm前後の小石・赤 色粒 良	
-	44	367	13-SD2	土師器 羽釜 口縁部	(25.7) [5.7]	接合痕あり、額部下:煤付着 外:けい・指頭圧痕・紺目 内:けい	[外] 10YR6/2 灰黄褐 [内] 10YR6/2 灰黄褐 粗:0.5 ~ 5 mmの石英・長石・ 雲母 良	
58	44	368	13-SD2	土師器 鍋 or 蓋 取手	最大長 [3.4] 最大幅 [6.1] 最大厚 [3.1]	取手下部:煤化 外:けい 内:コロナ・マツカ	[外] 10YR7/4 にぶい橙 [内] 7.5YR8/3 浅黄橙 粗:1 ~ 3 mmの長石・石英・1 mm大の 赤色粒 良	
58	44	369	13-SD2	土師器 移動式竈 部位不明	長さ [9.3] 幅 [9.0] 厚さ 1.8	内面:煤・付着物 外:けい・マツカ 内:指頭圧痕	[外] 10YR5/2 灰黄褐 [内] 10YR5/3 にぶい黄褐 普:4 mm以下の石英・3 mm以下の長石 ・雲母・0.5 mm以下の金雲母 良	
-	45	372	13-SD1-2-3 / 洪水砂層	須恵器 擂鉢 体部	長さ [5.9] 幅 [5.6] 厚さ 1.0	[外] コロナ 内:卸し目・回転けい	[外] IN7/0 灰白 [内] IN7/0 灰白 普:1 mm以下の石英・長石・黒色粒 良	
62	50	373	14-SD1	須恵器 杯 A	(12.6) (6.9) 3.55	内面見込に放熱線状の工具痕? が数本、口縁の一部がけいのあ と? 外:回転けい・回転へり切り(回 転方向不明) 内:回転けい	[外] 2.5Y7/1 灰白 [内] 2.5Y7/1 灰白 普:1 mm以下の石英・長石・黒雲母 不良	
61	52	379	4-SK2	土師質土器 移動式竈	長さ [8.5] 幅 [14.7] 厚さ [8.7]	煤付着 外:けい 内:けい	[外] 10YR5/3 にぶい黄褐 [内] 7.5YR6/4 にぶい橙 粗:3 mm以下の石英・長石多量 良	
-	52	380	4-SD6	土師器 鉢?	- -[5.2]	外面:煤付着 外:けい 内:けい	[外] 10YR7/4 にぶい橙 [内] 10YR7/6 橙 普:4 mm以下の石英・長石 良	
62	58	382	1-SD12 / 下層	土師器 蓋 取手	長さ [4.6] 幅 [3.6] 厚さ [4.0]	[外] けい・指頭圧痕 内:けい	[外] 10YR6/3 にぶい黄褐 [内] 10YR6/3 にぶい黄褐 普:1 mm程度の石英・長石・赤色粒 多量 良	
62	58	383	1-SD12	甕生土器 蓋 口縁部	(24.6) [6.8]	口縁附近:煤付着 外:回転 2 条・けい・板けい 内:コロナ・板けい・マツカ	[外] 7.5YR5/6 明赤褐 [内] 10YR5/6 明赤褐 普:4 mm以下の石英・長石・赤色粒 ・2 mm以下の金雲母・角閃石 良	V様式
-	58	384	1-SD12	甕生土器 蓋 底部	- -[6.0] [3.3]	[外] 被破壊 内:調整不明	[外] 2.5YR5/6 明赤褐 [内] 7.5YR5/6 明赤褐 粗:3 mm以下の石英・長石 良	

表 22 土器観察表 (20)

図版番号	排回番号	遺物番号	遺構/層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高(cm)	形態の特徴 手法の特徴 [外][内]	色調 [外][内] 胎土 焼成	備考
-	58	387	1-SD11 アゼ以東	須恵器 杯A 底部	- (8.0) [1.0]	外面:火拂 [外]回転打・回転へ切り [内]回転打	[外]2.5Y7/1 灰白 [内]2.5Y7/1 灰白 普:1 mm以下の黒色粒・0.5 mm以下の白色粒 良	
62	58	388	1-SD11 アゼ以東	弥生土器 壺 底部	長さ [3.4] 幅 [4.2] 厚さ 0.7	[外] 打・ハリ・木葉文 [内] 打・ハリ	[外]10YR6/1 桃灰 [内]10YR6/1 桃灰 普:2 mm以下の石英・長石・黒色粒 ・1 mm以下の赤色粒 良	木葉文
-	58	389	2-SX10	須恵器 杯B 底部	- (11.2) [1.5]	[外]回転へタスリ・打・回転打 [内]打	[外]IN7/0 灰白 [内]IN7/0 灰白 普:1 mm以下の長石・黒色粒 良	
-	62	390	2-SD29	弥生土器 壺 底部	- (6.9) [2.05]	底部外面:モニ痕、黒斑あり、 接合痕あり [外] 打 [内] 打	[外]10R5/6 赤 [内]2.5Y7/2 黄 精良・2 mm以下の石英・長石・赤色 粒 良好	
62	67	393	1-包含層 掘削	弥生土器 壺 底部	- 6.4 [2.8]	[外] 打 [内] 打	[外]2.5YR5/6 明赤褐 [内]10YR5/1 桃灰 粗・角閃石・金雲母・ 4 mm以下の石英・長石 良	
-	88	395	5-SK23	弥生土器 壺	- [2.9]	全体的に摩滅している [外] 打・打 ? [内] 打	[外]2.5Y5/1 黄灰～2.5Y4/1 黄灰 [内]2.5Y3/1 黑褐～2.5Y3/2 黑褐 粗:2 mm以下の石英・長石・角閃石 多量 良	V 様式
-	88	396	5-SK30	弥生土器 壺 底部	- [3.1]	[外] 打・打 ? [内] 打	[外]2.5Y6/2 黄褐 [内]10YR6/2 黄褐 粗:3 mm以下の石英・長石・角閃石 多量 良	
-	89	397	4-12 包含層	土師器 杯	(12.0) -7.4 [2.5]	口縁部内面:煤付着 [外]回転打・打・回転へ切り [内]回転打	[外]5YR7/3 にぶい橙 [内]5YR8/4 淡橙 精良・1 mm以下の石英・長石 良好	灯明皿
-	89	398	4-12 包含層	土師器 杯	(10.8) 7.3 [2.45]	[外]回転打・打・回転へ切り [右] [内]回転打・打	[外]5YR8/4 淡橙 [内]7.5YR8/4 淡黄橙 普:2 mm以下の石英・長石・赤色粒 良好	
61	89	399	4-12 包含層	土師器 三足羽釜 脚部	長さ [11.0] 幅 [6.7] 厚さ 3.3 [外] - [内] -	[外]指頭圧痕・指打 [内] -	[外]5YR6/4 にぶい橙 [内] - 普:2 mm以下の石英・長石 良	
67	90	400	3- 搾乱	土師器 高台付杯	(14.6) 8.0 5.05	内外面:煤付着 [外]打・回転打・打 [内]回転打	[外]5YR6/4 にぶい橙 [内]5YR7/6 橙 普:1 mm程度の石英・長石 良	
-	90	401	3- 搾乱	黒色土器 A 椀 底部	- (7.2) [2.6]	高台:煤付着 [外]回転打 [内]打	[外]10YR7/3 にぶい黄橙 [内]10YR3/1 黑褐 普:2 mm以下の石英・長石・赤色粒 良好	
63	97	406	10-SX3 (10-SD5/ 上層)	弥生土器 壺	(12.1) 3.1 15.6	外面 1/3ほど全体に黒斑あり [外]打・打 [内]打・打・指打・指頭圧痕・ 接合痕	[外]10YR6/4 にぶい黄橙 [内]10YR6/3 にぶい黄橙 普:3 mm以下の石英・長石・角閃石・ 赤色粒 良	
62	99	408	10-SD24	弥生土器 壺	(13.2) [3.95]	[外]3打・打 [内]3打・打	[外]7.5YR6/6 橙 [内]7.5YR6/6 橙 普:0.5 mm以下の石英・長石・角閃石 良	V 様式
-	99	410	10-SD1	弥生土器 高杯	- [4.4]	[外]回転打のち打 [内]回転打のち打	[外]7.5YR5/4 にぶい褐 [内]7.5YR5/6 明褐 普:4 mm以下の石英・長石・赤色粒 ・角閃石 良	V 様式
63	100	411	10-SD21 /最下層 No.1	弥生土器 壺	(15.6) - [6.9]	外面:煤付着 [外]3打・打 [内]3打・打	[外]10YR5/4 にぶい黄橙 [内]7.5YR6/6 橙 普:0.5 mm以下の角閃石・2 mm以下の石英・長石・3 mm以下の赤色粒 良	V 様式

表 23 土器観察表 (21)

図版番号	排回番号	遺物番号	遺構/層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高(cm)	形態の特徴 手法の特徴 [外][内]	色調 [外][内] 胎土 焼成	備考
63	100	412	10-SD21 /最下層 No.2	弥生土器 壺 底部	- 4.8 [6.3]	接合痕? [外] 外のちぎり・ナ [内] カリ	[外] 7.5YR5/2灰褐色 [内] IN3/0暗灰 普:3 mm以下の石英・長石・雲母・角閃石 良	V様式
63	100	413	10-SD21	弥生土器 壺 底部	- [6.3] [4.1]	内外面: 黒斑 [外] ナマ・好目・ヨコナギ・ナ [内] カリ	[外] 10YR6/4にぶい黄橙 [内] 7.5YR6/6橙 普:1 mm以下の石英・長石・金母雲・角閃石・3 mm以下の赤色粒 良	
63	100	414	10-SD21	弥生土器 壺 底部	- 6.4 [8.9]	内外面: 黒斑 [外] ナマ・好目・ナ [内] ナマ? 指頭圧痕	[外] 7.5YR5/4にぶい褐 [内] 10YR6/3にぶい黄橙 普:6 mm以下の石粉・2 mm以下の金雲母・赤色粒・3 mm以下の角閃石 良	
-	100	415	10-SD4	弥生土器 高杯 脚部	- [19.0] [3.8]	外面一部: 煙付着 [外] カリ [内] カリ	[外] 10YR5/3にぶい黄褐 [内] 10YR6/3にぶい黄橙 普:2 mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒・角閃石 良好	
64	104	416	14-SD7	弥生土器 長頸壺 口縁部	(13.5) - [10.95]	接合痕あり。黒斑あり [外] ヨコナギ・タマナギ [内] ナマ・粘土細綱目痕・板ナギ・タマナギ	[外] 7.5YR6/4にぶい橙 [内] 7.5YR6/4にぶい橙 普:2 mm以下の石英・長石・赤色粒・3 mm以下の角閃石 良	V様式
64	104	417	14-SD7	弥生土器 壺 体部	- - [16.2]	[外] ナマのちぎり・ナマ [内] 指頭圧痕・ナマ	[外] 7.5YR5/6明褐 [内] 7.5YR6/3にぶい褐 普:8 mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒 良	V様式
64	104	418	14-SD7	弥生土器 壺 口縁部	(13.7) - [3.0]	[外] ヨコナギ・ウカ目 [内] ナマ・凹線1条	[外] 7.5YR5/3にぶい褐 [内] 7.5YR5/4にぶい褐 普:1 mm以下の石英・長石・金雲母・赤色粒・角閃石 良好	V様式
64	104	419	14-SD7	弥生土器 壺 底部	- [5.6] [9.4]	外面: 黒斑あり [外] ナマ・ヨコナギ [内] カリ	[外] 10YR5/6赤~7.5YR7/3にぶい褐 [内] 10YR3/1 黒褐 普:1.5 mm以下の石英・長石・赤色粒・雲母・3 mm程度の小礫 良	
64	104	420	14-SD7	弥生土器 底部	- [5.8] [3.9]	底部: 穿孔あり 外面底部~体部: 煙化 [外] カリ [内] ナマ(ナマ?) - カリ?	[外] 10YR5/1褐灰 [内] 10YR6/3にぶい黄褐 普:4 mm以下の石英多量・0.5 mm以下の黒色粒・金雲母 良	
64	104	421	14-SD7-14-SD8	弥生土器 高杯	(25.4) (19.4) [16.65]	円孔 3カ所 [外] ナマ・ナマのちぎり・ナ [内] 分割ナマキ・板ナギ・ナ ・指頭圧痕	[外] 10YR6/3にぶい黄橙 [内] 10YR3/1 黑褐~10YR5/2灰褐色 やや密 0.5 ~ 3 mmの石英・長石・赤色粒・雲母・角閃石 良	V様式
64	104	422	14-SD7	弥生土器 高杯 杯部	(22.6) - [7.4]	接合痕あり [外] ヨコナギ・ナマ・ナ [内] ヨコナギ・ナマ・ナ	[外] 5YR5/4にぶい赤褐 [内] 7.5YR5/4にぶい褐 普:2 mm以下の石英・長石・金雲母・赤色粒 良	V様式
64	104	423	14-SD7	弥生土器 高杯 杯部	23.0 - [7.0]	接合痕あり [外] 回転ナギ・ヘビナギ [内] 回転ナギ・ヘビナギ	[外] 7.5YR5/4にぶい褐 [内] 7.5YR5/4にぶい褐 普:2 mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒 良	V様式
-	108	425	14-SD8	弥生土器 壺 口縁部	- -[2.7]	[外] ヨコナギ [内] ヨコナギ・ナ	[外] 5YR5/6明赤褐 [内] 5YR5/4にぶい赤褐 普:3 mm以下の石英・長石・赤色粒 良	V様式
63	108	426	14-SD8 セク以北	弥生土器 製塩土器	- [3.0] [5.6]	底部は円盤充填式? 底部外面: 煙化 [外] 外のちぎり・ナ [内] カリ・ナ・ナリ目	[外] 5YR5/6明赤褐 [内] 5YR5/4にぶい赤褐 普:2 mm以下の石英・長石・赤色粒・雲母 良	V様式
63	108	427	14-SD8 セク以南	弥生土器 高杯 杯部	(27.2) - [6.8]	[外] ヨコナギ・ヘビナギ [内] ヨコナギ・ヘビナギ・ナ	[外] 10YR6/3にぶい黄橙 [内] 10YR6/4にぶい黄橙 普:3 mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒 良	V様式

表 24 土器観察表 (22)

図版番号	持回番号	遺物番号	遺構/層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高(cm)	形態の特徴 手法の特徴 [外][内]	色調 [外][内] 胎土 焼成	備考
63	109	428	14-SD15	弥生土器 小型丸底壺	7.4 13.15	[外]ヨコナリ(マツリ)・マツリ [内]指捺(マツナガ)・指捺(マツナガ) 指頭圧痕	[外]7.5YR6/4にぶい橙 [内]7.5YR6/3にぶい褐 普:1.5mm以下の石英・長石・角閃石・雲母・黒色粒・赤色粒 良	V様式
-	109	429	14-SD15	弥生土器 壺 口縁部	- -[3.6]	[外]沈線・ガフ [内]指頭圧痕・ガフ	[外]7.5YR6/6橙 [内]7.5YR6/6褐 普:0.5mm以下の石英・長石・1mm以下の角閃石 良	V様式
-	109	430	14-SD15	弥生土器 高杯 杯部	- -[3.6]	[外]ヨコナリ(マツリ) [内]ヨコナリ	[外]2.5YR5/6明赤褐 [内]2.5YR5/6明赤褐 普:1mm以下の石英・長石・角閃石・赤色粒 良	V様式
63	110	431	14-SD16	弥生土器 高杯 杯部	25.7 -[8.7]	接合痕あり [外]ヨコナリ・矢印のち分割ハラキ [内]ヨコナリ・分割ハラキ(マツリ) ・指頭圧痕・板ガフ	[外]7.5YR5/4にぶい褐 [内]7.5YR6/6橙 普:2mm以下の石英・長石・4mm以下の赤色粒・1mm以下の角閃石 良	V様式
64	113	432	14-SD12 セク以南	弥生土器 壺 口縁部	(17.4) -[5.2]	前面口縁付近・煤付着・付着物 [外]カム・37.7 [内]口縁部:ガフ・体部:好方 向のガフ	[外]10YR8/3浅黄褐 [内]2.5YS/2暗灰青 普:5mm以下の石英・長石・赤色粒 良	V様式
64	113	433	14-SD12 セク以南	弥生土器 壺 底部	- -[5.3] -[6.6]	[外]ガフリ・ガフ・マツリ [内]ガフリ・指頭圧痕	[外]5YR6/6橙 [内]5YR6/6橙 粗:3.5mm以下の石英・長石・赤色粒・雲母・角閃石 良	
64	117	434	14-SD6	弥生土器 長頸壺 頸部	- -[10.3]	[外]矢印・櫛摺 [内]指頭圧痕・ガフリ	[外]7.5YR5/6明褐 [内]7.5YR5/6明褐 普:3mm以下の石英・長石・赤色粒 良	V様式
64	117	435	14-SD6	弥生土器 壺 底部	- 5.1 -[5.7]	内外面:煤付着 [外]ハラスリ・ガフ [内]ハラスリのちガフ	[外]5YR6/4にぶい赤褐 [内]7.5YR6/4褐 普:4mm以下の石英・長石・赤色粒 良	V様式
64	117	436	14-SD6	弥生土器 高杯 杯部	(25.6) -[5.35]	[外]ヨコナリ・ガフリ・マツリ [内]ヨコナリ・ガフ・マツリ	[外]7.5YR6/6橙 [内]7.5YR6/6橙 普:1mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒 良	V様式
-	117	437	14-SD6	弥生土器 高杯 杯部	- -[3.2]	[外]ヨコナリ [内]ヨコナリ	[外]7.5YR5/4にぶい褐 [内]7.5YR6/6橙 普:2mm以下の石英・長石・4mm以下の赤色粒 良	V様式
64	117	438	14-SD6	弥生土器 高杯 脚部	- (18.8) -[5.0]	[外]ガフ・ヨコナリ・穿孔1ヶ残存 [内]指捺・ガフリ	[外]5YR5/6明赤褐 [内]5YR5/6明赤褐 普:2mm以下の石英・長石・赤色粒・金雲母 良	V様式
64	118	441	14-SD5	弥生土器 壺 体部	- -[18.6]	[外]矢印のちヨコナリの方向のガフ [内]指捺のちヨコナリ	[外]10YR6/3にぶい黄褐 [内]10YR6/2暗灰青 普:5mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒 良	V様式
65	121	442	19-SD1	弥生土器 壺 口縁部	(10.4) -[3.8]	[外]マツリ [内]マツリ	[外]5YR5/6明赤褐 [内]5YR6/4にぶい橙 普:1~5mmの石英・長石 良	V様式
65	121	443	19-SD1	弥生土器 壺 体部	- -[13.6]	[外]ヨコナリ・カム・ガフ [内]ガフ・指頭圧痕	[外]10YR6/4にぶい黄褐 [内]10YR6/4にぶい橙 普:2mm以下の石英・長石・雲母 良	V様式
65	121	444	19-SD1 土器集中No3	弥生土器 壺	- -[26.7]	黒斑あり [外]カム・マツリ [内]マツリ・指頭圧痕・ガフリ?	[外]7.5YR6/6橙 [内]2.5YS/2暗灰青 やや粗:5mm以下の石英・長石・褐 色粒・雲母 良	V様式
65	121	445	19-SD1	弥生土器 壺 底部	- -[7.8] -[1.7]	[外]ガフ・ガフ [内]ガフ	[外]7.5YR5/4にぶい褐 [内]7.5YR4/6褐 普:2mm以下の石英・長石・金雲母・角閃石 良	

表 25 土器観察表 (23)

図版 番号	排図 番号	遺物 番号	透構／層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高 (cm)	形態の特徴 手法の特徴 [外][内]	色調 [外][内] 胎土 焼成	備考
65	121	446	19-SD1/ 土器集中 No.4	弥生土器 製塙土器 底部	- 5.5 [6.5]	[外] 指頭圧痕・マツ [内] ナフ	[外] 10YR6/6 明黄褐 [内] 10YR6/6 明黄褐 普:3 mm以下の石英・長石・黒雲母 良	V様式
65	121	447	19-SD1/ 土器集中 No.1・No.2	弥生土器 壺	22.4 - [51.5]	[外] ヨコナギ・外ハサのちヨガキ・円 形刻突文 [内] ヨコナギ・指頭圧痕・ハラズリ	[外] 10YR5/4 にぶい黄褐 [内] 10YR6/4 にぶい黄橙 普:1 ~ 2 mmの石英・長石 良	広口壺 E3(信里 縄年「日 練兵場」)
65	122	448	19-SD1	弥生土器 鉢	- - [11.7]	外面口縁部・黒色化 [外] ヨコナギのちむか方向ヨガキ [内] ヨコナギのちむか方向ヨガキ	[外] 10YR5/4 にぶい黄褐 [内] 10YR6/4 にぶい黄橙 普:0.1 ~ 0.5 mmの石英・長石多量 良好	V様式
65	122	449	19-SD1	弥生土器 鉢 底部	- 5.4 [2.0]	[外] ハラズリ・ナフ [内] ハラズリ	[外] 10YR6/4 にぶい黄褐 [内] 7.5YR6/4 にぶい黄 普:3 mm以下の石英・長石・褐色粒 ・雲母 良	
66	123	450	19-SD3	弥生土器 壺	(22.0) - [7.9]	[外] ヨコナギ・マツ [内] ハラズリ・マツ	[外] 10YR5/4 にぶい黄褐 [内] 10YR6/4 にぶい黄橙 普:4 mm以下の石英・1 mm以下の長石 ・0.5 mm以下の角閃石 良好	V様式
66	133	451	20-SD10/ 最下層	弥生土器 器種不明 口縁部	(14.6) - [3.6]	[外] ナフ [内] ナフ	[外] 10YR6/4 にぶい黄褐 [内] 10YR6/4 にぶい黄橙 普:1 mm以下の石英・長石・角閃石 良	
66	133	452	20-SD10/ 最下層	弥生土器 壺 口縁部	(15.4) - [5.4]	[外] ナフ [内] ナフ	[外] 7.5YR5/6 明褐 [内] 7.5YR5/6 明褐 普:1 mm以下の石英・長石・角閃石 ・雲母 良	V様式
66	133	453	20-SD10/ 上層溝肩	弥生土器 高杯? 杯部	(19.8) - [5.3]	[外] ナフ [内] ナフ	[外] 10YR6/4 にぶい黄褐 [内] 10YR6/6 明黄褐 普:1 ~ 3 mm大の石英・角閃石・0.5 mm以下の石英・長石・雲母 良	
66	133	454	20-SD10/ 最上層 (黒 色粘土層) ・最下層・上 層溝肩・最 下層肩	弥生土器 高杯 杯部	(28.4) - [9.4]	円盤充填 [外] ヨコナギ・ナフ・マツ [内] ヨコナギ・ナフ・マツ・ハラズリ	[外] 5YR6/8 橙 [内] 7.5YR5/8 明褐 普:3 mm以下の石英・長石・赤色粒 ・良	V様式
66	133	455	20-SD10/ 最下層	弥生土器 壺 口縁部	(18.2) - [5.9]	[外] ナフ・竹管紋2対・凹線? [内] ナフ	[外] 10YR5/4 にぶい黄褐 [内] 10YR5/4 にぶい黄褐 普:1 mm程度の石英・長石・角閃石 ・雲母・赤色粒 良	
66	133	456	20-SD10/ 溝肩	弥生土器 壺	21.0 - [23.5]	[外] ヨコナギ・ハサのちハナガキ [内] ヨコナギ・指頭圧痕のちハナ ギのちナフ	[外] 7.5YR6/4 にぶい黄 [内] 10YR6/4 にぶい黄褐 普:1 ~ 2 mm大の石英・1 mm以下の白 色粒・黑色粒・赤色粒	V様式
66	133	457	20-SD10/ 最下層肩	弥生土器 壺 底部	- 2.2 [6.7]	[外] 卷上げ底・ナフ [内] 板ナフ	[外] 5YR6/6 明赤褐 [内] 10YR5/8 黄褐 普:1 mm以下の石英・長石・角閃石 ・雲母 良	
66	133	458	20-SD10/ 最下層	弥生土器 壺 底部	- (3.8) [4.1]	外面: 黒斑あり [外] マツ(ハナガキ) [内] マツ(ハナズリ)	[外] 2.5YR6/3 にぶい黄 [内] 2.5YR6/4 混青 普:1 ~ 2 mm大の石英・1 mm以下の石 英・長石多量 良	
66	133	459	20-SD10/ 下層	弥生土器 壺 底部	- 5.4 [4.6]	底部: 黒斑あり [外] ナフ [内] ナフ	[外] 5YR5/4 にぶい赤褐 [内] 5YR5/8 明赤褐 普:0.5 ~ 3 mm大の石英・長石多量 良好	
66	133	460	20-SD10/ 下層	弥生土器 壺 底部	- 3.0 [1.7]	外面: 黒斑あり [外] ナフ [内] ナフ・未調整	[外] 5YR6/4 にぶい橙 [内] 2.5Y4/1 費灰 普:0.5 ~ 2 mm大の石英・長石・角 閃石多量 良	

表 26 土器観察表 (24)

図版番号	排図番号	遺物番号	構造/層位名	種類 器種 (部位)	口径 底径 器高(cm)	形態の特徴 手法の特徴 [外][内]	色調 [外][内] 胎土 焼成	備考
-	133	462	20-SD8/ 上層	弥生土器 壺 口縁部	(15.6) -[2.0]	[外] マツ・ナギ [内] マツ・ナギ	[外] 7.5YR5/8 明褐色 [内] 7.5YR5/6 明褐色 やや粗・2mm以下の石英・長石・黒色粒・金雲母 良	V様式
-	133	463	20-SD9/ 下層	弥生土器 壺 底部	- (6.8) [4.0]	黒斑あり [外] ゴキ [内] ヘタリ	[外] 7.5YR5/4 にぶい褐色 [内] 10YR5/3 にぶい黄褐色 やや粗・2mm以下の石英・長石・褐 色粒・金雲母 良好	
-	133	465	20- 摂乱(精 査混入)	瓦器 椀	(14.6) -[4.0]	[外] ナギ・指頭压痕 [内] 異紋(ゴキ)	[外] IN6/0灰~ NA/0灰 [内] IN4/0灰 やや精良・10mm程度の長石 良好	
66	135	466	立会-SD2	弥生土器 壺	- 2.8 [28.8]	外面: 黒斑あり [外] ナギ・カ目・ゴキ [内] ヘタリ・指頭压痕・ナギ	[外] 7.5YR5/4 にぶい褐色 [内] 7.5YR4/4褐色 やや粗・4mm以下の石英・長石・角 閃石・金雲母 良	V様式
-	135	467	立会-SD2	弥生土器 壺 底部	- 2.6 [3.0]	外面: 黒斑あり [外] ヘタリ・ナギ [内] ヘタリ・ナギ	[外] 7.5YR5/4 にぶい褐色 [内] 7.5YR6/4 にぶい橙 普1~2mm大の石英・赤色粒・1mm 以下の白色粒・角閃石・黒雲母 良	
67	141	468	12-SD5	弥生土器 壺 口縁部	20.0 [7.55]	[外] ゴキリ・ミナギ・カ目・ナギ [内] コナギ・ナギ?・ミナギ	[外] 7.5YR6/4 にぶい褐色 [内] 7.5YR6/3 にぶい褐色 普3mm以下の石英・長石・黒色粒 ・赤色粒 良好	I様式 出土時周 辺に炭化 物あり
-	141	469	11-SD5 東ブロック	弥生土器 壺 口縁部	- [3.75]	[外] ナギ [内] ナギ	[外] 10YR7/4 にぶい黄褐色 [内] 10YR8/2 灰白 粗・5mm以下の長石・石英・砂粒 良	I様式
67	141	472	12-SD6 /No.1	弥生土器 壺 体部	- [9.0] [15.1]	接合痕3カ所 [外] ナギ・ナギのちがき? [内] のち指頭压痕? 板打? 沈線? 7条 [内] 板打のち指頭压痕・ナギ のち指打?	[外] 7.5YR5/2 灰褐色 [内] 7.5YR5/2 灰褐色 粗・5mm以下の石英・長石・赤色粒 良	I様式
67	141	473	12-SD6 /No.2	弥生土器 壺 底部	- [8.9] [5.45]	外面: 黒斑あり、内面: 付着物 [外] ナギ(のちがき?)一部 沈線? [内] マツ・ナギ・指打?	[外] 10YR8/2 灰白 [内] 10YR8/2 灰白 粗・1~3mmの石英・長石・赤色 粒 良	
67	141	474	12-SD6 /上層と下 層の境	弥生土器 壺 底部	- [5.9] [5.5]	[外] ナギ [内] 指頭压痕のちがき?	[外] 10YR6/3 にぶい黄褐色 [内] 2.5YR7/2 灰黃 粗・3mm以下の石英・長石・黒色粒 良	
67	141	476	12-SD10 /上層	弥生土器 壺 体部	- 10.25	[外] 沈線4条・ナギ [内] ナギ	[外] 5YR6/6 棕 [内] 5YR6/6 棕 粗・0.5~5mmの石英・長石 良	I様式
-	141	477	12-SD10 東断面の東	弥生土器 壺 底部	- [7.4] [2.8]	接合痕あり、外面: 付着物 [外] ナギ・マツ [内] ナギ	[外] 10YR6/3 にぶい黄褐色 [内] 2.5YR8/2 灰白 粗・0.5~3mmの石英・長石 良	
67	146	478	13-SK10	土師器 壺	(28.0) [9.45]	[外] ナギ [内] ナギ(ナギ?)	[外] 2.5YB/2 灰白 [内] IN4/0灰 普1mm以下の石英・長石・赤色粒 良	
-	172	486	17- 包含層	黒色土器A 椀 口縁部	- [3.65]	[外] 回転ナギ [内] 回転ナギ・ヘタリ	[外] 5YB/1 灰白 [内] 5Y2/1 黑 普2mm以下の長石 良	
67	172	487	12- 摂乱	土師器 杯	11.5 6.6 3.5	外面: 付着物、内面: 黒斑あり [外] 回転ナギ・回転ナギ [内] 回転ナギ	[外] 10YR8/3 浅黄褐色・5YR6/8 棕 [内] 5YR7/6 棕・10YR7/3 にぶい黄 褐色・2mm以下の石英・長石・赤色粒 良	

表 27 陶磁器観察表

図版番号	博団番号	遺物番号	遺構/層位名	種類 器種 度地	口径 底径 器高(cm)	形態の特徴 手法の特徴(外) (内)	色調 [胎土] [釉調] 胎土 (含有物)	備考
-	16	133	3-SD13	綠釉陶器 碗	- [1.65]	透明釉の可能性あり [外] 施釉・回転打 [内] 施釉・回転打	[胎] 2.5Y8/2 灰白 胎 [釉] 緑釉 青	
68	38	261	13-SD1	白磁 碗	- [6.5] [2.1]	[外] 施釉・回転打・回転 タリ・回転タリ [内] 施釉	[胎] 7.5Y8/1 灰白 胎 [7.5Y7/1 灰白 微	
68	38	263	13-SD1	陶器 壺	- [6.1]	[外] 回転打・板打 [内] 回転打	[胎] 7SYR5/3 にぶい赤褐 胎 [釉]- やや粗	備前系
68	39	279	13-SD2 /上層 セクB以南	綠釉陶器	- [1.1]	[外] 回転打 [内] 回転打	[胎] 2.5Y8/2 灰白 胎 [釉] 緑釉 細	
68	45	371	13-SD1-3 /上層 洪水層	陶器 擂鉢	- - [4.5]	[外] 調整不明 [内] 即目(8本以上)・指 頭圧痕・3口打	[胎] 外面: 2.5YR6/2 灰赤 胎 内面: 7.5YR5/1 赤灰 青: 1mm以下の石英・長石 ・赤色粒	
68	51	375	2-SD17	陶器 仏具?	(3.95) 4.1 4.0	底部外面: 煤付着 [外] 施釉・回転打・回転 系切り [内] 施釉	[胎] 5Y6/1 灰 胎 [5Y6/2 灰紗-7 細	肥前系
68	51	376	2-SD17	陶器 瓶	2.5 - [9.9]	[外] 回転打・施釉 [内] 回転打・回転タリ ・施釉	[胎] 10YR6/1 褐灰 胎 [7.5YR3/3 暗褐 細	
-	51	377	2-SD17 (1-SD7)	陶器 擂鉢	- - [6.1]	接合痕あり [外] 回転打・施釉・凹線 2条 [内] 回転打・即目・施釉 ・凹線2条	[胎] 25YR4/4 にぶい赤褐 胎 [釉] 透明 青	備前系
68	51	378	1-SD2	陶器 高台付椀	- [3.6] [3.8]	[外] 施釉 [内] 施釉・釉タリ	[胎] 2.5Y7/1 灰白 胎 灰白 2.5Y5/3 黄褐 細	肥前系

表 28 土製品観察表

図版番号	捲回番号	遺物番号	遺構／層位名	器種	長さ 幅 厚さ (cm)	形態の特徴 手法の特徴 [外][内]	色調 [外][内] 胎土 焼成
-	10	64	18- 水田層	飯蛸壺	[2.1] [2.8] [2.4]	[外] 手打 [内] -	[外] 10YR7/2 にぶい黄橙 [内] - 普: 1 mm 以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒 良
-	10	65	18- 水田層	飯蛸壺	[3.2] [3.1] [2.9]	[外] 手打・指頭圧痕・ 指打 [内] 手打 ?	[外] 7.5YR8/4 浅黄橙 [内] 10YR8/3 淡黄橙 普: 1 mm 以下の石英・長石・赤色粒 良
68	10	66	18- 水田層	飯蛸壺	[5.3] [4.7] [4.4]	[外] 手打・指頭圧痕 [内] 手打・少々?	[外] 7.5YR6/4 にぶい椎 [内] - 普: 2 mm 以下の石英・長石多量・角閃石少量 良好
-	10	67	18- 水田層	土鍤	[3.8] 2.4 1.9	穿孔 1ヶ所、工具痕? ら しきもの有り [外] 手打 [内] -	[外] 10YR8/1 灰白 [内] - 普: 1 mm 以下の石英・長石・赤色粒 良
68	10	82	16- 水田層	飯蛸壺	[4.3] [3.6] [3.7]	[外] 手打・指頭圧痕 [内] 手打・指頭圧痕	[外] 10YR7/3 にぶい黄橙 [内] 10YR7/3 にぶい黄橙 粗: 6 mm 以下の長石・石英 良
68	12	110	18- 洪水砂層	土鍤	3.9 1.3 1.3	穿孔直徑 3 mm ほぼ円真 孔: 手打 [内] -	[外] 7.5YR8/4 浅黄橙 [内] 7.5YR6/4 にぶい椎 普: 3 mm 以下の石英・長石・赤色粒 良
68	12	111	9- 洪水砂層	土鍤	2.8 1.0 0.9	[外] 手打 [内] -	[外] 10YR7/2 にぶい黄橙 [内] 7.5YR6/4 にぶい椎 普: 2 mm 以下の長石・砂粒 良
68	12	112	13- 洪水砂層	管状土鍤	[2.9] 1.2 1.1	[外] 手打 [内] -	[外] 7.5YR7/4 にぶい椎 [内] - やや粗 良
68	20	150	4-SD1/ 上層	飯蛸壺	6.7 5.2 5.1	地成後穿孔 [外] 手打・指頭圧痕 [内] -	[外] 10YR7/4 にぶい黄橙 [内] - 普: 4 mm 以下の石英・長石多量 良
68	30	244	12-SD2	土鍤	4.5 1.1 0.85	[外] 手打 [内] -	[外] 褐灰 10YR4/1 [内] - 普: 良
68	41	343	13-SD2/ 中層 砂礫層	土鍤	6.1 2.5 2.3	外面: 黑斑あり [外] 手打 [内] -	[外] 2.5Y7/2 灰黄 [内] - 粗: 1.5 mm 以下の長石・石英 良
68	41	344	13-SD2/ 中層 砂礫層	飯蛸壺	5.2 5.2 5.2	[外] 手打 [内] 手打	[外] 10YR7/3 にぶい黄橙 [内] 2.5Y7/3 浅黄 普: 4 mm の長石・2 mm 以下の石英・長石 良

表 29 金属製品・鉄製品観察表

図版番号	捲回番号	遺物番号	遺構／層位名	種類 器種 (部位)	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	備考
70	11	98	18- 水田層	鉄製品 不明	[4.7]	0.75	0.4	2.8	
70	12	116	2- 洪水砂層	鉄製品 不明	[7.85]	0.8	0.7	9.3	上部: 一部剥離
70	30	246	12-SD2	鉄製品 釘頭(釘頭~胴部)	[9.15]	1.85	0.8	36.1	胴部: 一部に木質 残存
巻頭 2	97	405	10-SX3	青銅器 小型仿製鏡	6.1	6.0	1.5	-	圓鏡内区: 珠文、 外区: 極面
70	172	488	13- 掘乱	金属製品 錢貨	2.25	2.25	0.1	1.7	寃永通宝
70	172	489	13- 掘乱 中央部列群	金属製品 錢貨	2.45	2.45	0.1	2.6	乾隆通宝

表 30 瓦観察表

図版番号	押印番号	遺物番号	遺構／層位名	器種	長さ 幅 厚さ (cm)	形態の特徴 手法の特徴 [凸][凹]	色調 [凸][凹][断] 胎土 焼成
-	37	258	13-SD3 アゼA以北	丸瓦	[7.6] [4.8] 1.75	[凸]ナギ (マツ) [凹]外斜	[凸]NS/0灰 [凹]NS/0灰 [断]NS/0灰 粗-2mm以下の石英・長石・黒色粒 良好
-	37	259	13-SD3 アゼA以北	布目丸瓦	[7.5] [5.2] 2.5	[凸]ナギ (マツ) [凹]布目	[凸]7.5YR6/4にぶい橙 [凹]7.5YR6/4にぶい橙 [断]7.5YR6/4にぶい橙 粗-3mm以下の石英・長石・黒色粒・赤 色粒 良好
68	39	292	13-SD2/ 上層	布目丸瓦	[18.2] [14.5] 2.0	外面:付着物 [凸]ナギ [凹]ゴキ A- 布目	[凸]2.5YB/1灰白 [凹]2.5YB/1灰白 [断]2.5YB/1灰白 粗-3mm以下の石英・長石・黒色粒 良好
68	52	381	4-SK3	布目平瓦	[6.25] [6.2] 2.2	[凸]ナギ [凹]布目	[凸]2.5Y7/1灰白 [凹]10YR4/3にぶい黄褐 [断]2.5Y7/1灰白 粗-良好

表 31 木製品観察表

図版番号	押印番号	遺物番号	遺構／層位名	種類 機種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	樹種	備考
71	17	140	3-SD13/ ラミナ層中	木製品 不明	14.1	5.9	4.1		
71	17	141	3-SD13/ ラミナ層中	木製品 不明	3.4	2.3	1.6		
71	17	142	3-SD13/ 最下層	木製品 不明	19.65	2.5	2.0		
71	20	151	4-SD1/ 上層	木製品 不明	9.8	9.4	2.2		
71	20	152	4-SD1/ 上層	木製品 不明	9.8	5.1	1.3		側面に切り込み 1カ所
71	22	166	7-SD1	木製品 不明	9.9	3.4	1.6		全体的に焦げている
71	27	201	9-SD80/ 下層	木製品 不明	24.1	3.1	1.5	カヤ	両端に軸方向の亀裂あり
71	27	202	9-SD80/ 下層	木製品 不明	13.75	1.8	1.45	ヒノキ科	端部及び側部の一部に炭化あり
71	27	203	9-SD80	木製品 不明	8.7	2.65	2.1		
-	27	204	9-SD80/ 下層	木製品 不明	9.2	1.6	0.6	ヒノキ科	
71	27	205	9-SD80/ 下層	木製品 不明	3.8	2.3	1.0		幅広の工具痕と幅狭の工具痕
71	27	206	9-SD80/ 出土層位不明	木製品 杭	57.3	5.4	6.1	カヤ	杭先の一部で表面がやや劣化
71	41	345	13-SD2/ 中層	木製品 不明	15.4	1.6	1.6		
71	42	351	13-SD2/ 最下層 セクA以北	木製品 不明	16.3	5.9	2.2		
71	42	352	13-SD2/ 最下層 セクA以北	木製品 不明	14.0	3.7	1.5		
71	44	370	13-SD2	木製品 不明	15.9	4.0	1.7		一部炭化あり

表32 石器・石製品觀察表 (1)

図版 番号	地図 番号	遺物 番号	遺構／層位名	種類 器種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	石材	備考
69	11	83	5- 水田層	石器 石鏃	2.00	1.50	0.25	0.60	サメカト	平基式
69	11	84	16- 水田層	石器 石鏃	1.90	1.55	0.25	0.60	サメカト	凹基式
69	11	85	18- 水田層	石器 石鏃	[2.0]	[1.45]	0.30	0.50	サメカト	凹基式
69	11	86	18- 水田層	石器 石鏃	2.35	1.40	0.30	0.80	サメカト	凹基式
69	11	87	10- 水田層	石器 石鏃	4.05	1.70	0.55	3.10	サメカト	
70	11	88	20- 水田層	石器 石鏃	[1.7]	[1.3]	0.30	0.60	サメカト	
-	11	89	18- 水田層	石器 二次加工ある剥片	3.00	2.80	0.40	4.00	サメカト	
-	11	90	18- 水田層	石器 二次加工ある剥片	2.60	3.85	0.70	6.30	サメカト	
-	11	91	18- 水田層	石器 二次加工ある剥片	3.00	5.00	0.75	13.20	サメカト	
69	11	92	2- 水田層 南東側	石器 スレバ-	5.60	4.60	0.65	14.30	サメカト	
69	11	93	2- 水田層 北側	石器 スレバ-	6.20	11.60	1.30	99.70	サメカト	
69	11	94	18- 水田層	石器 スレバ-	4.40	7.15	0.80	26.00	サメカト	
69	11	95	12- 水田層	石器 打製石斧	[6.6]	5.00	1.50	64.00	サメカト	
69	11	96	18- 水田層	石器 打製石斧	[5.8]	5.30	1.55	58.00	サメカト	
-	11	97	12- 水田層 西側	石器 使用痕ある剥片	2.00	3.10	0.45	2.80	サメカト	打製石斧の剥片？
70	12	113	2- 洪水砂層	石器 火打石	1.40	1.40	0.60	1.10	チャート	緑灰色
70	12	114	13- 洪水砂層	石製品 火打石	2.30	1.50	1.30	4.30	チャート	青灰色
70	12	115	18- 洪水砂層	石製品 火打石	2.30	1.80	0.75	2.50	チャート	緑灰色
-	30	245	12-SD2	石器 微細側離痕ある剥片	3.60	5.50	0.60	8.25	サメカト	
69	36	254	13-SD3/ 最下層	石器 スレバ-?	3.60	4.40	0.90	15.50	サメカト	
69	36	255	13-SD3/ 最下層	石器 尖頭器	[7.35]	4.05	1.50	60.80	サメカト	裏面：鉄錆？付着
69	42	350	13-SD2/ 最下層	石器 打製石斧	[7.8]	6.60	1.70	103.60	サメカト	
70	43	357	13-SD4/ 下層	石製品 砥石	5.85	4.60	3.00	103.90	流紋岩	
69	50	374	14-SD1	石器 スレバ-	4.80	7.10	0.75	32.00	サメカト	
69	58	385	1-SD12	石器 打製石斧	[5.5]	[4.1]	[1.6]	29.10	サメカト	
69	58	386	1-SD12/ 下層	石器 スレバ-	6.00	3.40	0.70	15.60	サメカト	
69	66	391	2-SK22	石器 スレバ-	6.65	4.80	0.75	26.10	サメカト	
69	66	392	2-SD20	石器 スレバ-	4.50	9.75	1.30	51.10	サメカト	
69	67	394	2- 包含層 (一段落し)	石器 石鏃	2.25	[1.6]	0.25	0.60	サメカト	凹基式

表 33 石器・石製品観察表（2）

図版番号	地図番号	遺物番号	造構／層位名	種類 器種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	石材	備考
69	90	402	5- 精査	石器 石鎌	2.90	1.70	0.26	1.10	サメト	凹基式
70	90	403	9- 重機掘削	石製品 火打石	1.70	2.60	1.40	6.60	チャート	青灰色
70	90	404	15- 近世①堆土坑	石製品 火打石	1.75	1.80	0.60	2.70	チャート	暗緑灰色
-	97	407	10-SX3	石器 二次加工ある剥片	3.20	3.50	0.50	7.40	サメト	
-	99	409	10-SD24	石器 使用痕ある剥片	3.30	2.20	0.50	4.00	サメト	打製石斧の剥片？
69	104	424	14-SD7	石器 打製石庖丁	5.05	10.05	0.70	65.60	安山岩	
69	117	439	14-SD6	石器 石錐	5.15	3.05	1.10	18.30	サメト	
69	117	440	14-SD6	石器 スクリバー	10.40	2.90	0.90	28.00	サメト	
70	133	461	20-SD10 /最下層	石器 たたき石	12.30	6.30	3.30	241.10	砂岩	
70	133	464	20-SD7	石器 剥片	[3.5]	[5.6]	[1.0]	16.10	サメト	打製石斧の剥片？
69	141	470	11-SD5 /中ブロック	石器 スクリバー	3.75	3.80	0.75	14.20	サメト	
-	141	471	12-SD5	石器 2次加工ある剥片	3.70	3.70	0.60	9.30	サメト	
69	141	475	12-SD6 /上層と下層の境	石器 スクリバー	5.00	4.70	0.98	25.40	サメト	
69	155	479	16-SX4 アゼ以東	石器 石鎌	2.00	1.50	0.30	0.60	サメト	凹基式
69	155	480	16-SK45	石器 石鎌	2.10	1.25	0.30	0.70	サメト	平基式
69	155	481	17-SK65	石器 石鎌	2.00	1.65	0.35	1.00	サメト	平基式
69	160	482	18-101 流路	石器 打製石斧	[6.35]	5.90	1.70	77.30	サメト	
69	160	483	18-101 流路清掃中	石器 楔形石器	4.50	4.30	1.10	27.90	サメト	
69	160	484	18-101 流路	石器 楔形石器	5.50	7.75	1.80	66.30	サメト	
69	160	485	18-101 流路	石器 楔形石器	4.80	4.65	1.00	30.50	サメト	
69	172	490	13- 包含層 南西側	石器 石鎌	1.85	1.45	0.25	0.60	サメト	平基式
69	172	491	18- 包含層	石器 石鎌	[1.85]	(0.7)	0.25	0.30	サメト	凹基式
70	172	492	10- 精査 10-SX36 周辺	石製品 火打石	2.25	1.90	0.65	2.50	チャート	緑灰色
69	172	493	18- 包含層	石器 打製石斧	8.20	4.30	1.30	50.40	サメト	
69	172	494	17- 包含層	石器 打製石斧	6.30	5.60	1.20	64.90	サメト	

表 34 品・骨類観察表

図版 番号	神園 番号	遺物 番号	遺構／層位名	種類
71	-	495	18- 洪水砂	貝（巻貝）
71	-	496	9-SD80/ 上層	骨
71	-	497	12-SD1/ 洪水砂	骨
71	-	498	13-SD1	骨
71	-	499	13-SD1・3/ 上層 洪水層	骨
71	-	500	13-SD2/ 最下層 セクA以北	骨
71	-	501	13-SD3 アゼA以北	骨